

V ドメスティック・バイオレンス (DV) 等

1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

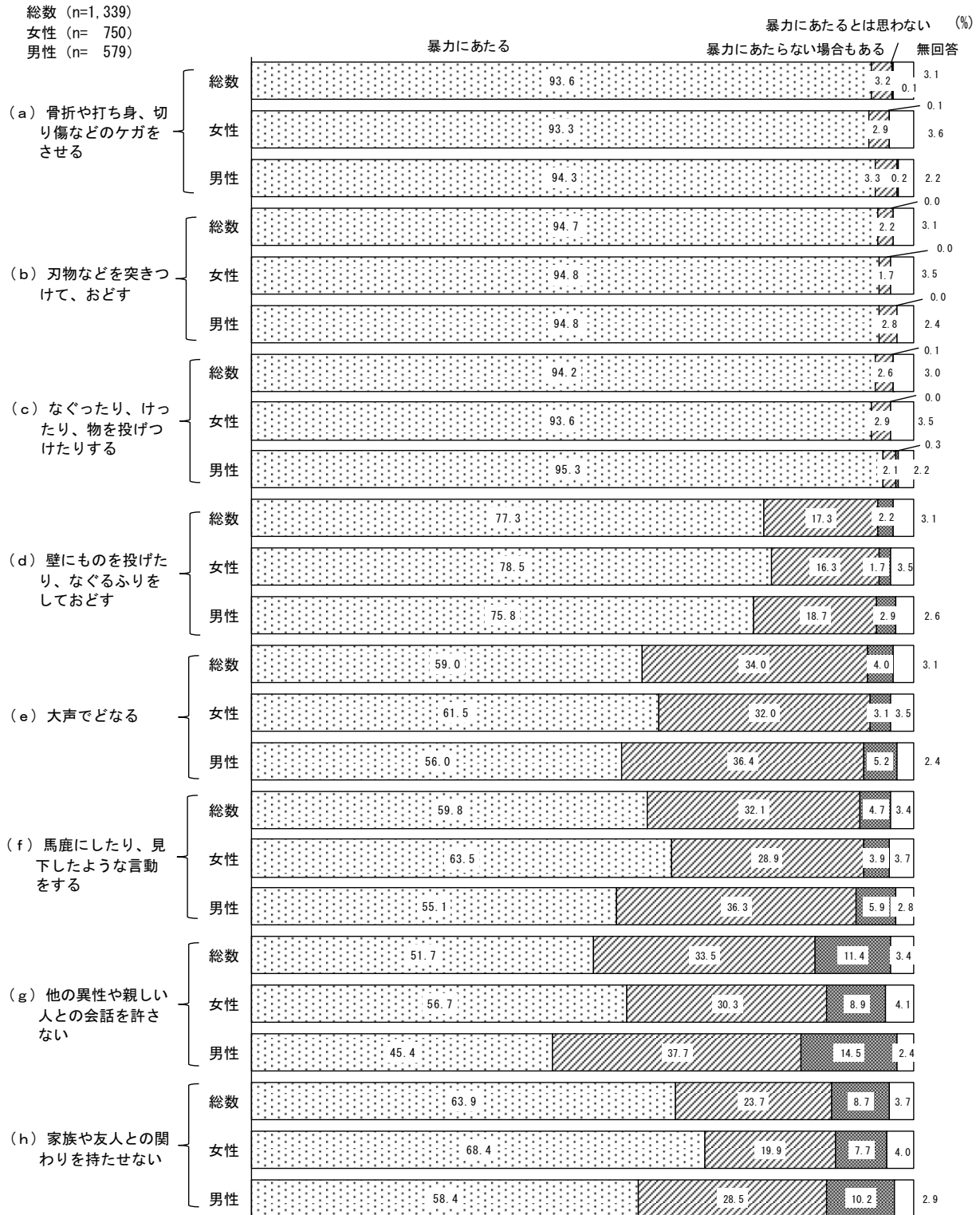
問19 次の(a)～(o)のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(○はそれぞれ1つずつ)

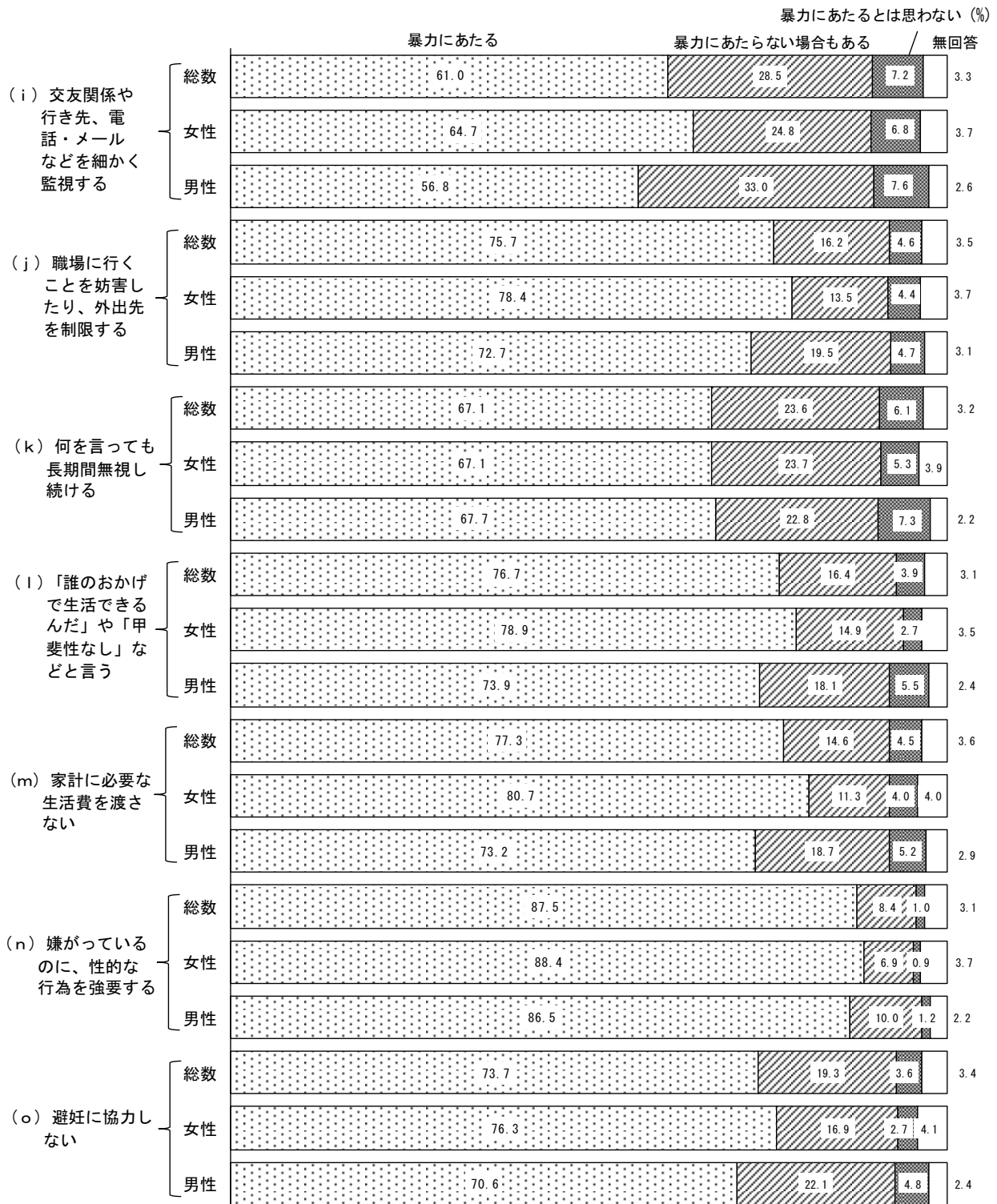
「暴力にあたる」と思うと答えた人を多い順に見ていくと、“(b)刃物などを突きつけて、おどす”(女性94.8%、男性94.8%、全体94.7%)が最も多く、次いで“(c)なぐったり、けったり、物を投げつけたりする”(女性93.6%、男性95.3%、全体94.2%)、“(a)骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる”(女性93.3%、男性94.3%、全体93.6%)が9割以上となっており、続いて“(n)嫌がっているのに、性的な行為を強要する”(女性88.4%、男性86.5%、全体87.5%)、“(d)壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす”(女性78.5%、男性75.8%、全体77.3%)、“(m)家計に必要な生活費を渡さない”(女性80.7%、男性73.2%、全体77.3%)、“(l)「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う”(女性78.9%、男性73.9%、全体76.7%)、“(j)職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”(女性78.4%、男性72.7%、全体75.7%)、“(o)避妊に協力しない”(女性76.3%、男性70.6%、全体73.7%)の順となった。

“(g)他の異性や親しい人との会話を許さない”、“(e)大声でどなる”、“(f)馬鹿にしたり、見下したような言動をする”は、「暴力にあたる」と思う人の割合は少なくなっている。

男女を比較すると、大半の項目で、女性の方が「暴力にあたる」と思う人の割合が多い。

図19-1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為 項目別一覧 (性別)





配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

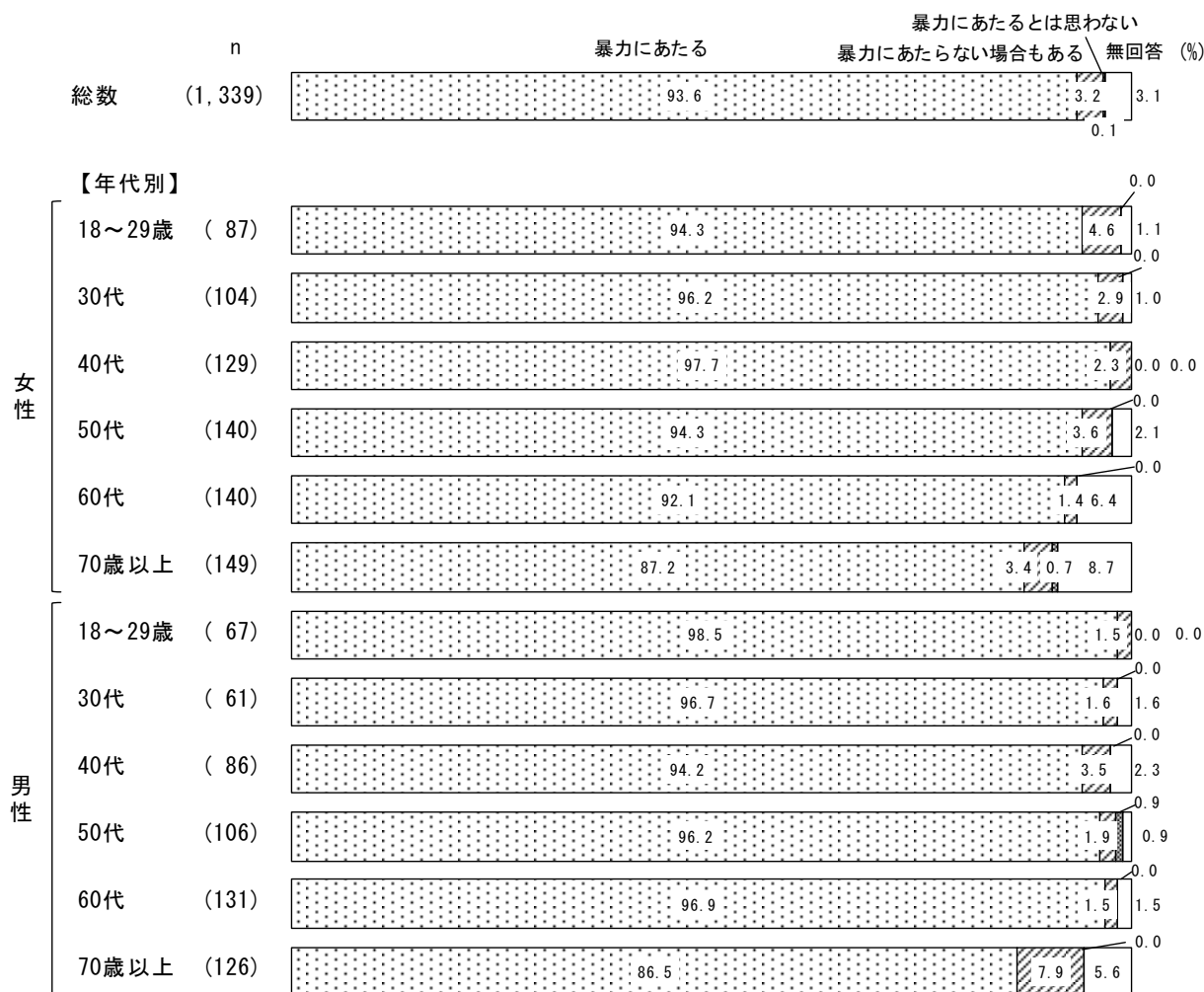
(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる

【年代別】

男女とも、全ての年代で「暴力にあたる」が8割を超えている。

図19-2 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

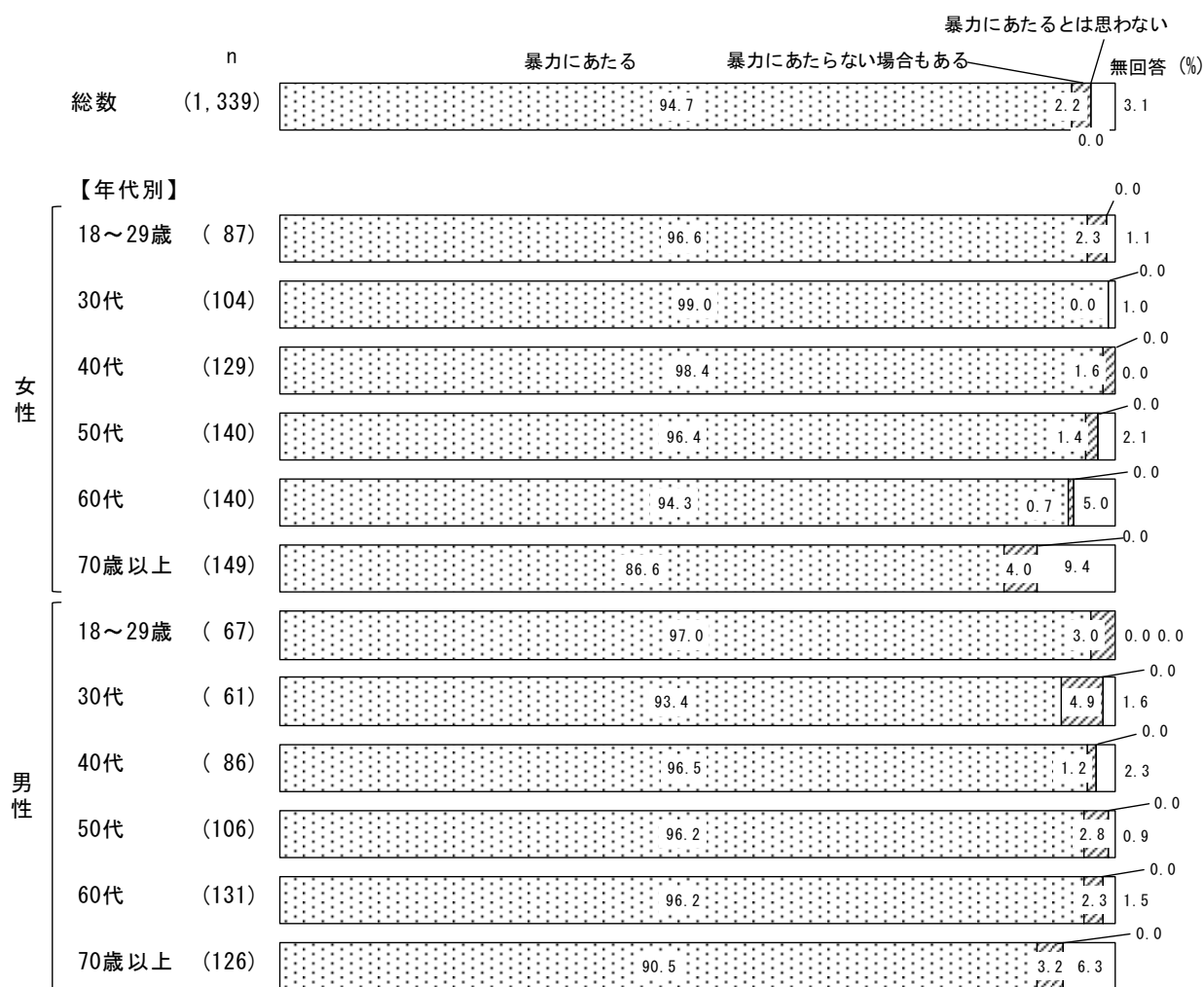
(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる (年代別)



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (b) 刃物などを突きつけて、おどす

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（86.6%）を除く全ての年代で9割を超えている。
 男性では、全ての年代で9割を超えている。

図19-3 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (b) 刃物などを突きつけて、おどす（年代別）

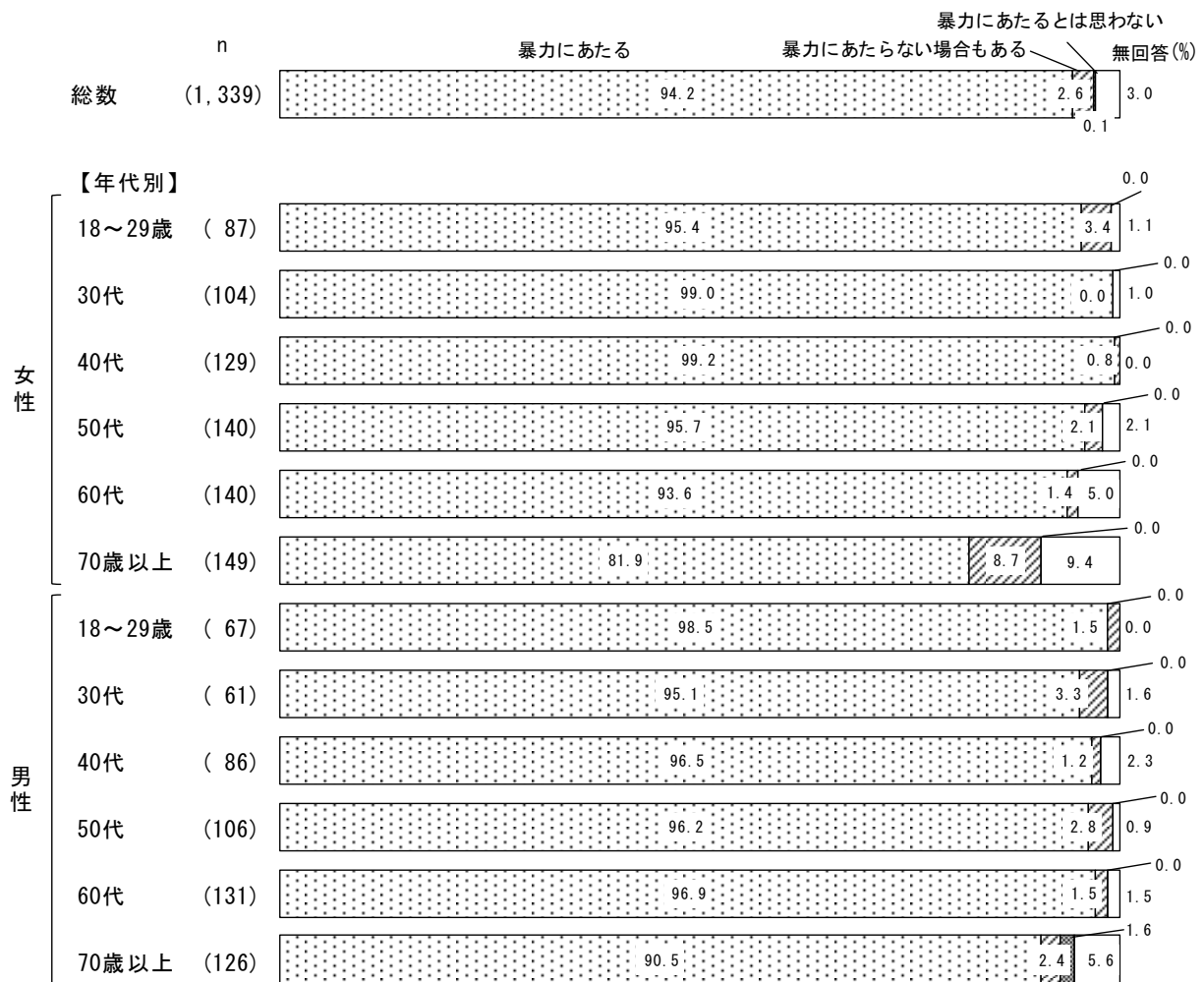


配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (c) なぐったり、けったり、物を投げつけたりする

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（81.9%）を除く全ての年代で9割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は全ての年代で9割を超えている。

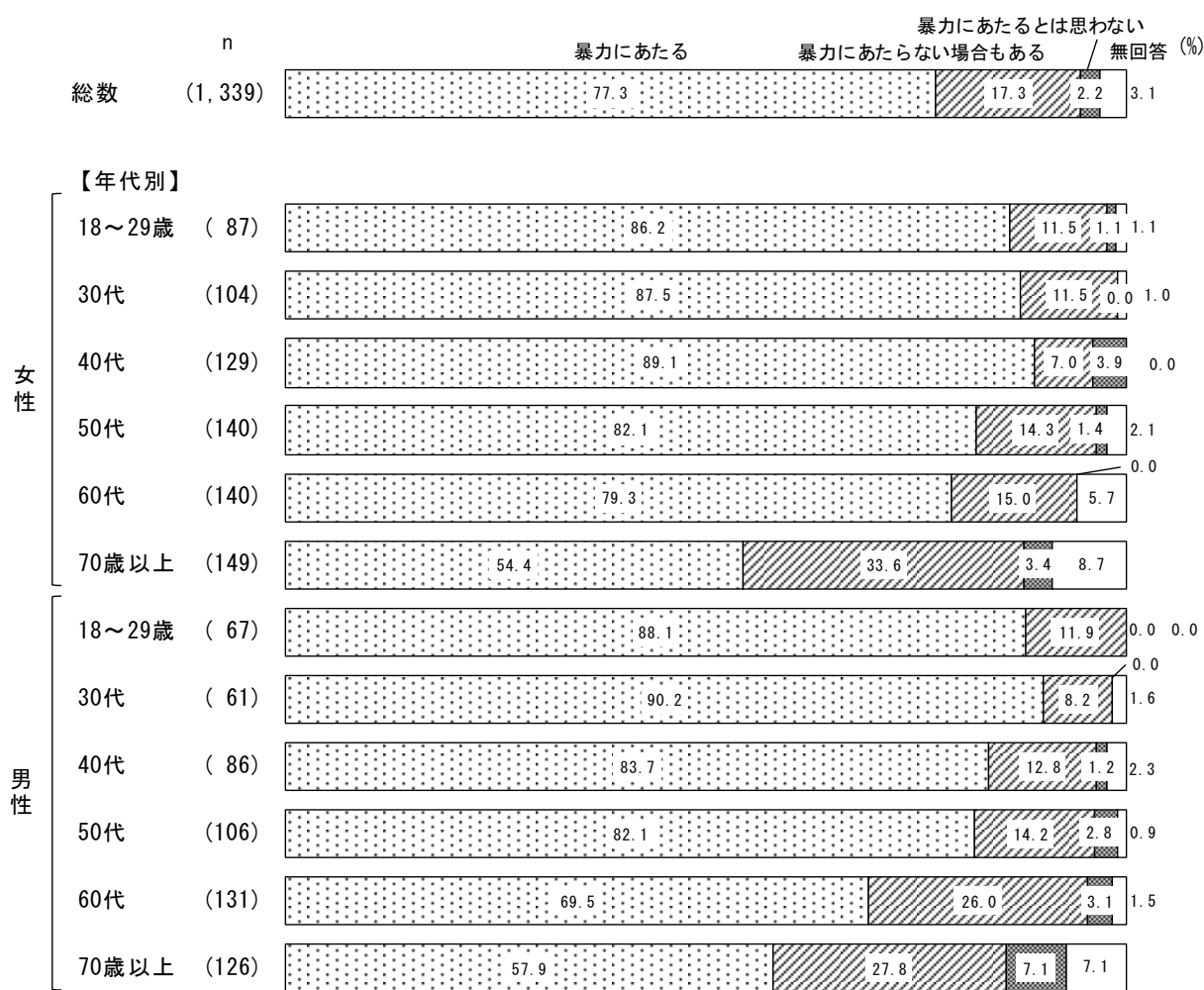
図19-4 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (c) なぐったり、けったり、物を投げつけたりする（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (d) 壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は60代（79.3%）、70歳以上（54.4%）を除く全年代で8割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は60代（69.5%）、70歳以上（57.9%）を除く全年代で8割を超えている。

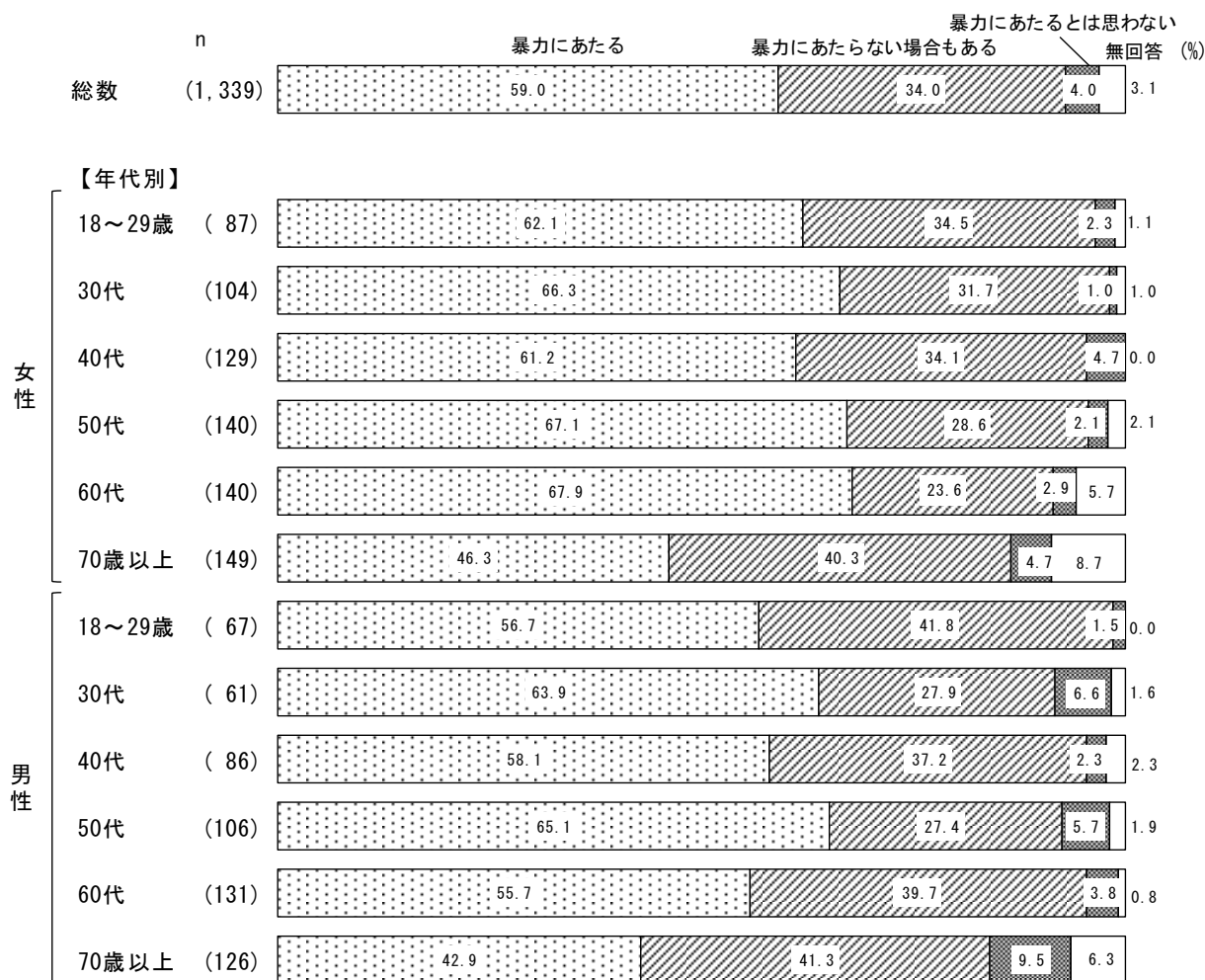
図19-5 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (d) 壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (e) 大声でどなる

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（46.3%）を除く全年代で6割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（42.9%）を除く全年代で5割を超えている。

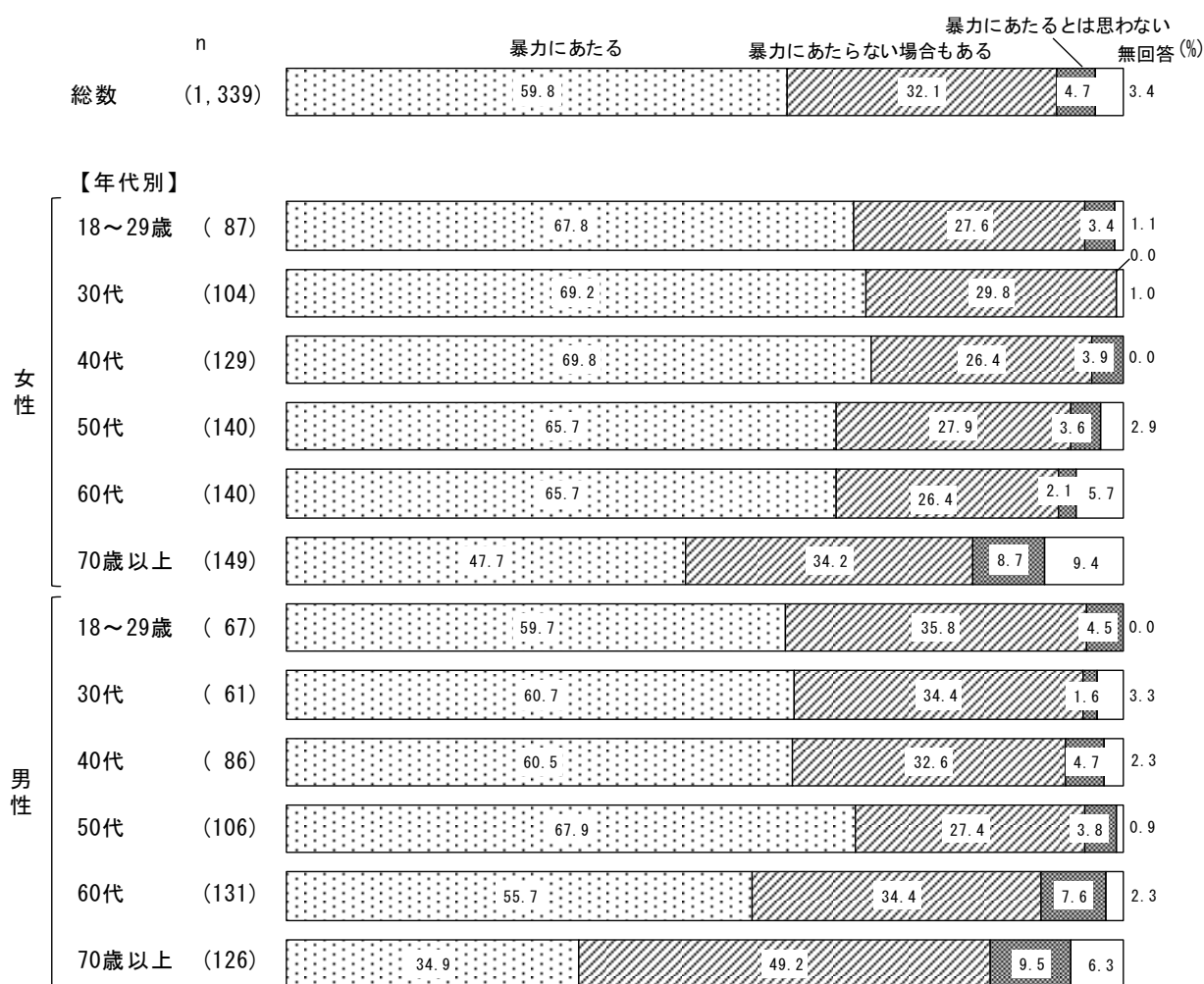
図19-6 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (e) 大声でどなる（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (f) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（47.7%）を除く全年代で6割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（34.9%）を除く全年代で5割を超えている。

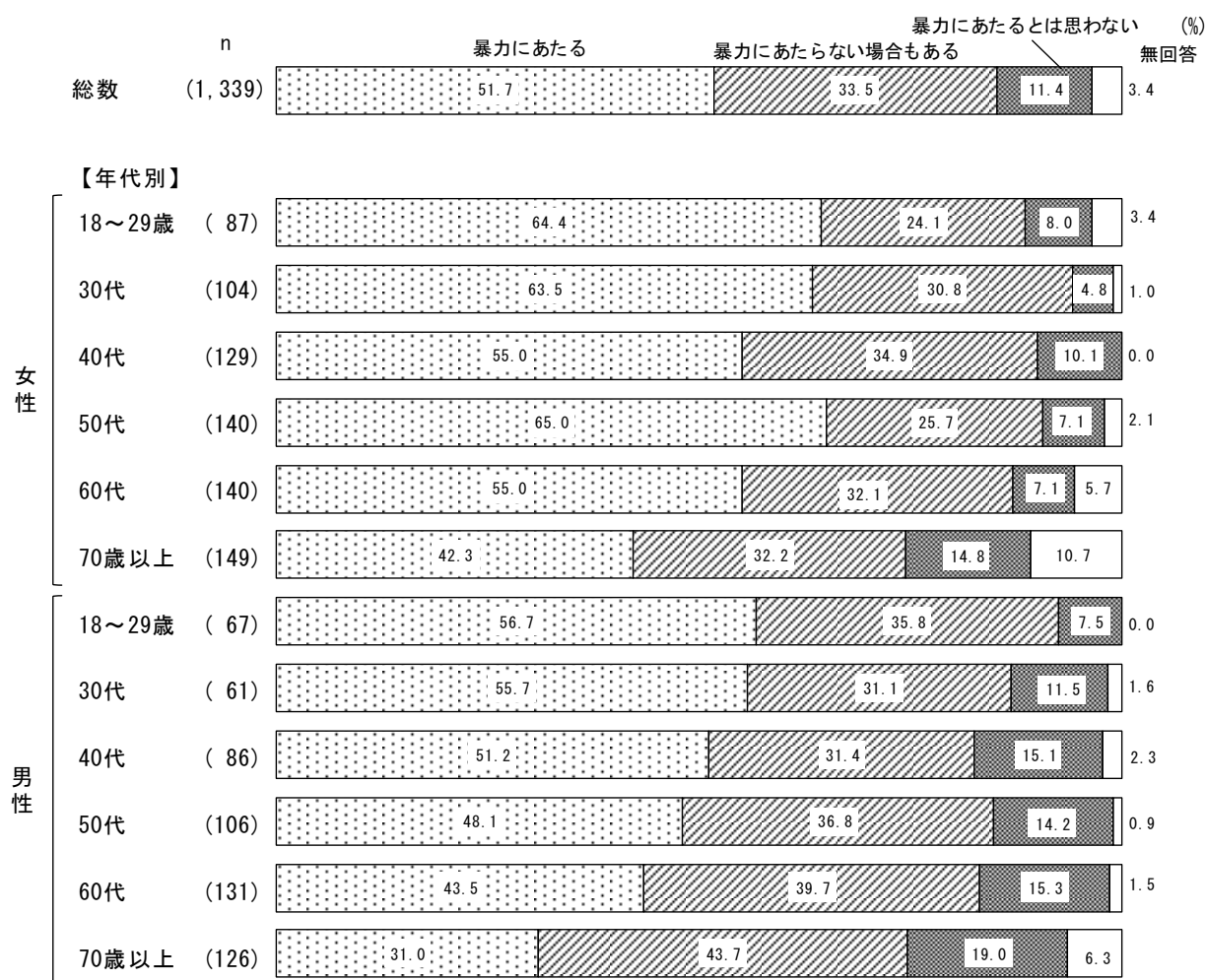
図19-7 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (f) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (g) 他の異性や親しい人との会話を許さない

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（42.3%）を除く全年代で5割を超えている。
 男性では、年代が上がるにつれ、「暴力にあたる」割合は減少している。

図19-8 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (g) 他の異性や親しい人との会話を許さない（年代別）



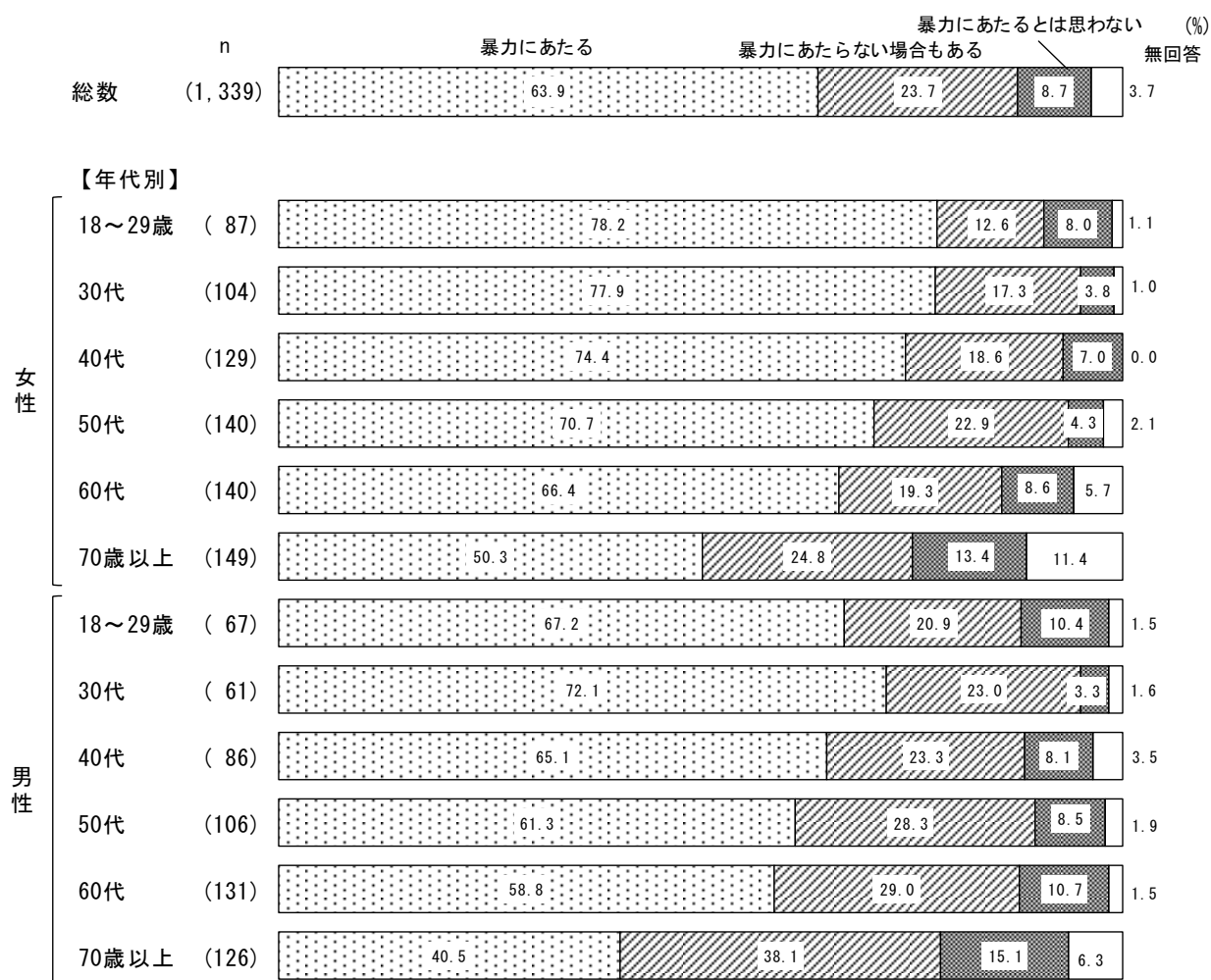
配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (h) 家族や友人との関わりを持たせない

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（50.3%）で最も少ない。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（40.5%）を除く全年代で5割を超えている。

図19-9 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (h) 家族や友人との関わりを持たせない (年代別)



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

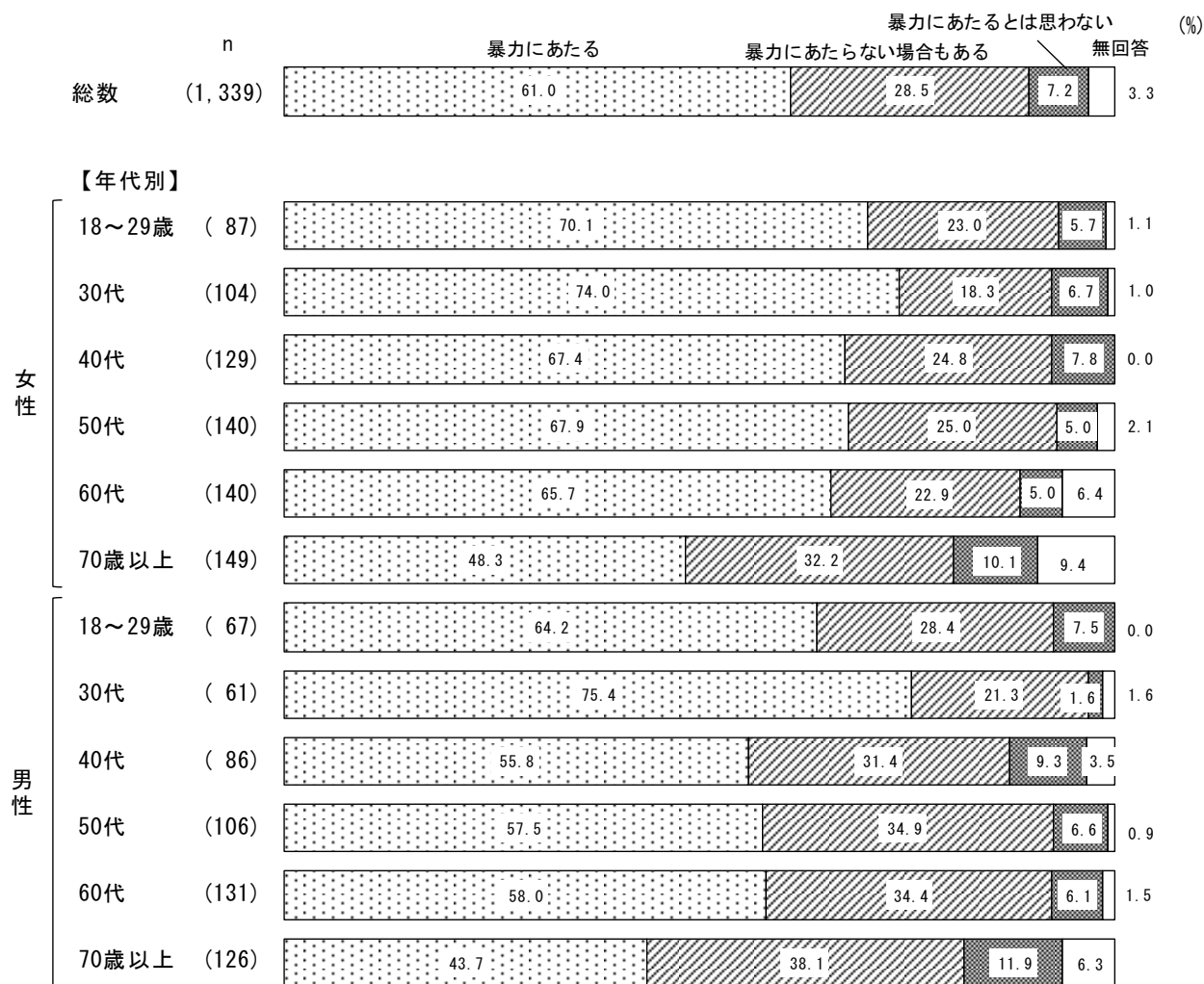
【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（48.3%）で最も少なく、他の年代では6割を超えている。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（43.7%）を除く全年代で5割を超えている。

図19-10 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

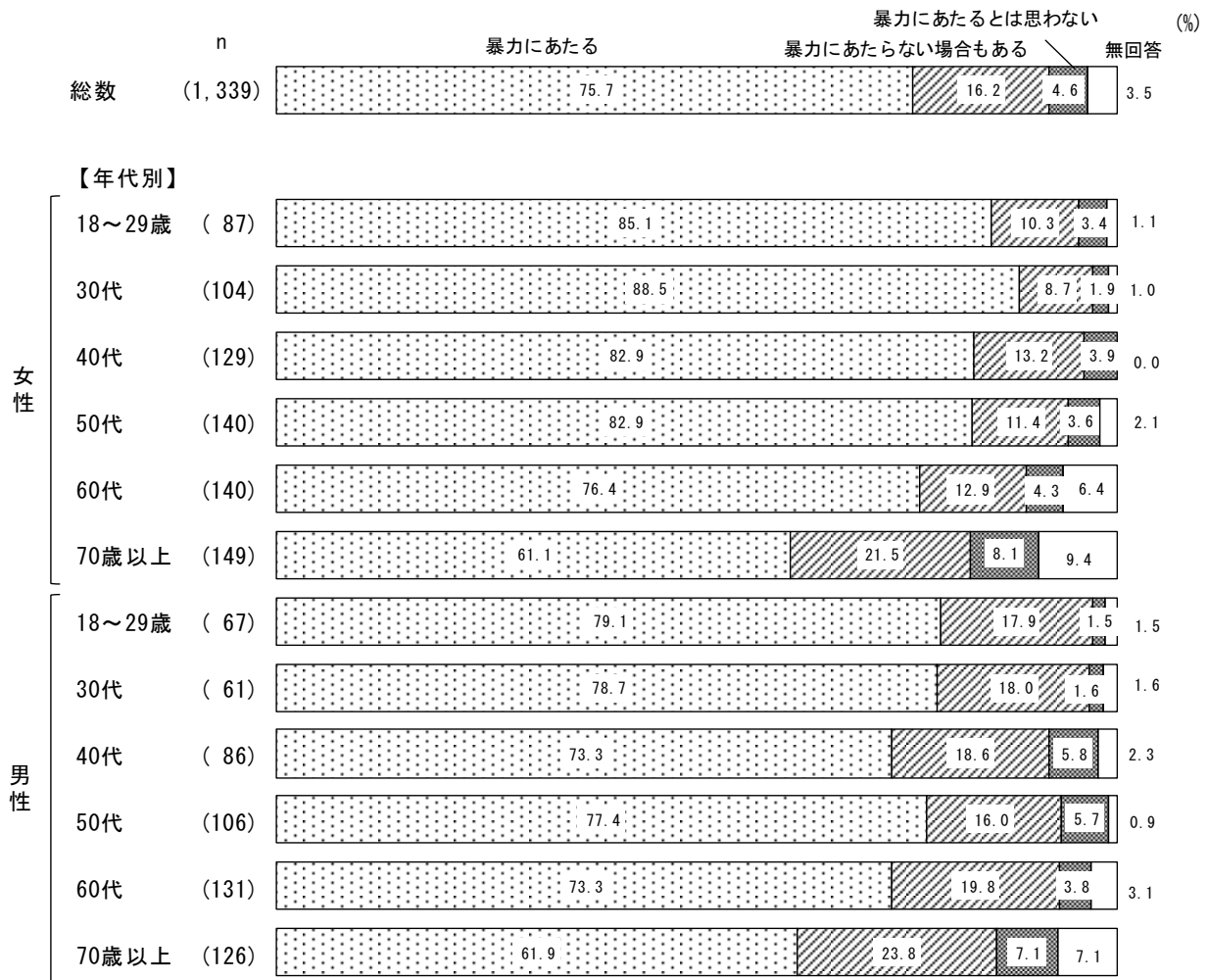
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（61.1%）で最も少なく、他の年代では7割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（61.9%）を除く全年代で7割を超えている。

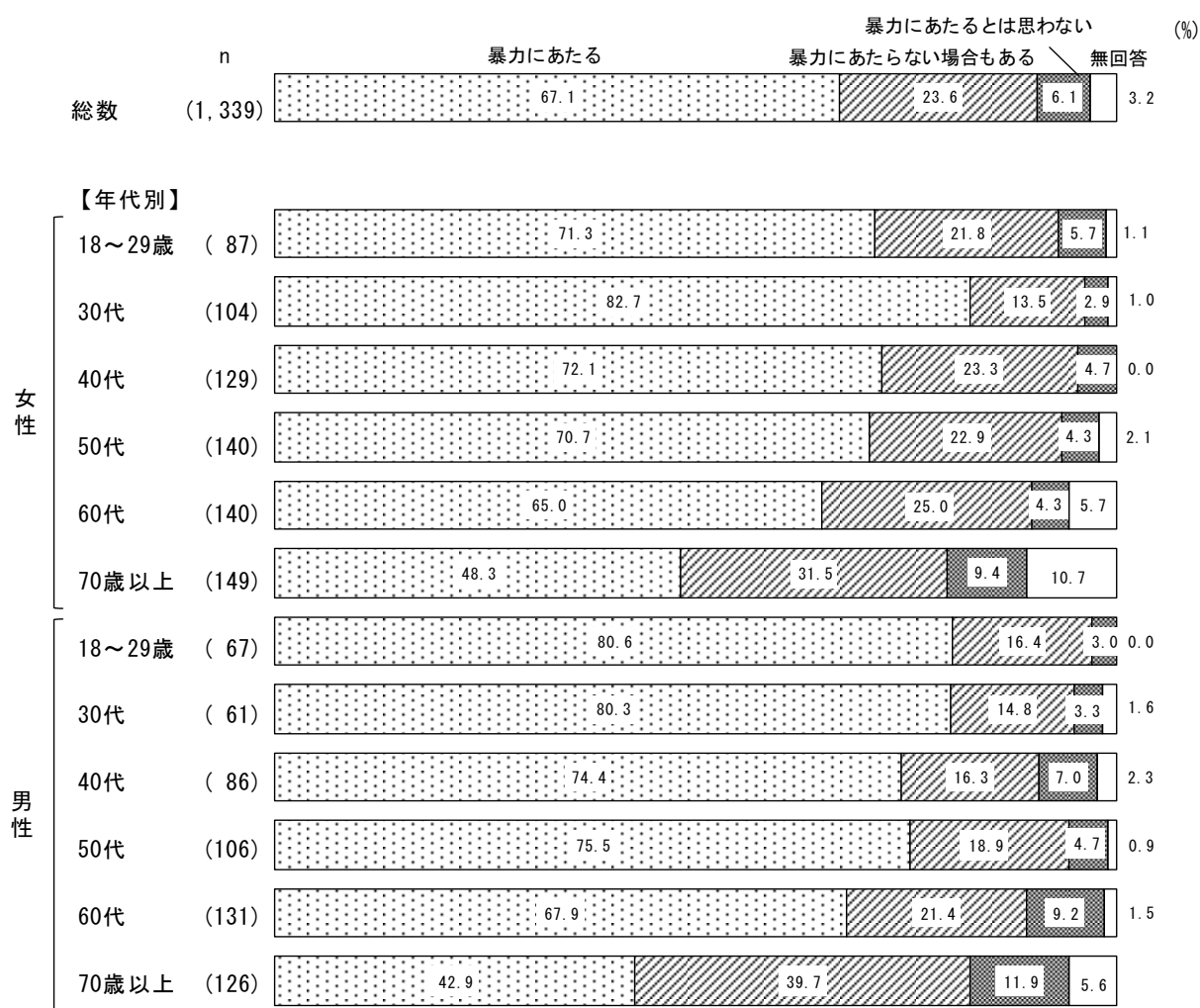
図19-11 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (k) 何を言っても長期間無視し続ける

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（48.3%）で最も少なくなっており、男性でも、「暴力にあたる」は70歳以上で（42.9%）で最も少なくなっている。

図19-12 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (k) 何を言っても長期間無視し続ける（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

(1) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う

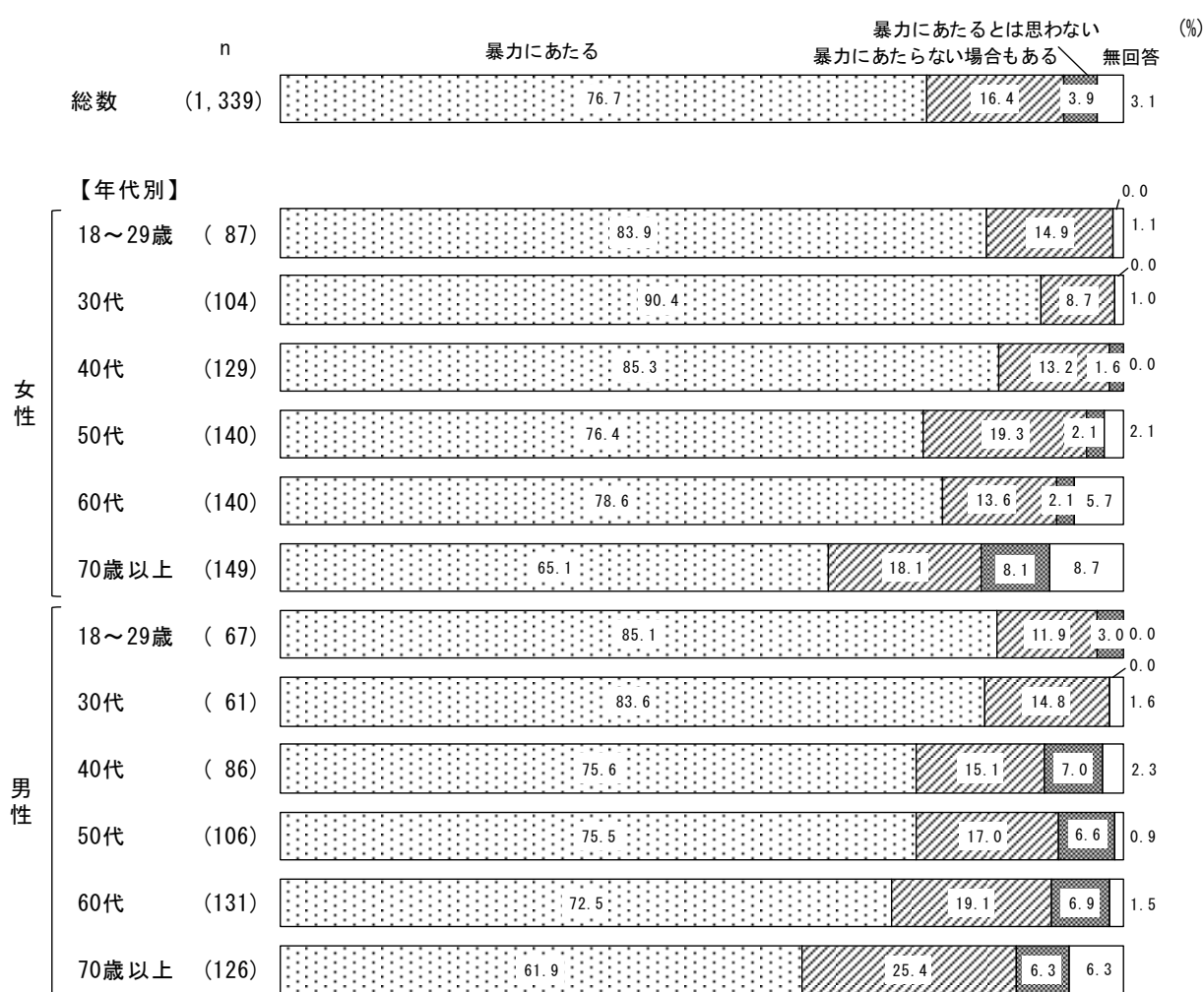
【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（65.1%）で最も少なく、他の年代では7割を超えている。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（61.9%）を除く全年代で7割を超えている。

図19-13 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

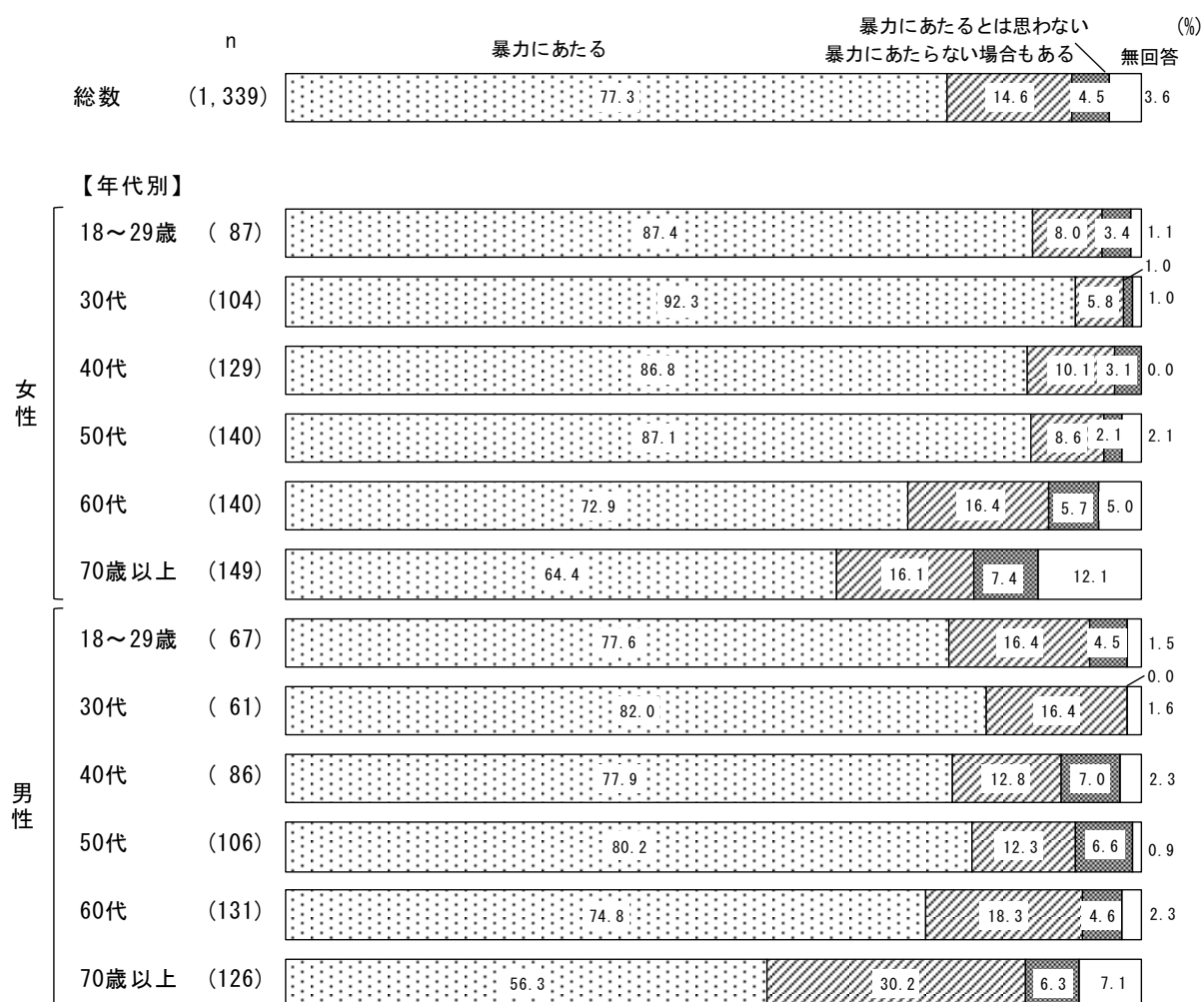
(1) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (m) 家計に必要な生活費を渡さない

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（64.4%）で最も少なく、他の年代では7割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（56.3%）を除く全年代で7割を超えている。

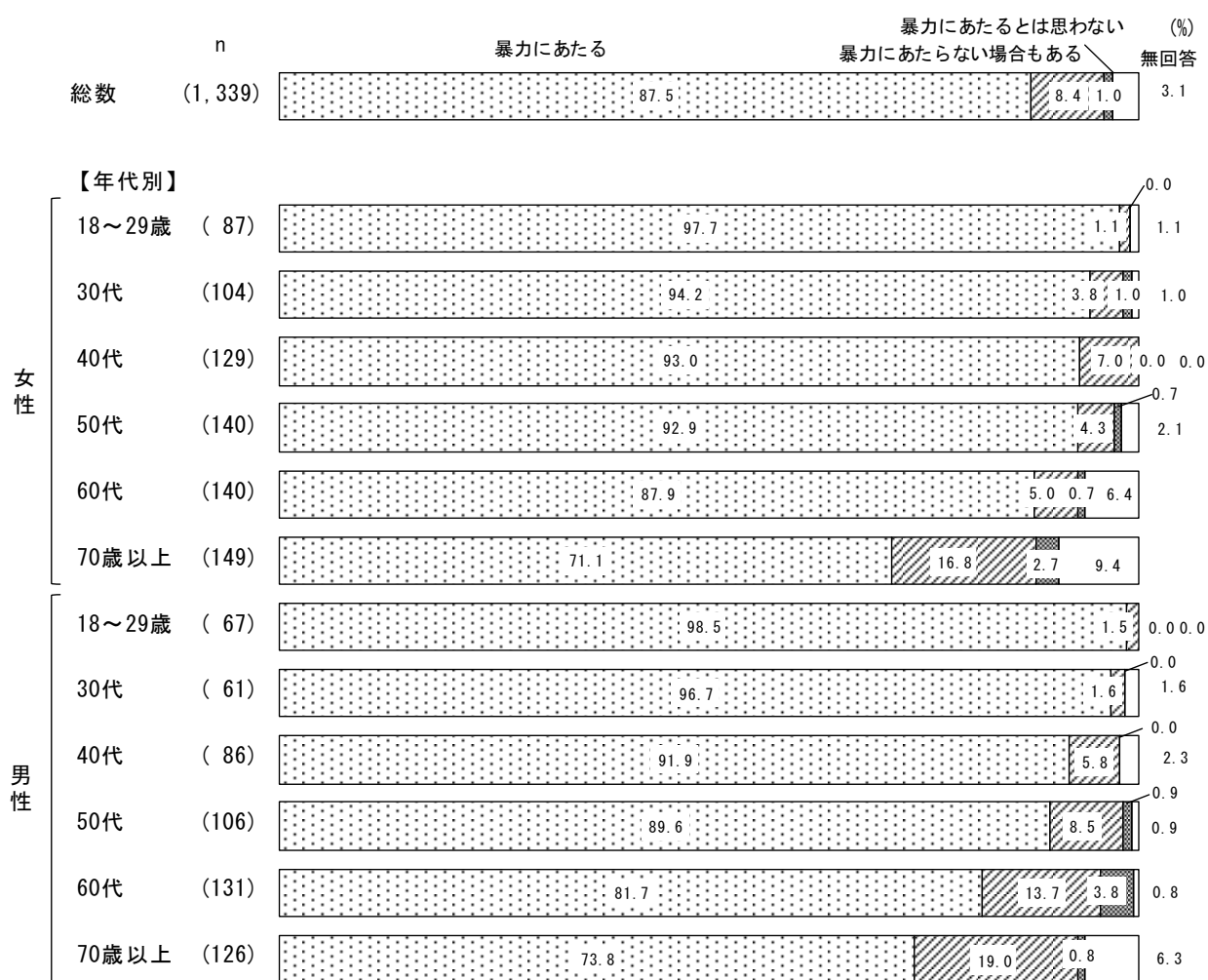
図19-14 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (m) 家計に必要な生活費を渡さない（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（71.1%）で最も少なく、他の年代では8割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（73.8%）を除く全年代で8割を超えている。

図19-15 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

(○) 避妊に協力しない

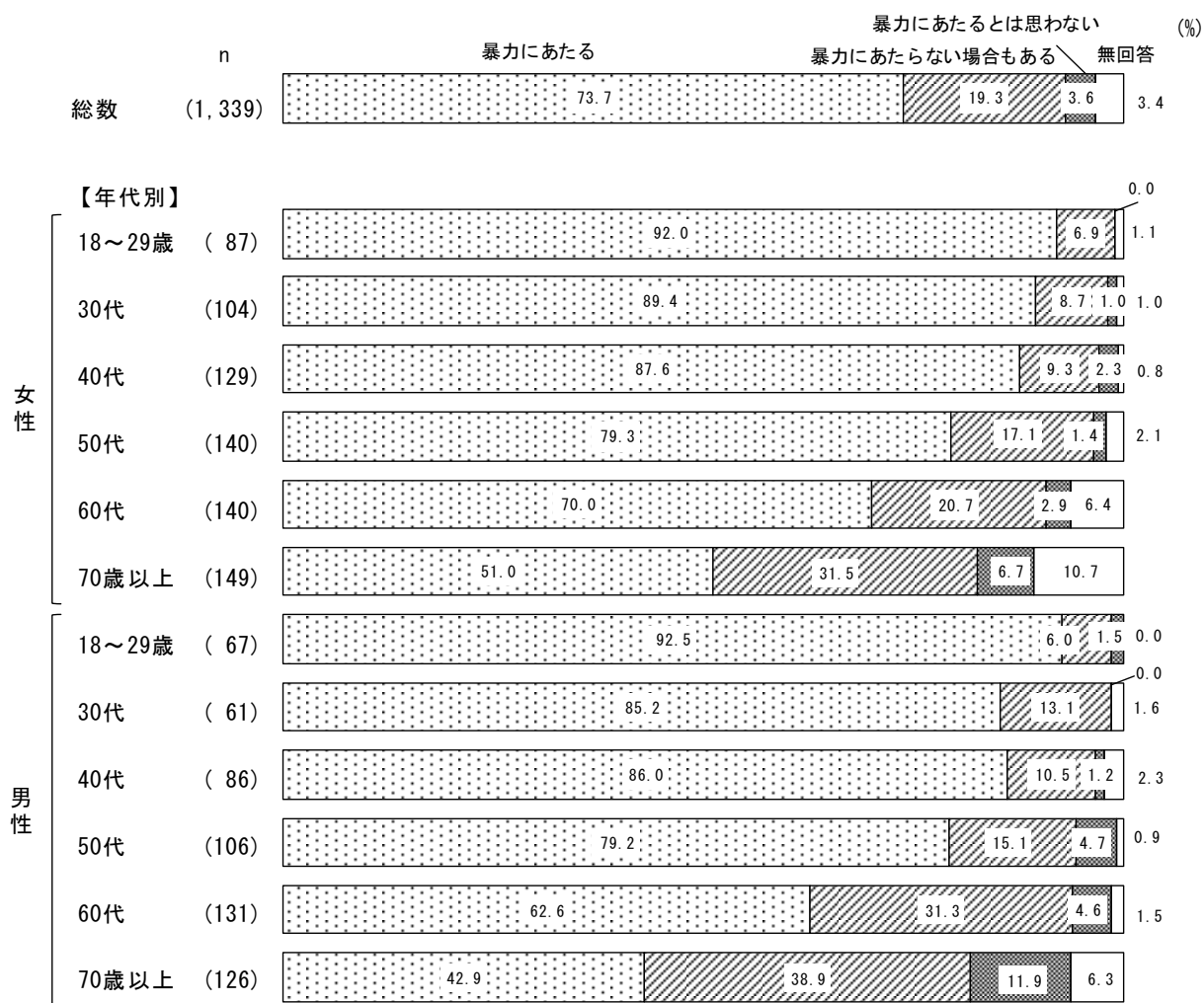
【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（51.0%）で最も少なく、他の年代では7割以上となっている。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（42.9%）が5割以下で最も少なく、それ以外の全年代で6割を超えている。

図19-16 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

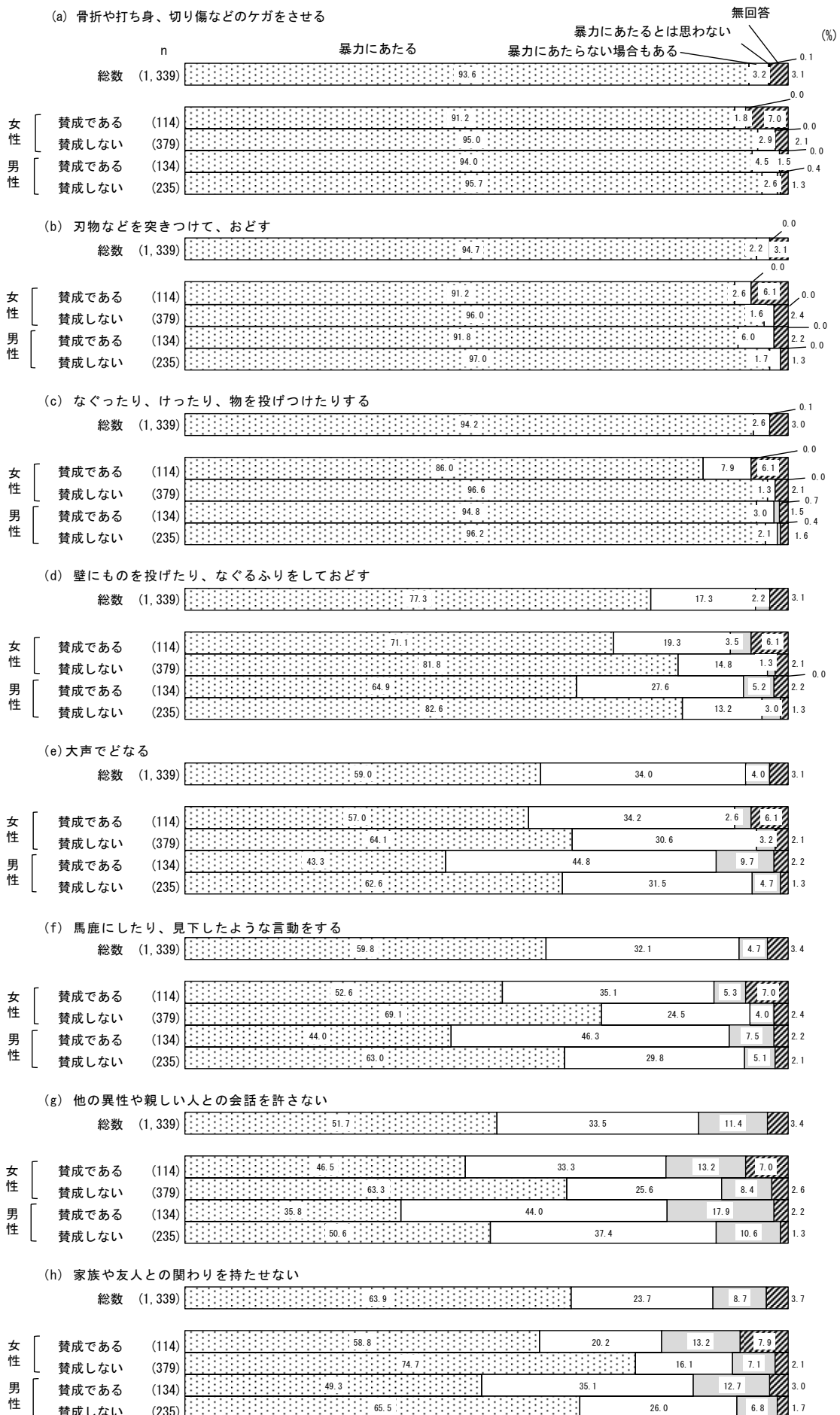
(○) 避妊に協力しない（年代別）



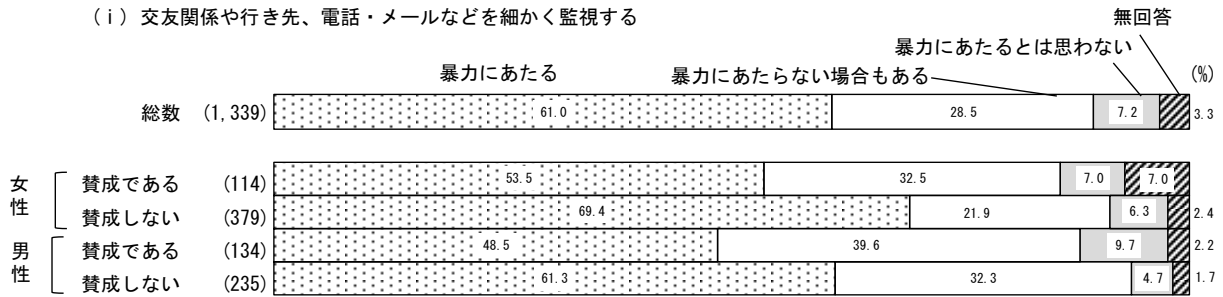
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

賛否別に関わらず、多くの項目で女性が男性より「暴力にあたる」との回答する割合が多くなっている。『賛成しない』と回答した方がより「暴力にあたる」との回答する割合が多くなっている。最も差が大きいのは、女性で“(g)他の異性や親しい人との会話を許さない”であり、『賛成しない』(63.3%)と回答した方が『賛成である』(46.5%)より、16.8ポイント多く、男性では“(o)避妊に協力しない”であり、『賛成しない』(82.1%)と回答した方が『賛成である』(51.5%)より、30.6ポイント多くなっている。

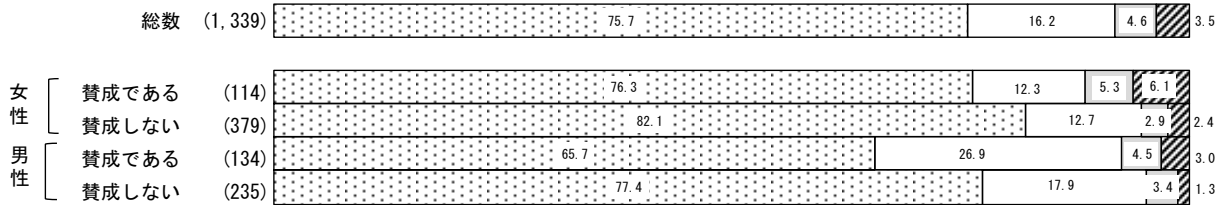
図19-17 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (「男は仕事、女は家庭」への賛否別)



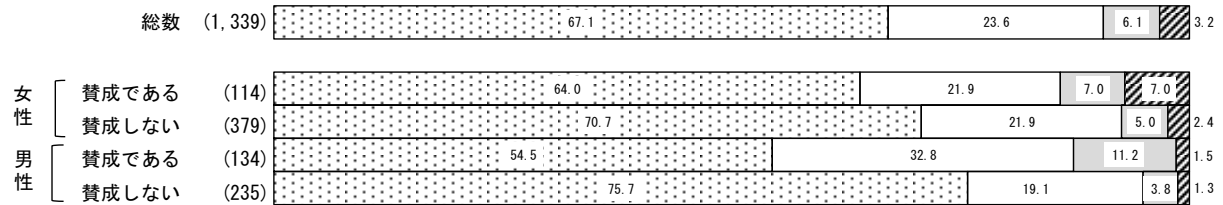
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する



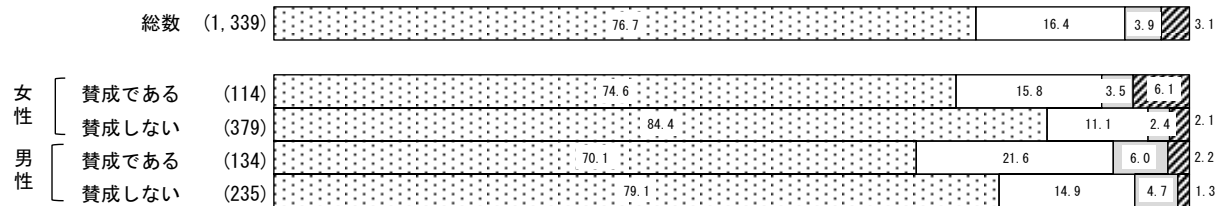
(j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する



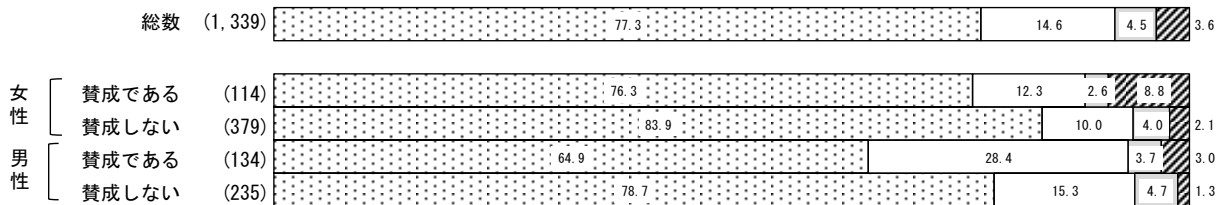
(k) 何を言っても長期間無視し続ける



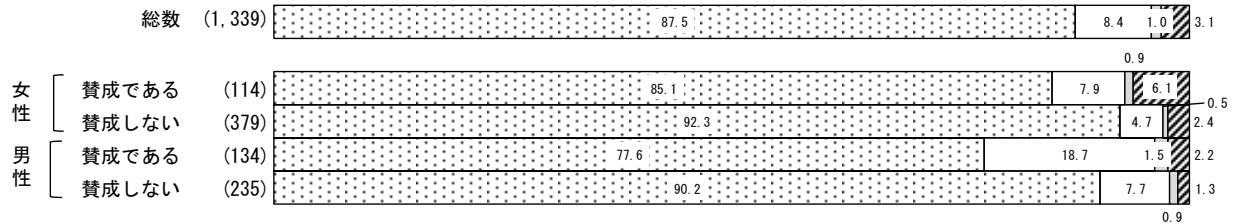
(l) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う



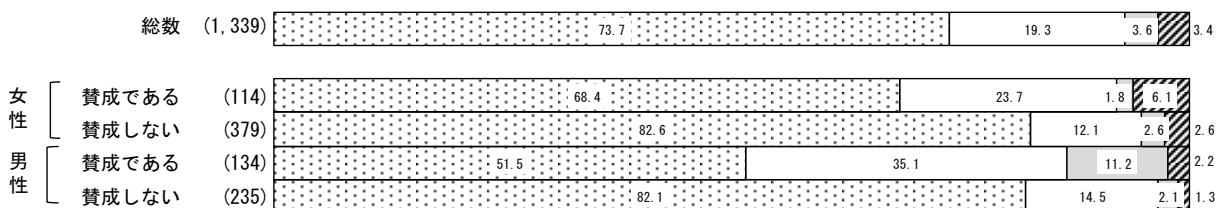
(m) 家計に必要な生活費を渡さない



(n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する



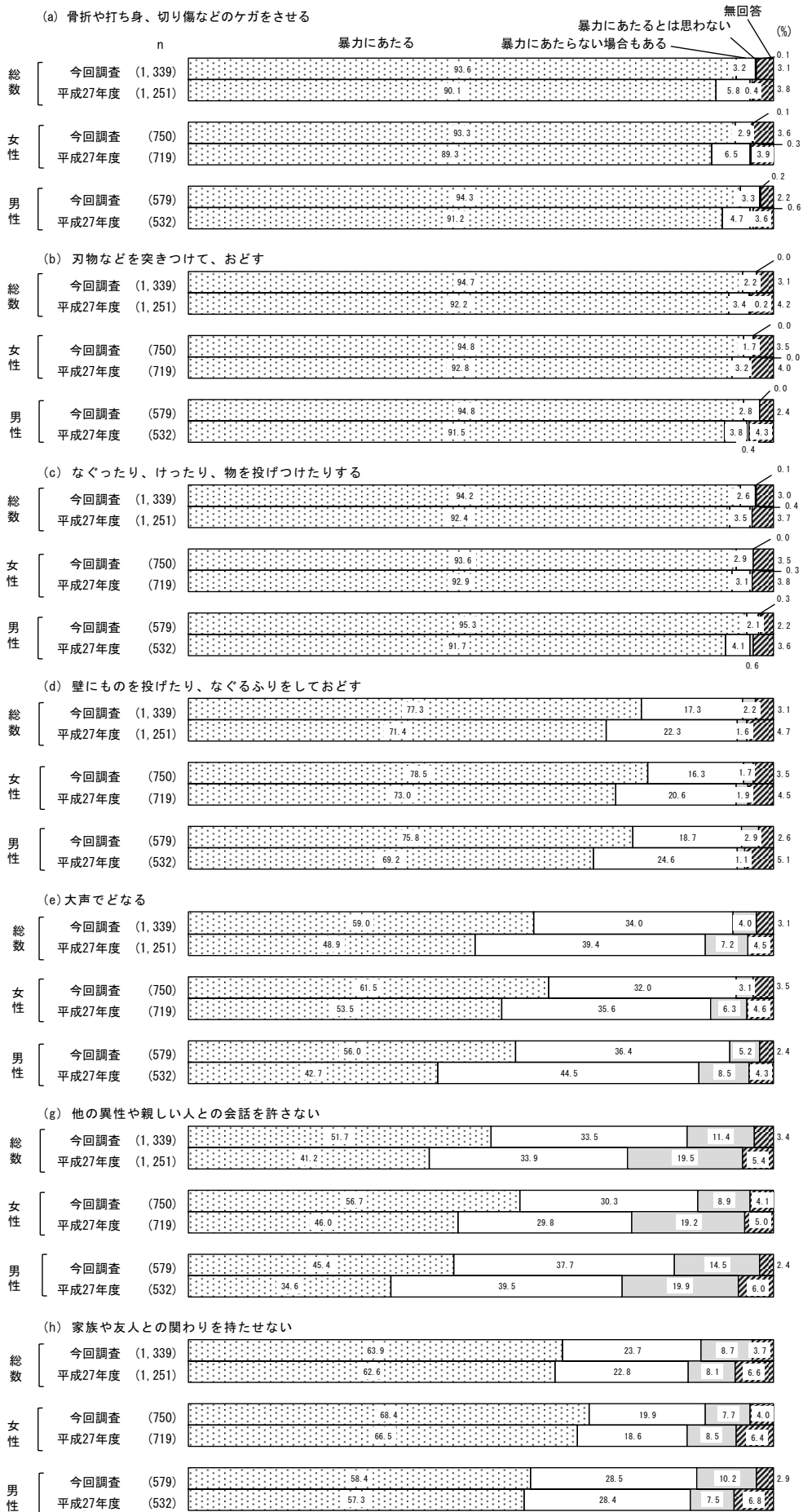
(o) 避妊に協力しない



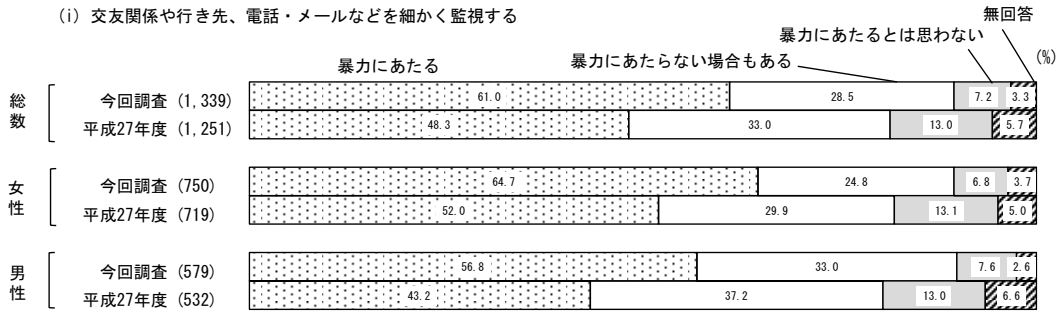
【平成27年度調査との比較】

多くの項目で前回調査より、「暴力にあたる」との回答する割合が多くなっている。

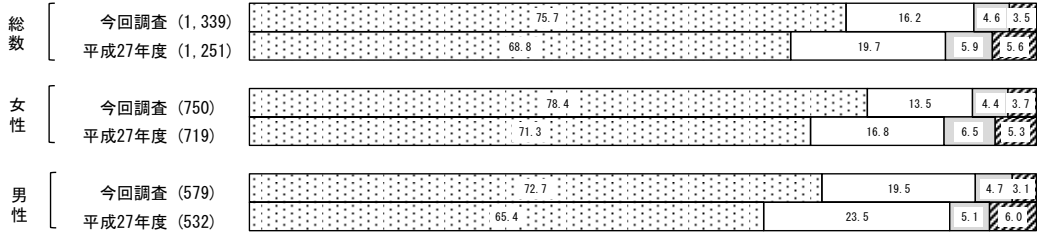
図19-18 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為（平成27年度調査との比較）



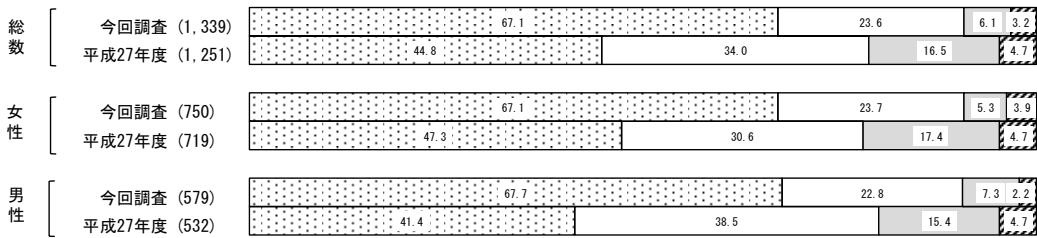
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する



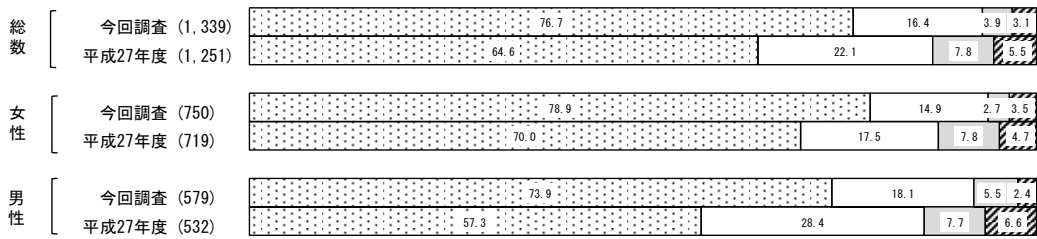
(j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する



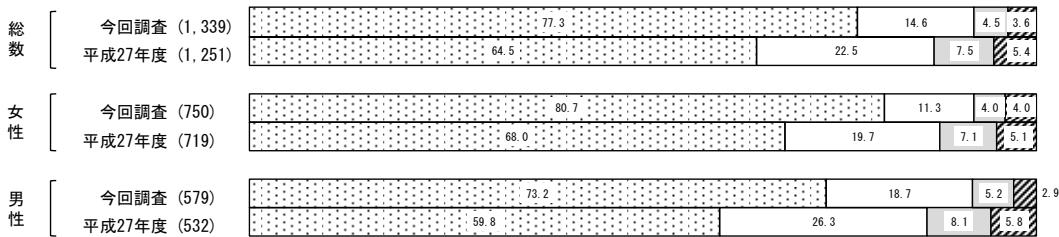
(k) 何を言っても長期間無視し続ける



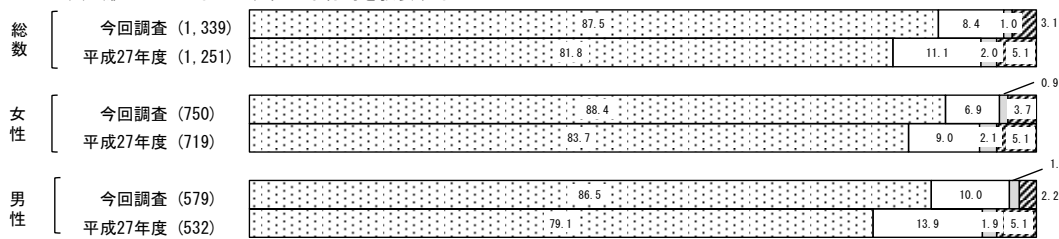
(l) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う



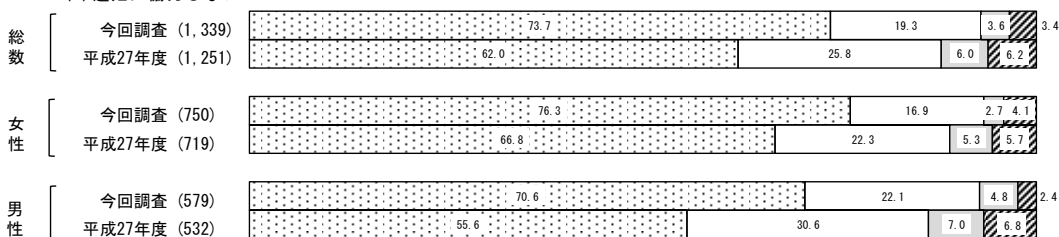
(m) 家計に必要な生活費を渡さない



(n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する



(o) 避妊に協力しない



※「(f)馬鹿にしたり、見下したような言動をする」については今回調査での新規項目であり、比較できないため、表記していない。

2 配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(これまでに結婚したことがある人【ここでの結婚は事実婚や別居中の夫婦を含む】にお聞きします。)

問20 あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。
「①これまで」(a)～(d)それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

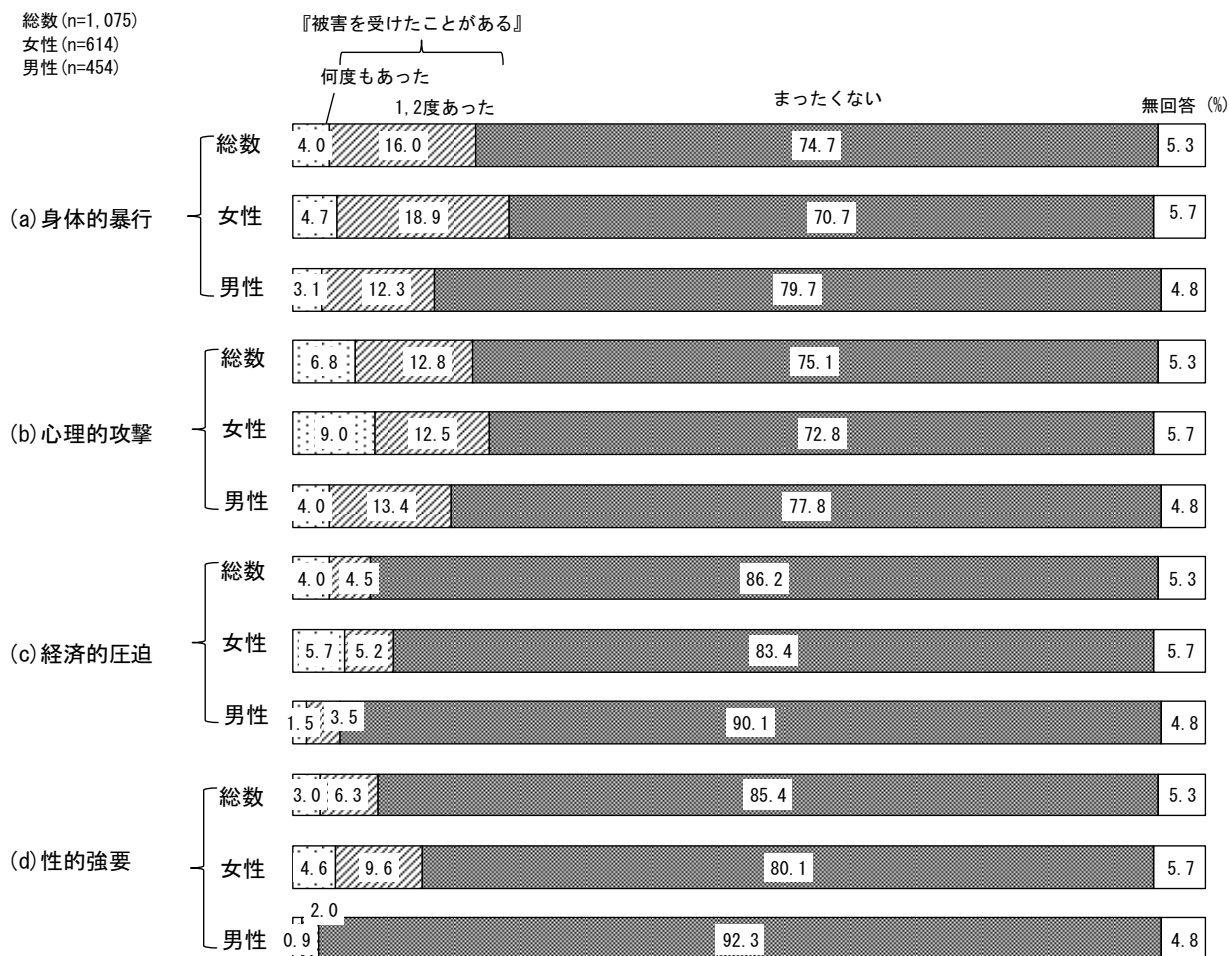
“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」(女性4.7%、男性3.1%)、「1、2度あった」(女性18.9%、男性12.3%)となり、その合計では女性が男性を8.2ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、「何度もあった」は女性(9.0%)が男性(4.0%)を5.0ポイント上回り、「1、2度あった」(女性12.5%、男性13.4%)では、大きな差は見られない。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」(女性5.7%、男性1.5%)、「1、2度あった」(女性5.2%、男性3.5%)となり、その合計では女性が男性を5.9ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」(女性4.6%、男性0.9%)、「1、2度あった」(女性9.6%、男性2.0%)で、その合計では女性が男性を11.3ポイント上回った。

図20-1 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

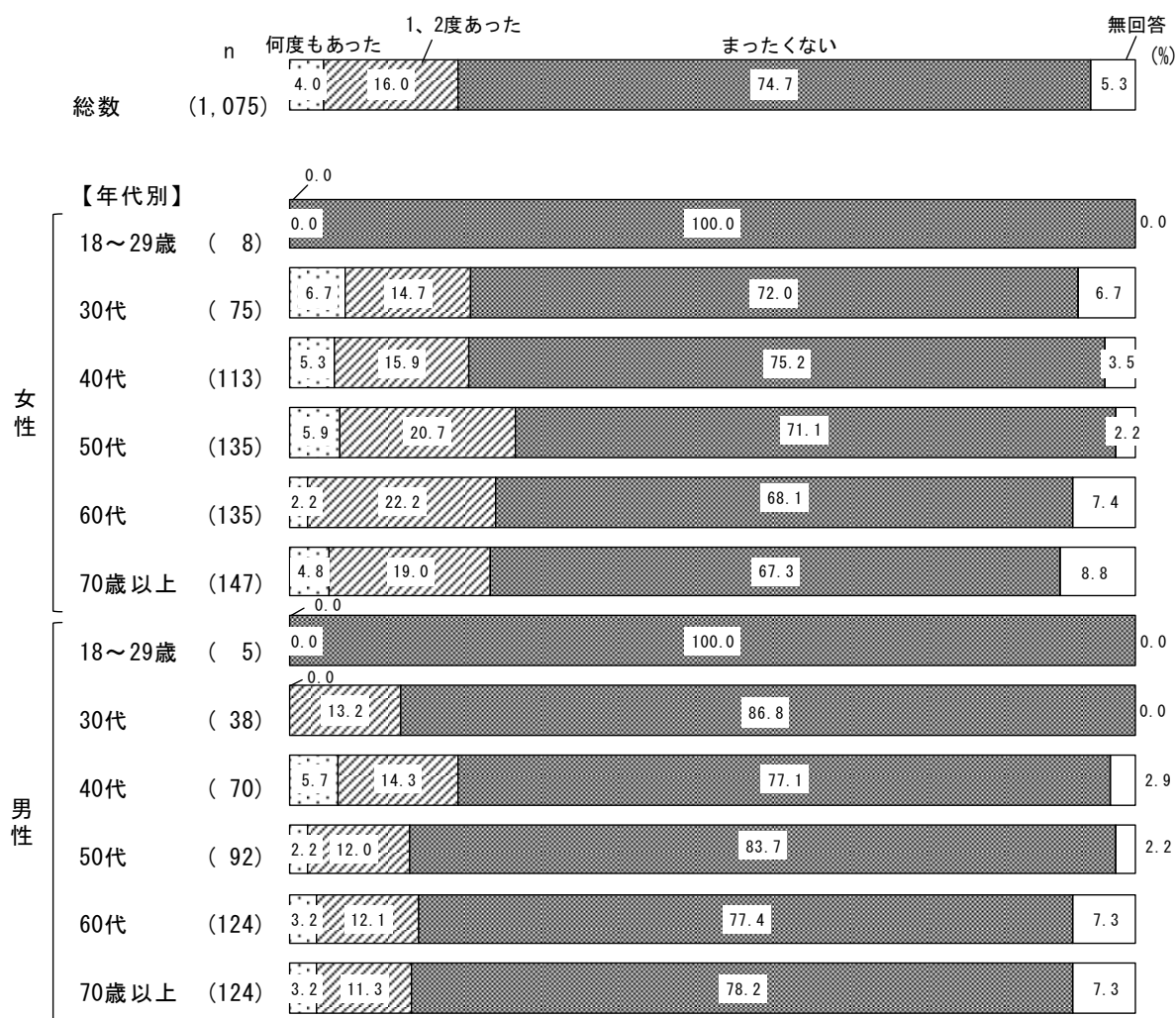
【年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は50代（「何度もあった」5.9%、「1、2度あった」20.7%）が最も多く、いずれの年代も2割を超えている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（「何度もあった」5.7%、「1、2度あった」14.3%）を除いて、1割台となっている。

図20-2 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など）

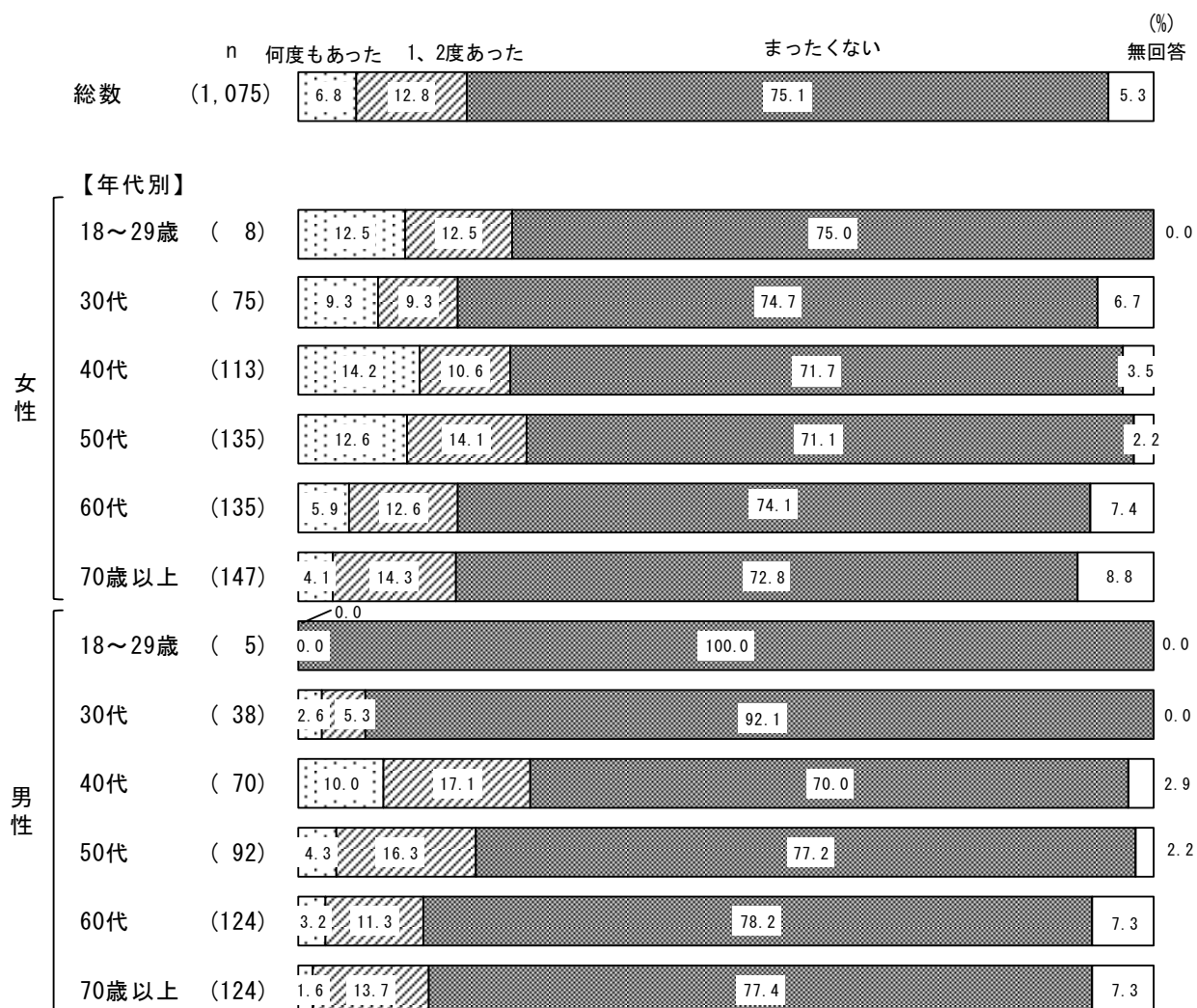
【年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で50代（「何度もあった」12.6%、「1、2度あった」14.1%）が最も多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が、40代（27.1%）と50代（20.6%）で多くなっている。

図20-3 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)

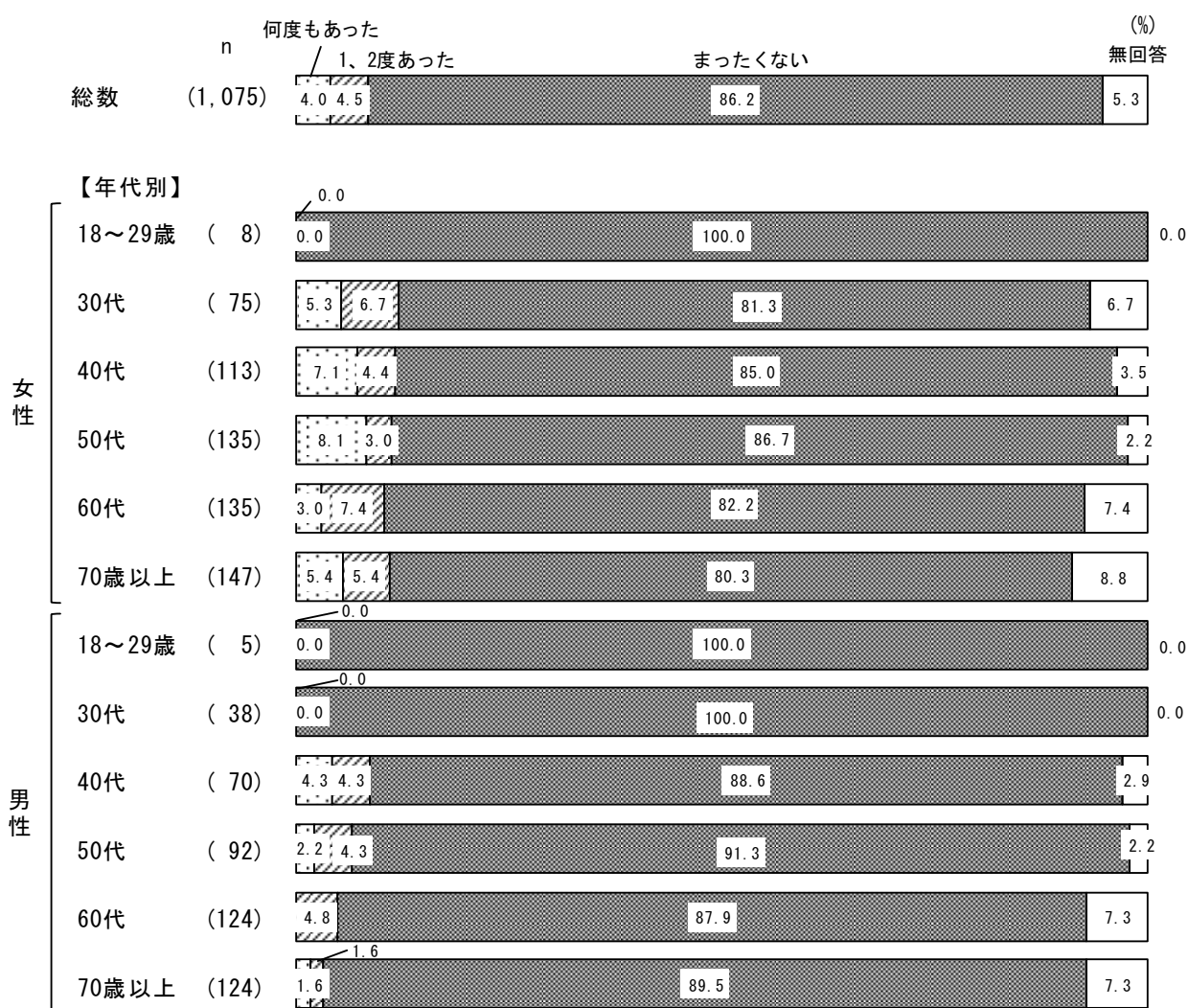


配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(c) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割台となっている。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割を下回っている。

図20-4 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

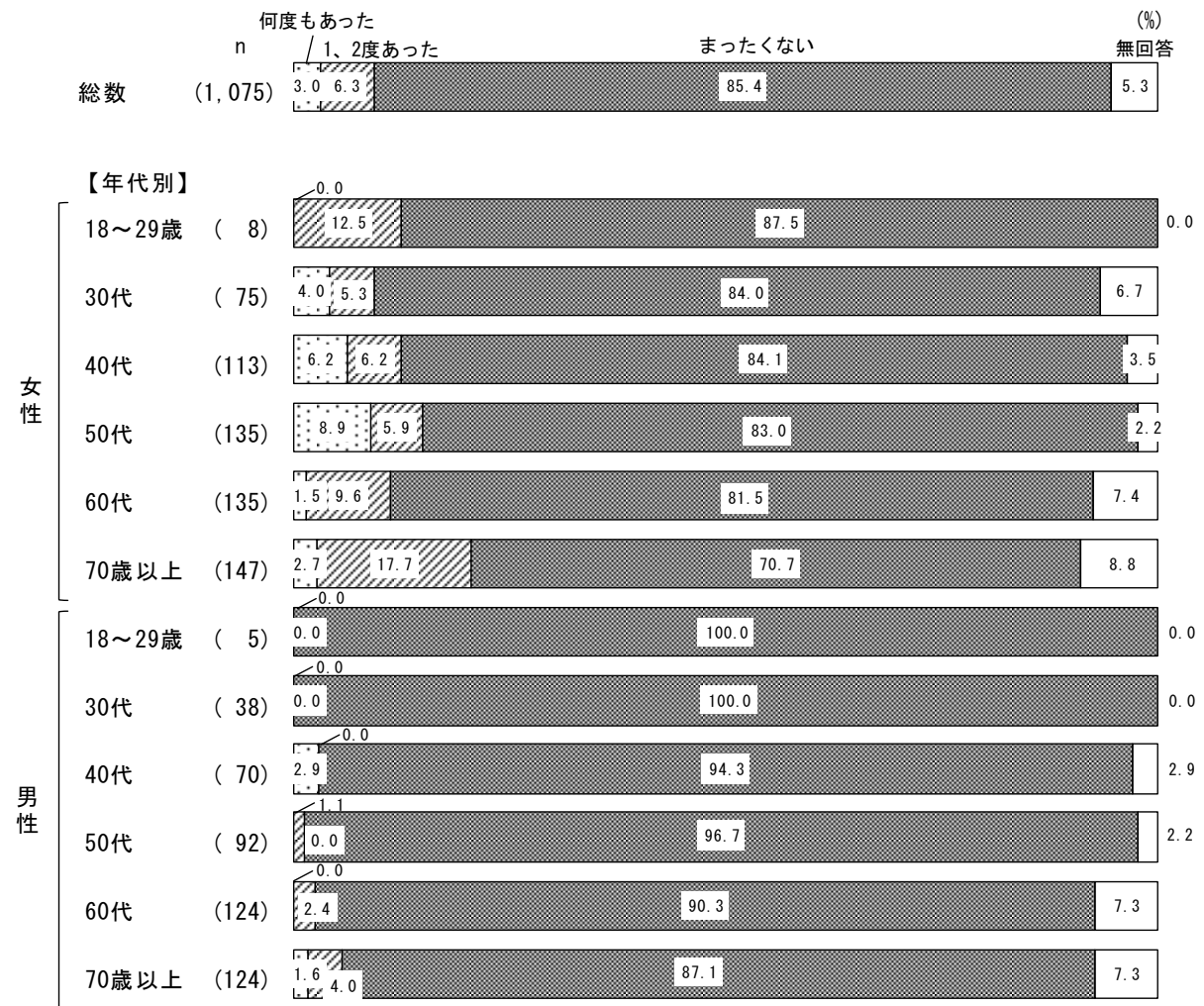


配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は70歳以上を除き、各年代で1割台となっている。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割を下回っている。

図20-5 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無・まとめ＜平成29年度内閣府調査との比較＞
 （内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較
 をする。）

【性別】
 女性では、「何度もあった」は0.5ポイント、「1、2度あった」は4.0ポイント、合計4.5ポイント多くなっている。
 男性では、「何度もあった」は0.9ポイント、「1、2度あった」は3.8ポイント、合計4.7ポイント多くなっている。

【年代別】
 女性では、『あった（計）』は、50代で6.0ポイント、30代で4.5ポイント、60歳以上で3.0ポイント内閣府調査よりも多くなっている。
 男性では、『あった（計）』は、40代で12.1ポイント、60歳以上で4.7ポイント、50代で0.6ポイント内閣府調査よりも多くなっている。

図20-6 配偶者からのこれまでの被害経験の有無＜平成29年度内閣府調査結果との比較＞
 （性別）

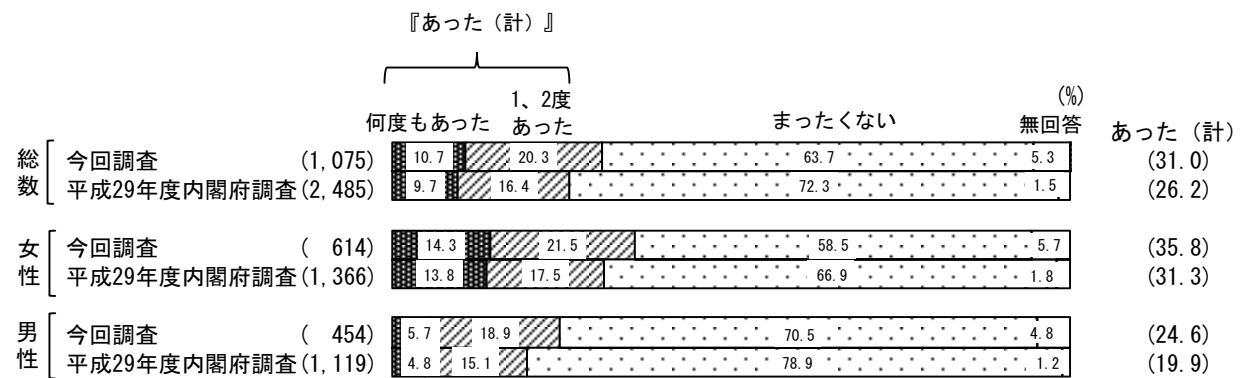
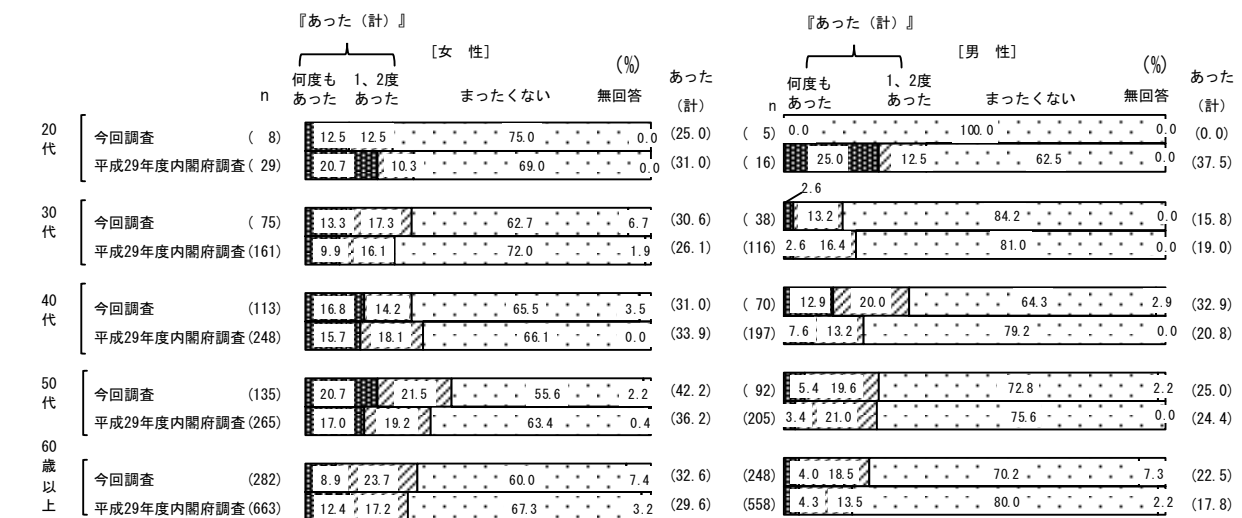


図20-7 配偶者からのこれまでの被害経験の有無＜平成29年度内閣府調査結果との比較＞
 （年代別）



※『あった（計）』は、調査票選択肢の「何度もあった」と「1、2度あった」を合計したものの。年齢区分について、「20代」は今回調査では「18～29歳」の区分であり、「60歳以上」は「60代」・「70歳以上」を合計したものの。

配偶者からのこれまでの被害経験の有無 被害の内容

配偶者からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では、「身体的暴行のみ」(6.5%)が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」(6.2%)、「心理的攻撃のみ」(3.7%)、「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」(3.7%)と続き、被害の重複もみられる。

男性では、「身体的暴行と心理的攻撃」(6.4%)、「心理的攻撃のみ」(6.2%)、「身体的暴行のみ」(5.7%)と続き、男女ともに被害の重複がみられる。

女性の方が「性的強要のみ」で男性よりも2.5ポイント多く、男性では、「心理的攻撃のみ」で女性より2.5ポイント多くなっている。

図 20-8 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (性別)

	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	ま た た く な い	無 回 答
【性別】 (%)																			
総数	1,075	6.1	4.7	1.5	1.9	6.2	0.4	0.8	0.7	1.3	0.3	2.0	1.4	0.4	0.6	2.7	63.7	5.3	
女性	614	6.5	3.7	2.0	2.9	6.2	0.3	1.5	0.5	1.8	0.5	2.4	2.3	0.7	0.8	3.7	58.5	5.7	
男性	454	5.7	6.2	0.7	0.4	6.4	0.4	0.0	1.1	0.7	0.0	1.3	0.2	0.0	0.2	1.3	70.5	4.8	

3 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(問20「①これまで」で「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人にお聞きします。)

問20 あなたは、この1年間にあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

「②この1年間」(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

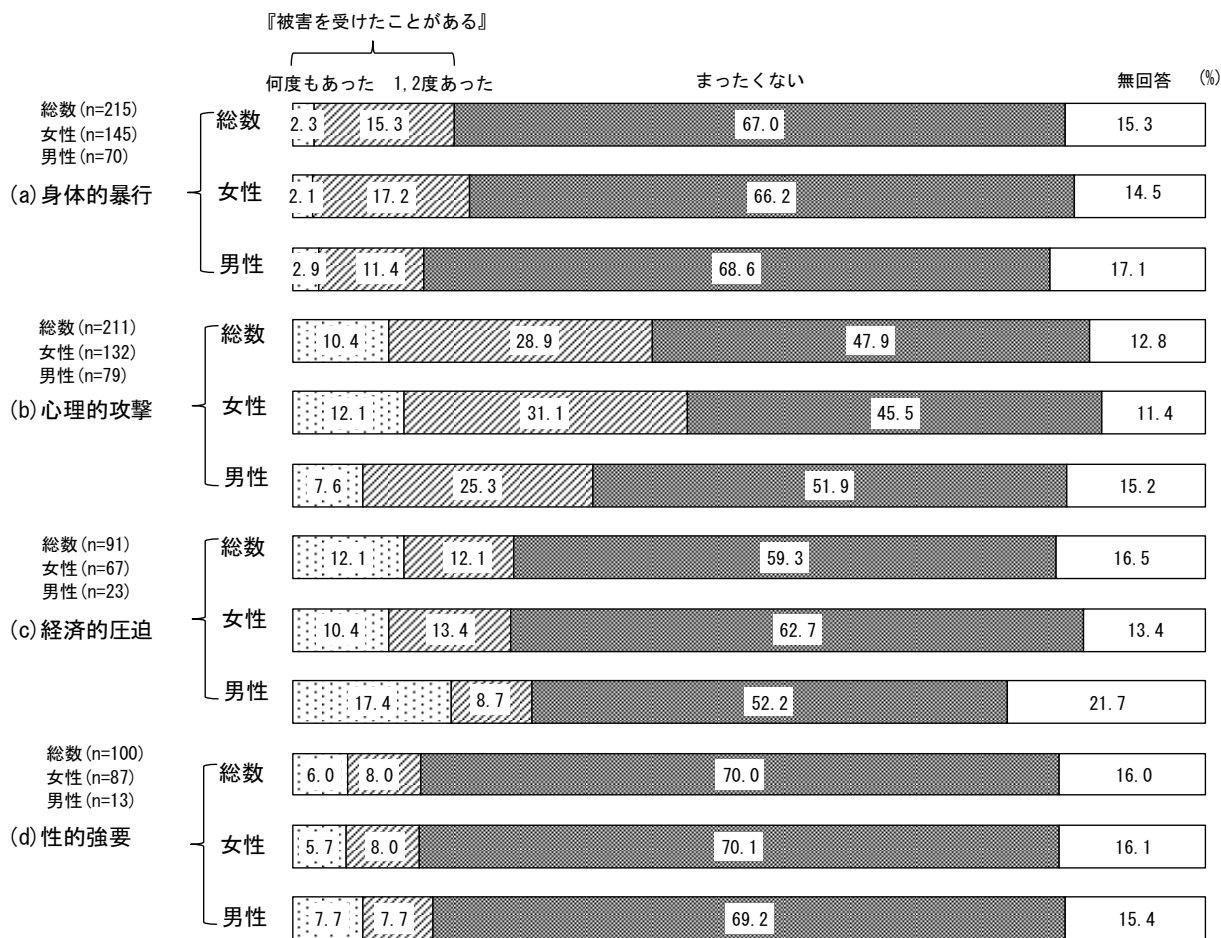
“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」(女性2.1%、男性2.9%)、「1、2度あった」(女性17.2%、男性11.4%)となり、その合計では女性が男性を5.0ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”は、総数・男女ともに最も多く、「何度もあった」(女性12.1%、男性7.6%)、「1、2度あった」(女性31.1%、男性25.3%)となり、その合計では女性が男性を10.3ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」(女性10.4%、男性17.4%)、「1、2度あった」(女性13.4%、男性8.7%)となり、その合計では男性が女性を2.3ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」(女性5.7%、男性7.7%)、「1、2度あった」(女性8.0%、男性7.7%)で、その合計では男性が女性を1.7ポイント上回った。

図 20-9 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 項目別一覧(性別)

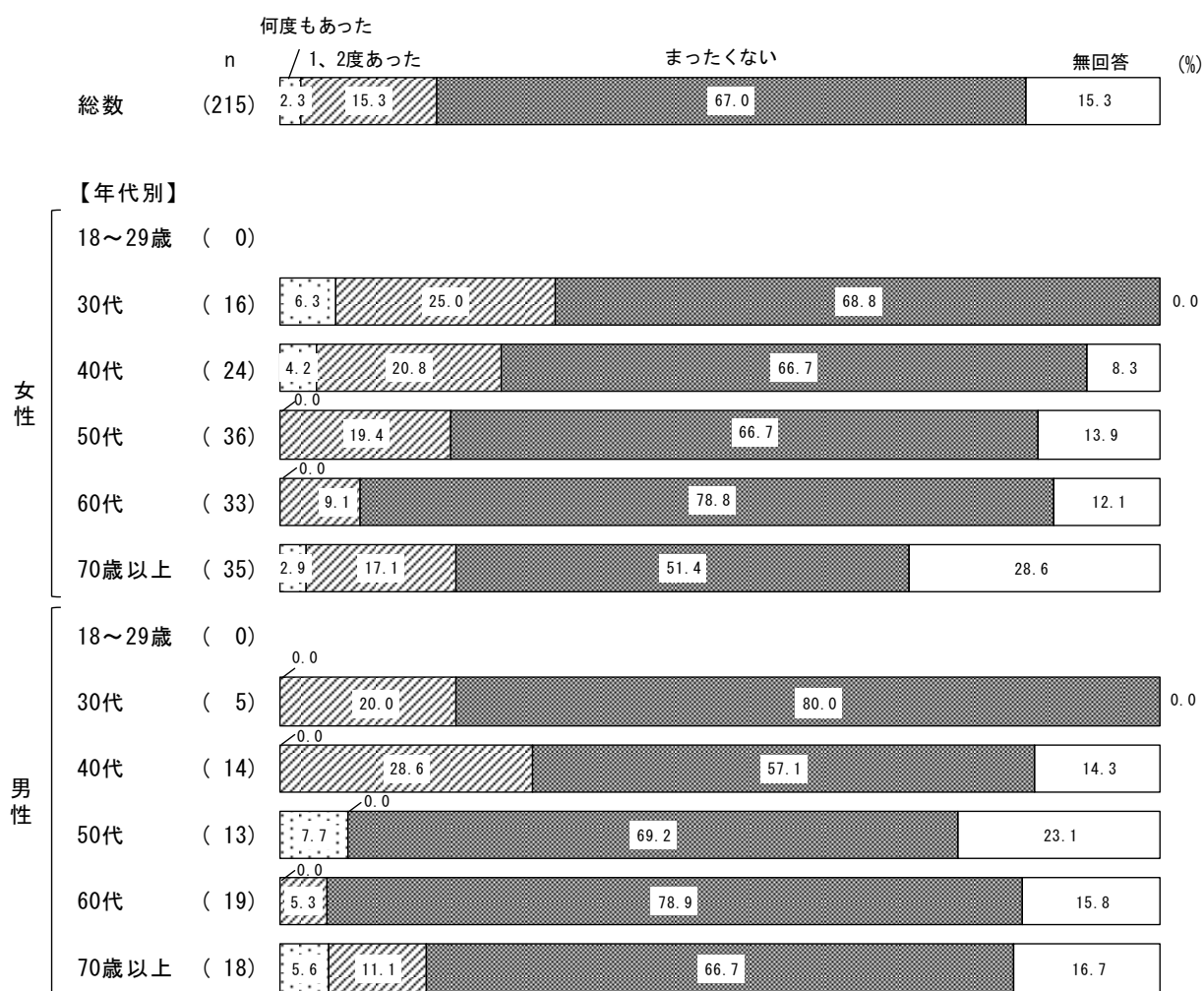


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】
 ※女性の「18～29歳」、男性の「18～29歳」「30代」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代（31.3%）が最も多い。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（28.6%）が最も多い。

図 20-10 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

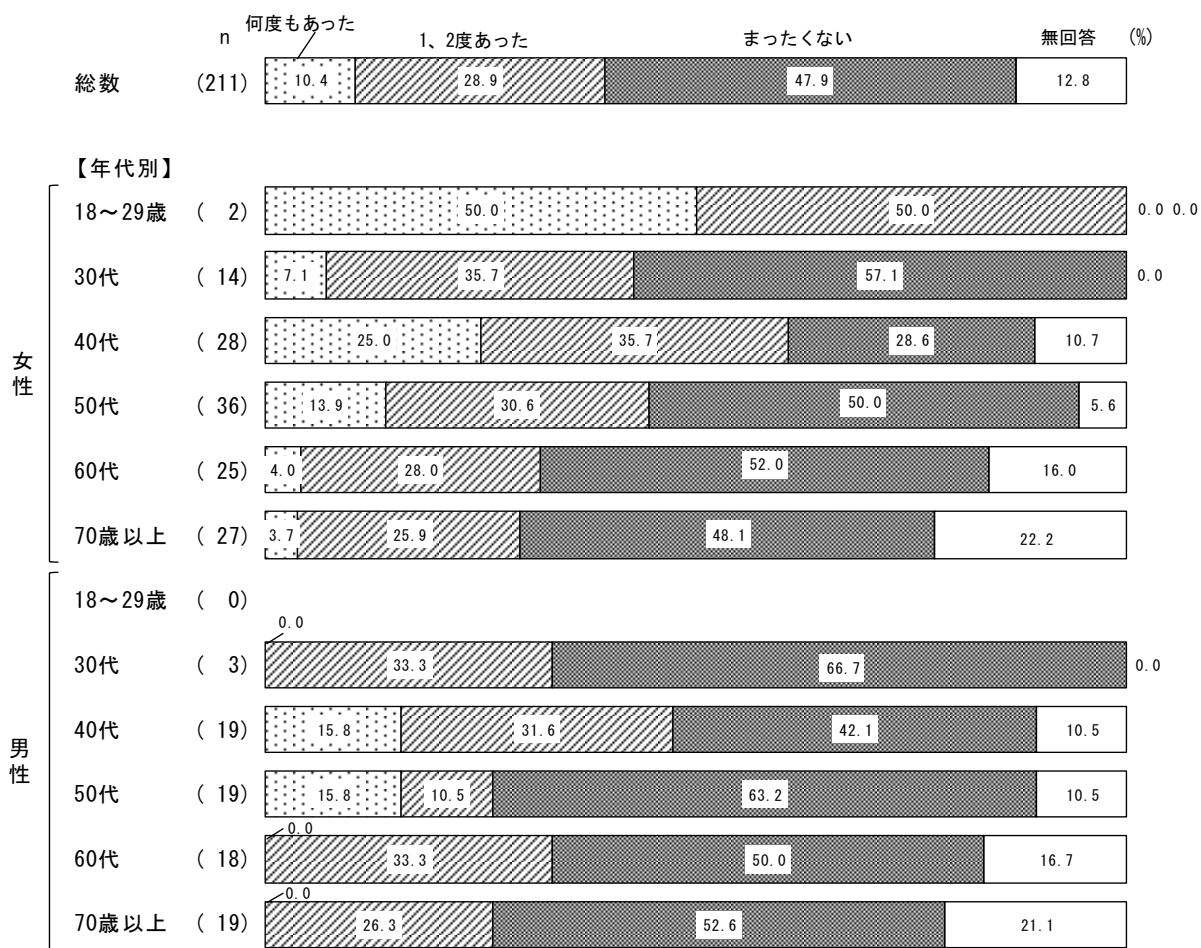


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 ※女性の「18～29歳」、男性の「18～29歳」「30代」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 男女ともに、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（女性60.7%、男性47.4%）で最も多くなっている。

図20-11 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

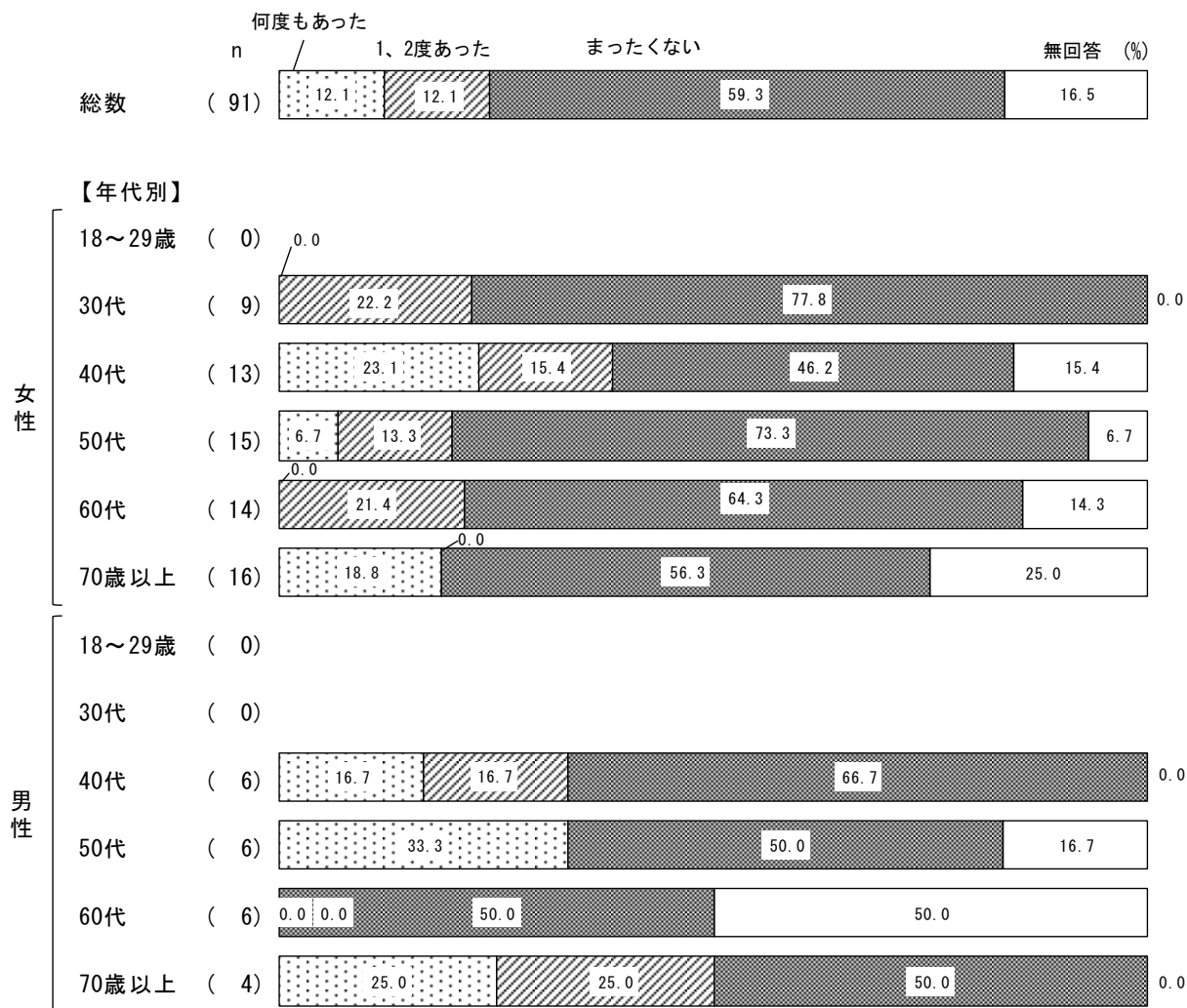
(c) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

【年代別】

※女性の「18～29歳」、男性の「18～29歳」「30代」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（38.5%）で最も多くなっている。

図20-12 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

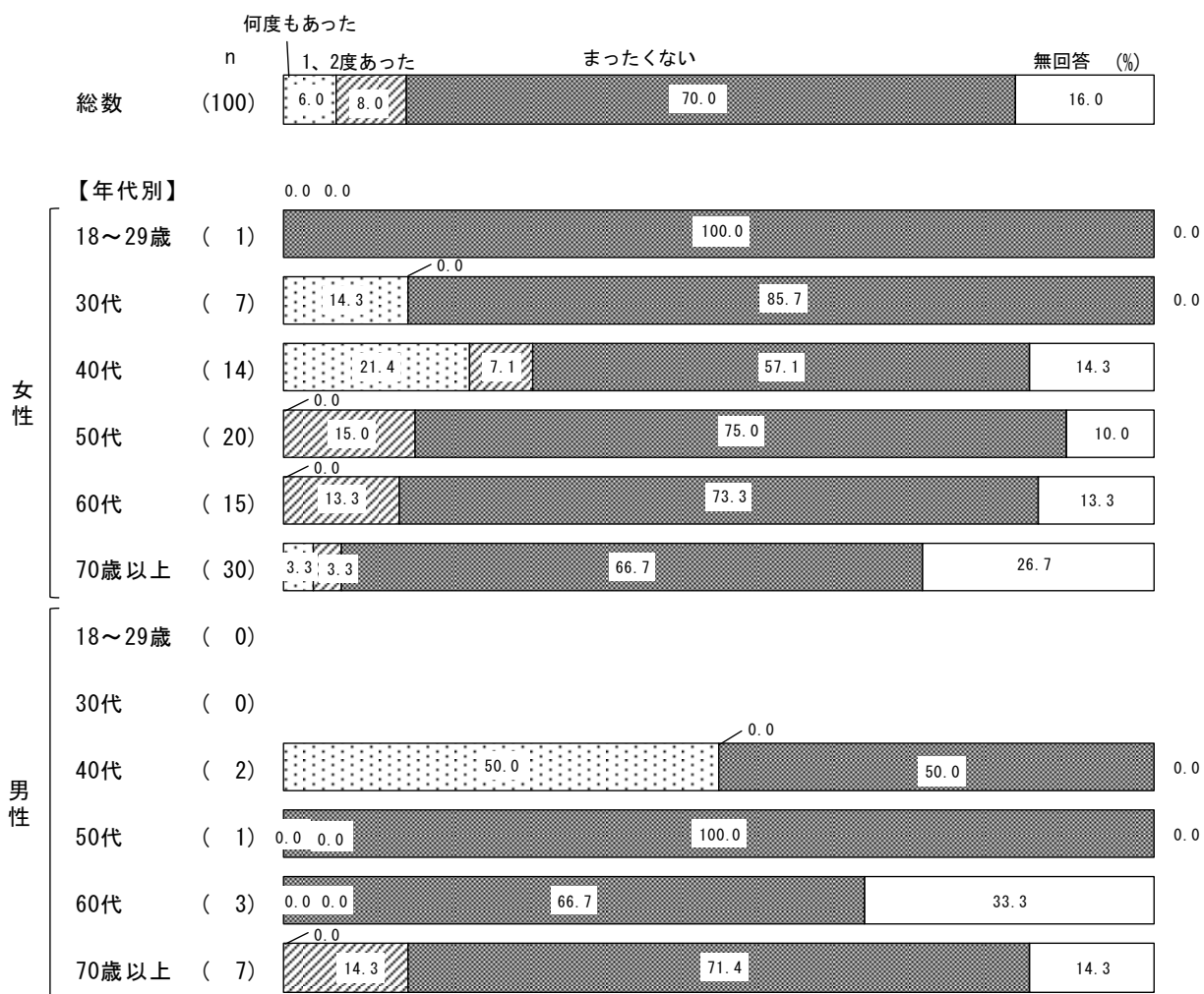


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 ※女性の「18～29歳」「30代」と「男性」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（28.5%）で最も多くなっている。

図20-13 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)

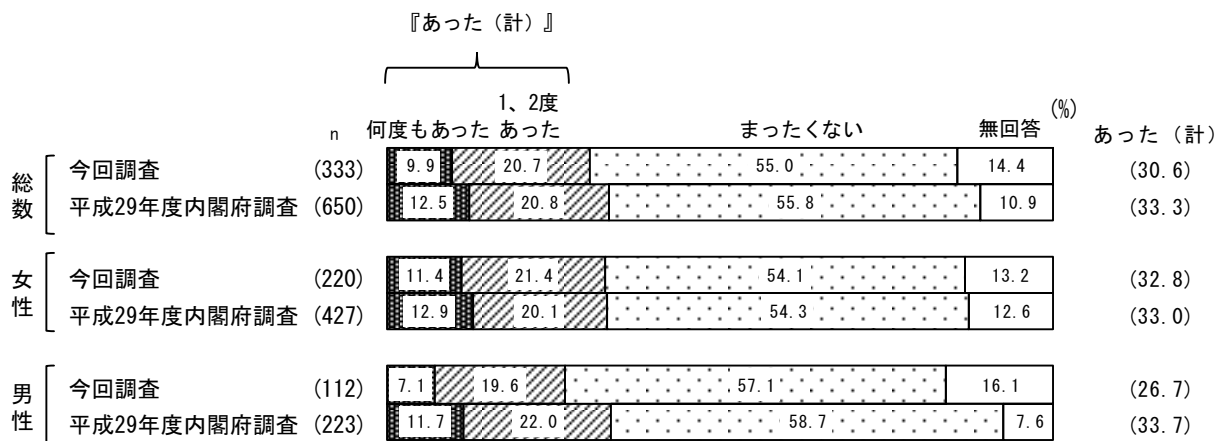


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無・まとめ＜平成29年度内閣府調査との比較＞
 （内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較
 をする。）

【性別】
 女性では、「何度もあった」の差は1.5ポイント少なく、「1、2度あった」は1.3ポイント多くなっている。
 男性でも、「何度もあった」は4.6ポイント少なく、「1、2度あった」は2.4ポイント少なくなっている。

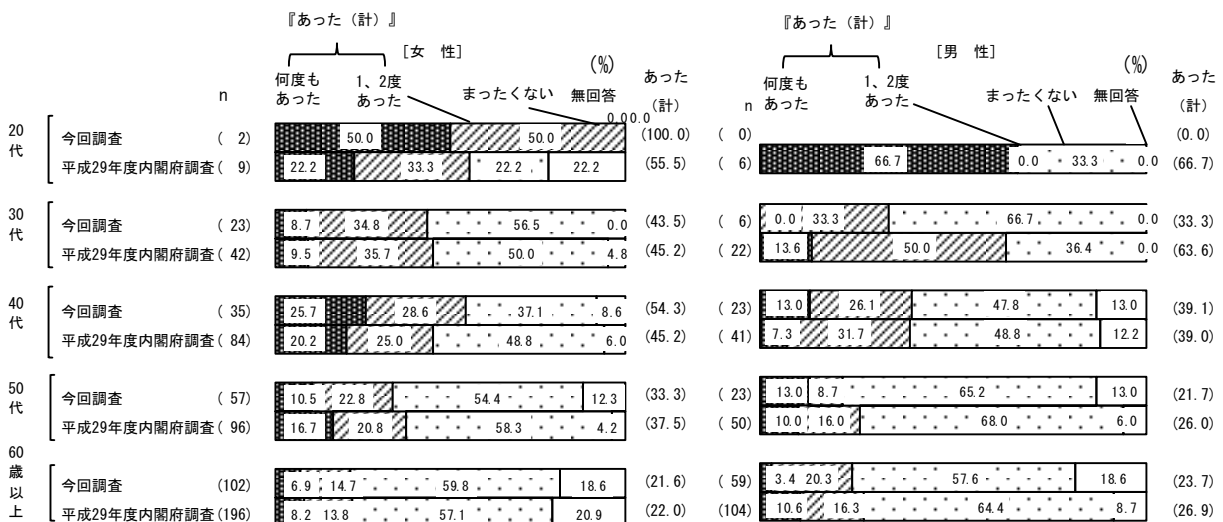
【年代別】
 女性では、『あった（計）』は、40代で9.1ポイント内閣府調査よりも多くなっている。
 男性でも、『あった（計）』は、40代で0.1ポイント内閣府調査よりも多くなっている。

図20-14 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無＜平成29年度内閣府調査結果との比較＞
 （性別）



※『あった（計）』は、調査票選択肢の「何度もあった」「1、2度あった」を合計したものだ。

図20-15 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無＜平成29年度内閣府調査結果との比較＞
 （性別）



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 被害の内容

配偶者からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、男女とも「心理的攻撃のみ」（女性12.3%、男性13.4%）が最も多い。
 女性では次いで、「身体的暴行と心理的攻撃」（6.8%）、「身体的暴行のみ」（3.2%）、「心理的攻撃と経済的圧迫」（3.2%）となっている。
 男性では次いで、「身体的暴行と心理的攻撃」（4.5%）、「身体的暴行のみ」（2.7%）、「心理的攻撃と経済的圧迫」（2.7%）と続いている。

図 20-16 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無（性別）

	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	性的 強要 身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	性的 強要 身体的 暴行・ 経済的 圧迫	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	身体的 暴行・ 性的 強要	まっ たたく ない	無 回答
【性別】 (%)																		
総数	333	3.0	12.6	0.6	1.5	6.0	0.0	0.0	3.0	0.6	0.3	1.2	0.3	0.0	0.6	0.9	55.0	14.4
女性	220	3.2	12.3	0.5	2.3	6.8	0.0	0.0	3.2	0.5	0.5	1.4	0.5	0.0	0.9	0.9	54.1	13.2
男性	112	2.7	13.4	0.9	0.0	4.5	0.0	0.0	2.7	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	57.1	16.1

4 配偶者からの暴力についての相談経験の有無

(問20「①これまで」で「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人にお聞きします。)

問20-1 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、どこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

配偶者からの暴力についての相談経験の有無

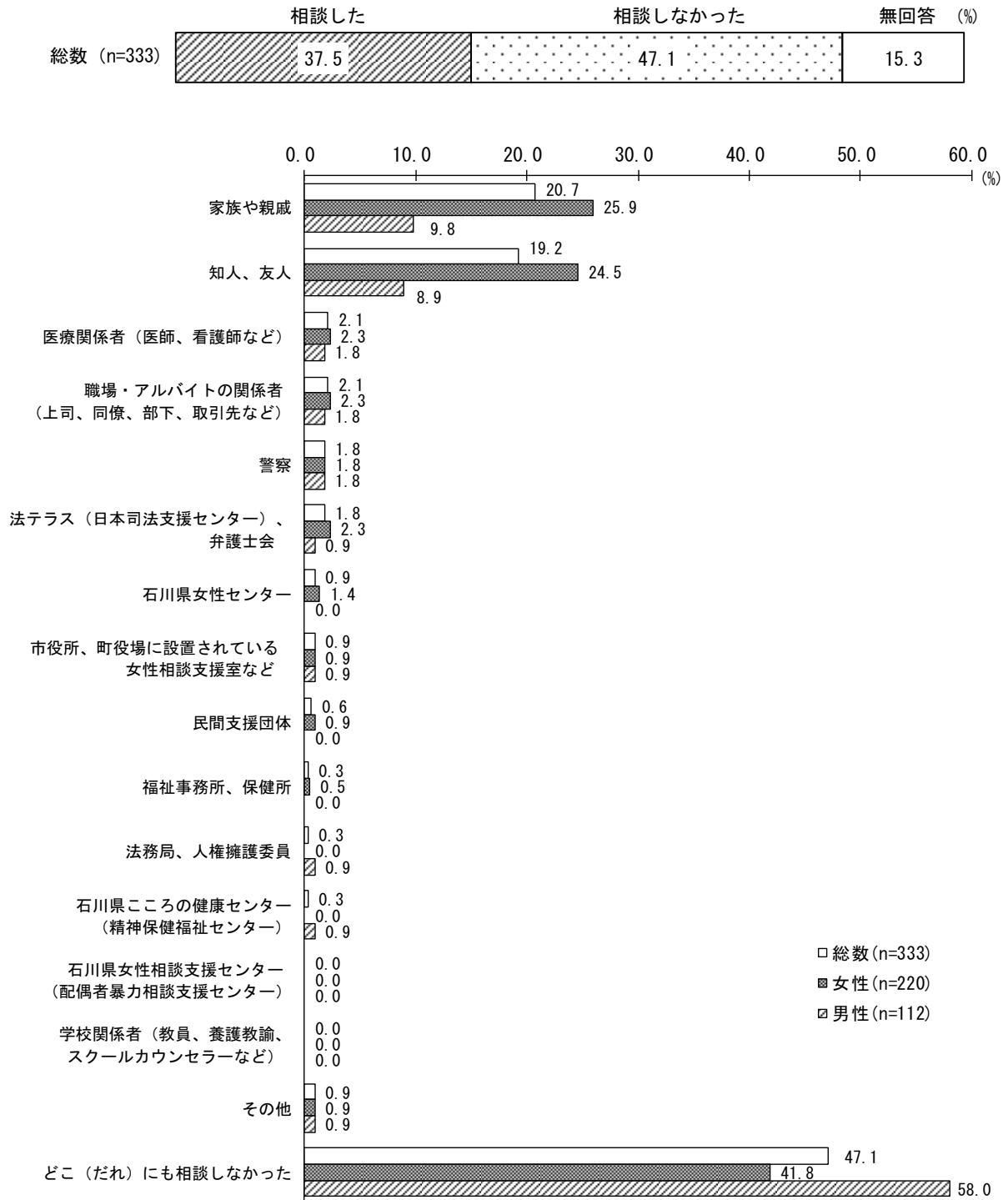
配偶者から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は37.5%、「相談しなかった」は47.1%で、「相談しなかった」の方が9.6ポイント多かった。

相談した人のうち、どこ(だれ)に相談したかを見ると、女性では「家族や親戚」(25.9%)、次いで「知人、友人」(24.5%)の順で、その他は3%未満となっている。

男性では「家族や親戚」(9.8%)、次いで「知人、友人」(8.9%)の順で、その他は2%未満となっている。

性別で見ると、男性の方が「どこ(だれ)にも相談しなかった」(58.0%)が5割を超え、女性(41.8%)より16.2ポイント多くなっている。

図20-1-1 配偶者からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（性別）



【年代別】

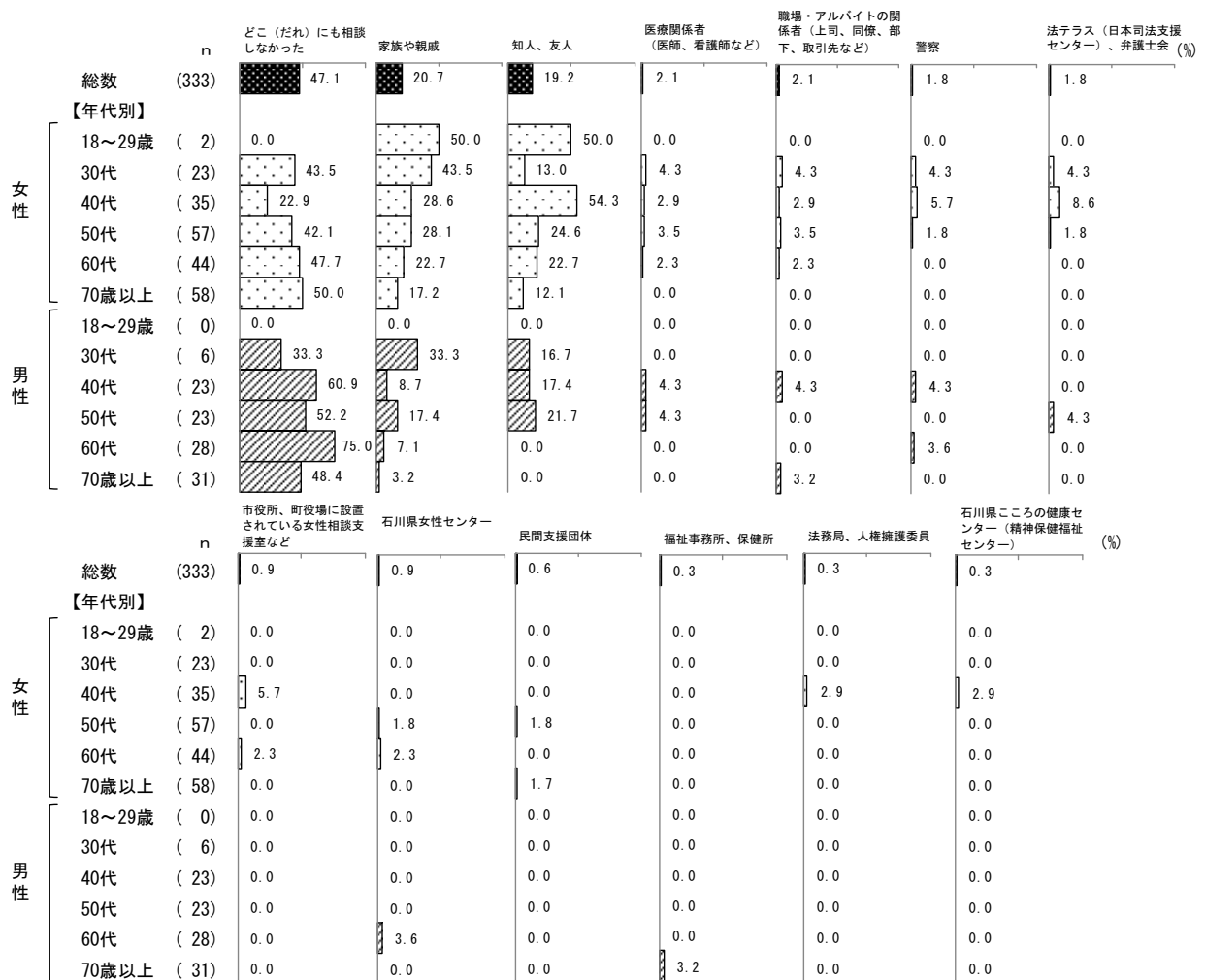
※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため、参考掲載とする。

また、「学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）」と「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」は回答がなかったため掲載していない。

全体で最も多い「どこ（だれ）にも相談しなかった」を除くと、女性では「家族や親戚」が30代（43.5%）、50代（28.1%）、70歳以上（17.2%）で最も多く、「知人、友人」は40代（54.3%）が最も多い。

男性では「家族や親戚」が30代（33.3%）で、「知人、友人」は50代（21.7%）、40代（17.4%）で最も多い。

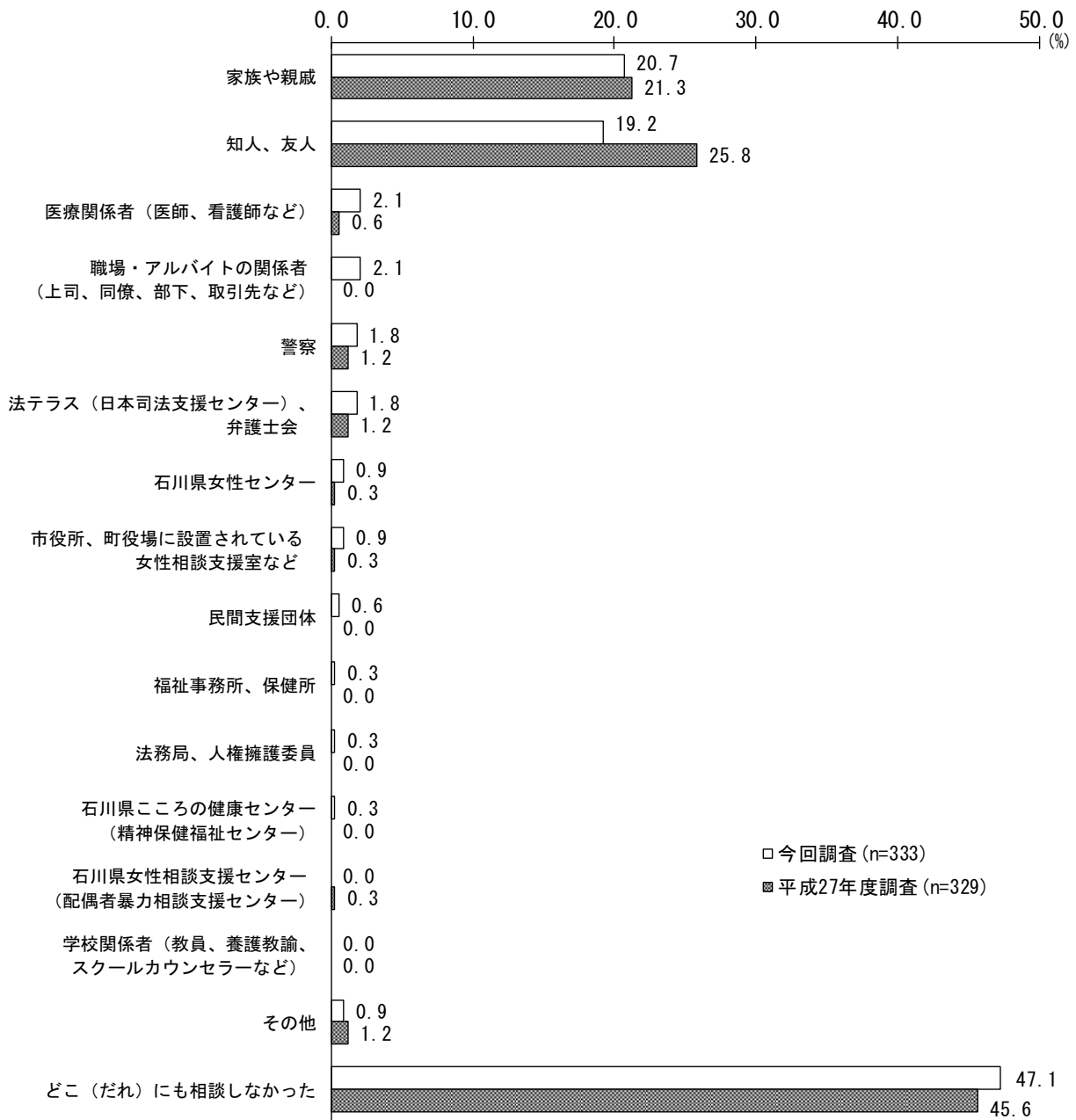
図20-1-2 配偶者からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（年代別）



【平成27年度調査との比較】

「知人、友人」においては6.6ポイント減少し、「家族や親戚」においても0.6ポイント減少した。「どこ（だれ）にも相談しなかった」は1.5ポイント増加している。

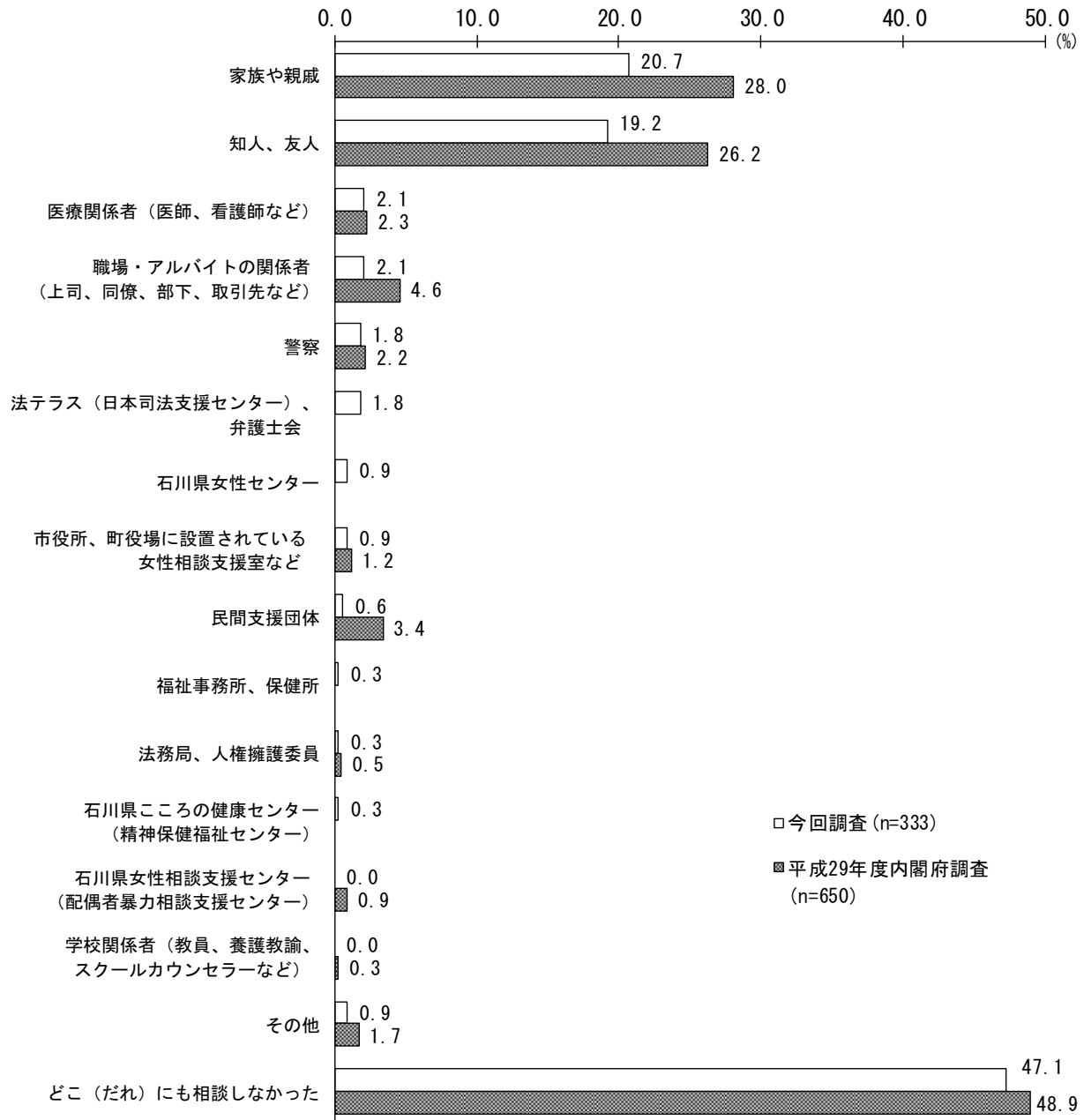
図20-1-3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無（平成27年度調査との比較）



【平成29年度内閣府調査との比較】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」については大きな差はないが、上位2つの項目「家族や親戚」は7.3ポイント、「知人、友人」は7.0ポイント内閣府調査を下回っている。

図20-1-4 配偶者からの暴力についての相談経験の有無（平成29年度内閣府調査との比較）



5 配偶者からの暴力について相談しなかった理由

(問20-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人にお聞きします。)

問20-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【性別】

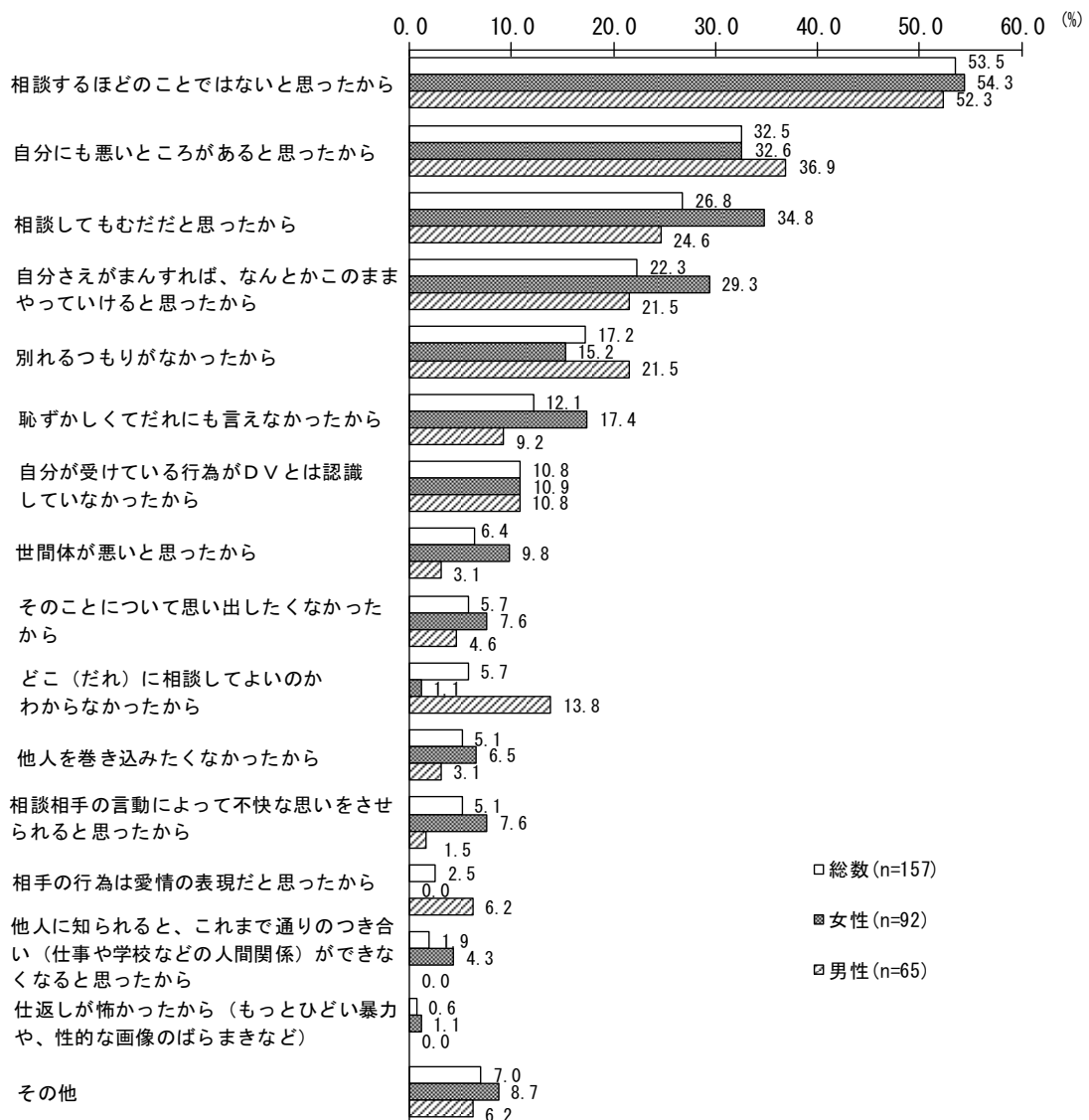
配偶者から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女ともに最も多かったのが「相談するほどのことではないと思ったから」(女性54.3%、男性52.3%)であった。

次いで、女性では「相談してもむだだと思ったから」(34.8%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(32.6%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(29.3%)と続く。

男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」(36.9%)、「相談してもむだだと思ったから」(24.6%)と続く。

男女の違いで特徴的なのは、「相談してもむだだと思ったから」では女性の方が10.2ポイント多くなっている。「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」では男性の方が12.7ポイント多くなっている。

図 20-2-1 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧(性別)

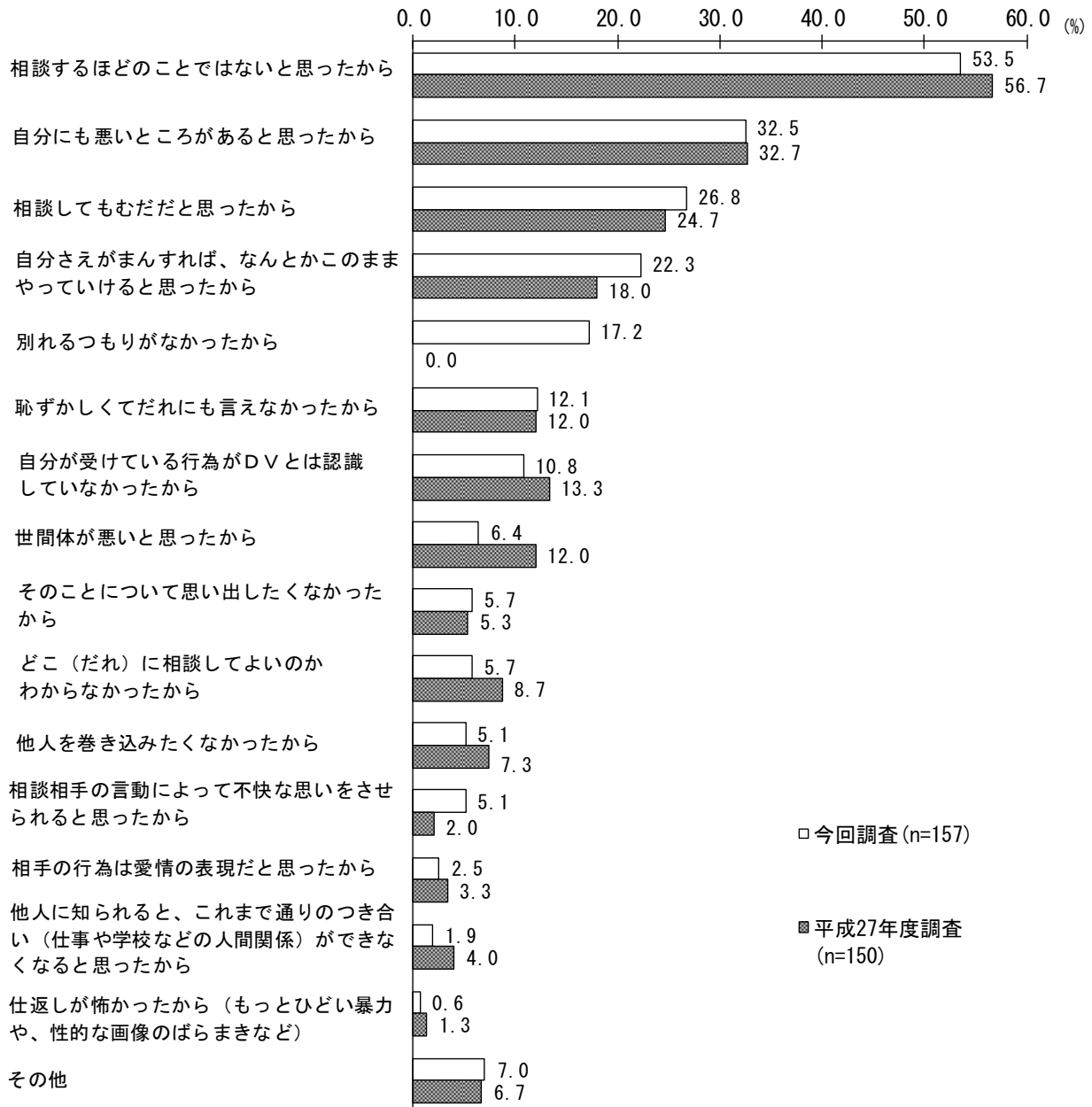


【平成 27 年度調査との比較】

前回調査から「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「そのことについて思い出したくなかったから」「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから」の項目で増加している。

差が大きいものとしては、「世間体が悪いと思ったから」が5.6ポイント減少し、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が4.3ポイント増加している。

図 20-2-2 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 (平成 27 年度調査との比較)

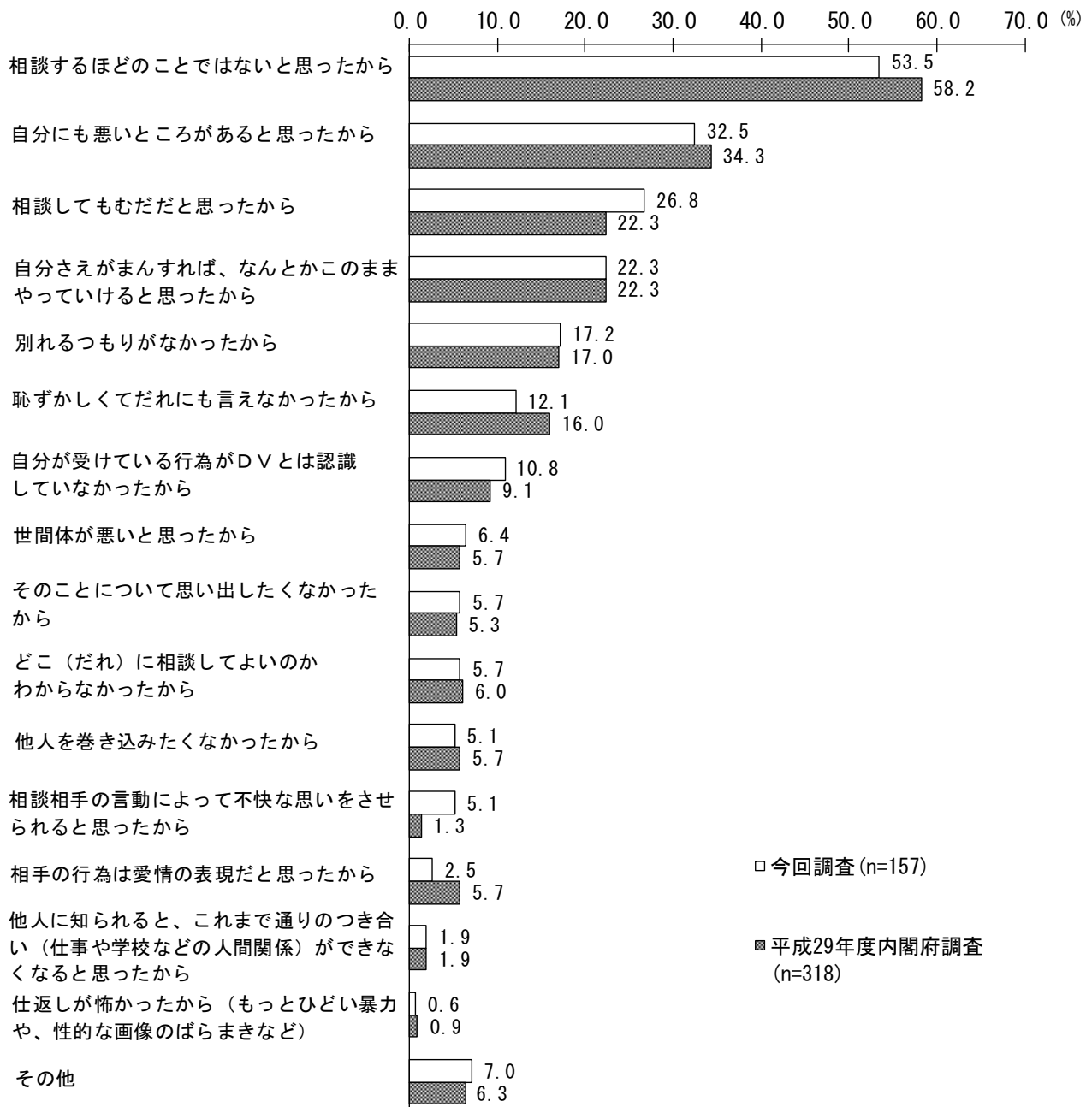


※選択肢のうち「別れるつもりがなかったから」は今回調査で新たに追加したものであるため、比較できない。

【平成29年度内閣府調査との比較】

内閣府調査との差が大きいものとしては、「相談するほどのことではないと思ったから」が4.7ポイント少なく、「相談してもむだだと思ったから」が4.5ポイント多くなっている。

図 20-2-3 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧
(平成 29 年度内閣府調査との比較)



6 交際相手からの被害経験の有無

(これまでに交際相手がいたことのある方にお聞きします。複数の交際相手がいたことのある方については、経験の1つについてお答えください。)

【ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。】

問21 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「①交際相手」の(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

“(a) 身体的暴行”では、『10～20歳代にあった』(女性8.4%、男性3.4%)、「30歳代以上にあった」(女性1.7%、男性1.1%)となり、その合計では女性が男性を5.6ポイント上回っている。

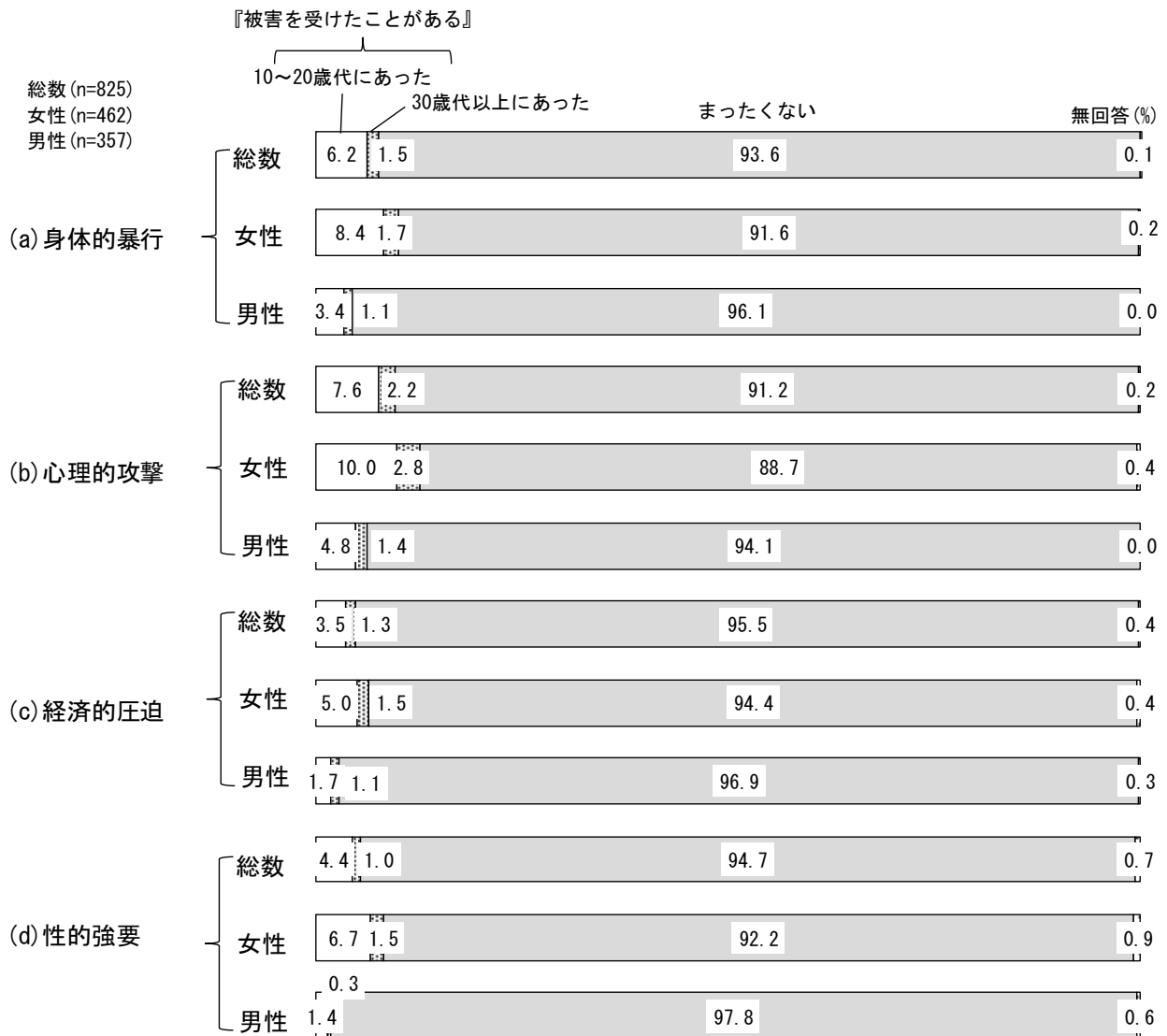
“(b) 心理的攻撃”では、『10～20歳代にあった』(女性10.0%、男性4.8%)、「30歳代以上にあった」(女性2.8%、男性1.4%)で、その合計では女性が男性を6.6ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、『10～20歳代にあった』(女性5.0%、男性1.7%)、「30歳代以上にあった」(女性1.5%、男性1.1%)となり、その合計では女性が男性を3.7ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、『10～20歳代にあった』(女性6.7%、男性1.4%)、「30歳代以上にあった」(女性1.5%、男性0.3%)で、その合計では女性が男性を6.5ポイント上回った。

全ての項目で、『10～20歳代にあった』と「30歳代以上にあった」のいずれにおいても、女性の方が男性より多くなっている。

図21-1 交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



※『10～20歳代にあった』は、調査票選択肢の「10歳代にあった」と「20歳代にあった」を合計したもの。以降の頁も同様。

※複数の項目を選択している場合があるため、合計値が100%を超える場合がある。以降の頁も同様。

交際相手からの被害経験の有無

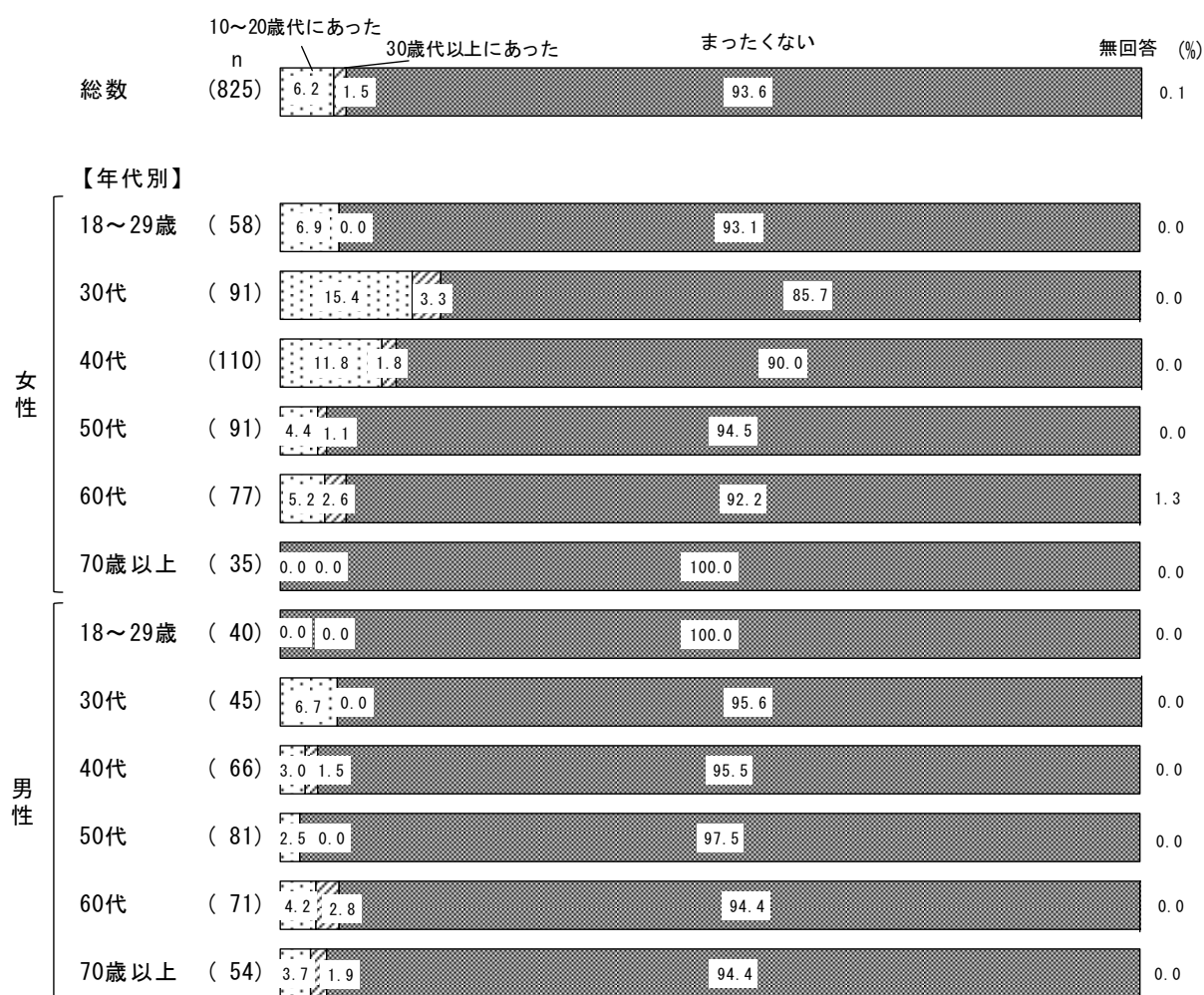
(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】

女性では、『10～20歳代にあった』と「30歳代以上にあった」の合計で最も多かったのが30代（18.7%）で、最も少なかったのが70歳以上（『10～20歳代にあった』『30歳代以上にあった』（ともに0.0%））だった。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図 21-2 交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

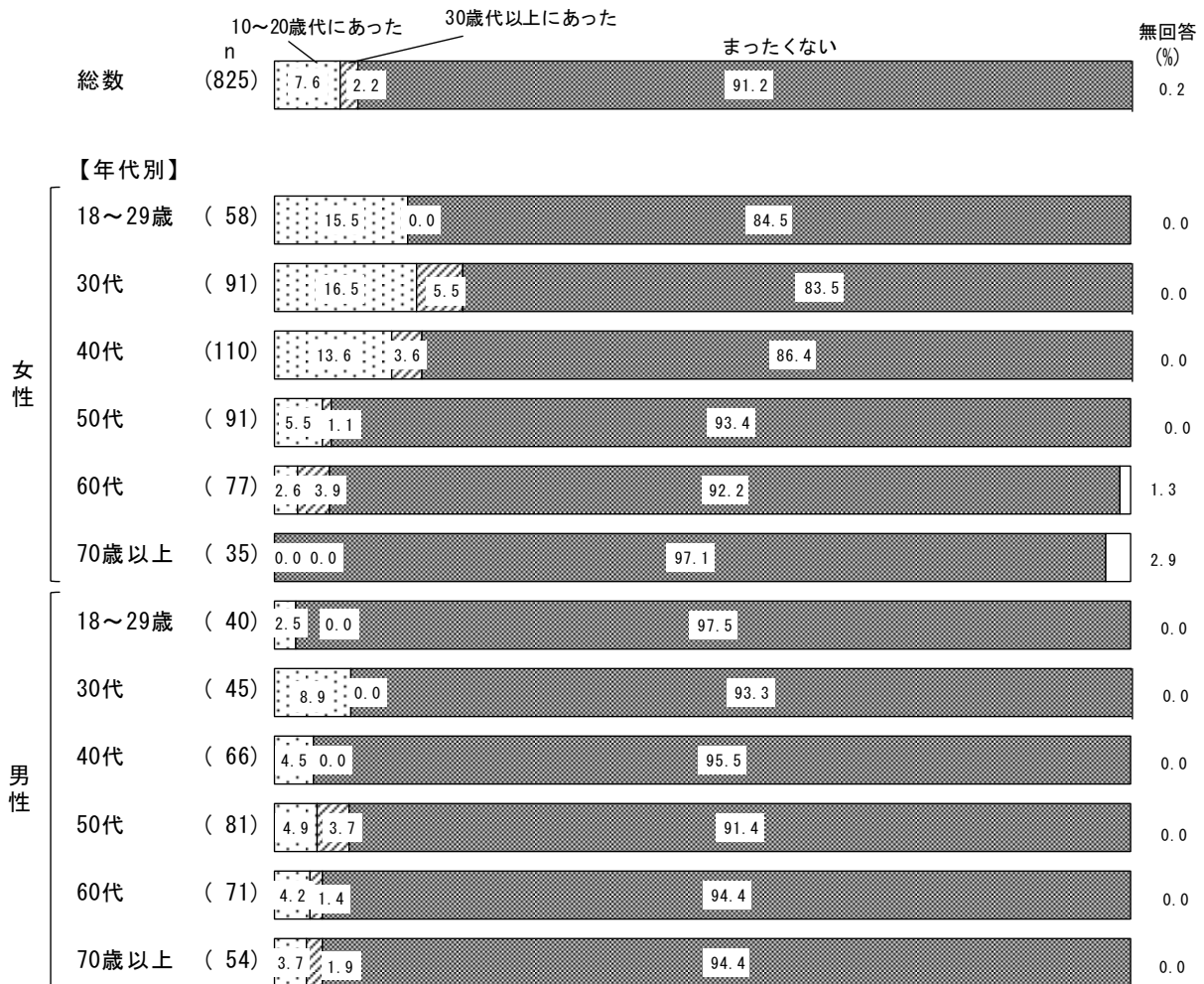


交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 女性では、30代（『10～20歳代にあった』16.5%、「30歳代以上にあった」5.5%、合計22.0%）が最も多く、40代（『10～20歳代にあった』13.6%、「30歳代以上にあった」3.6%、合計17.2%）、18～29歳（『10～20歳代にあった』15.5%）が続く。
 男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図21-3 交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)



交際相手からの被害経験の有無

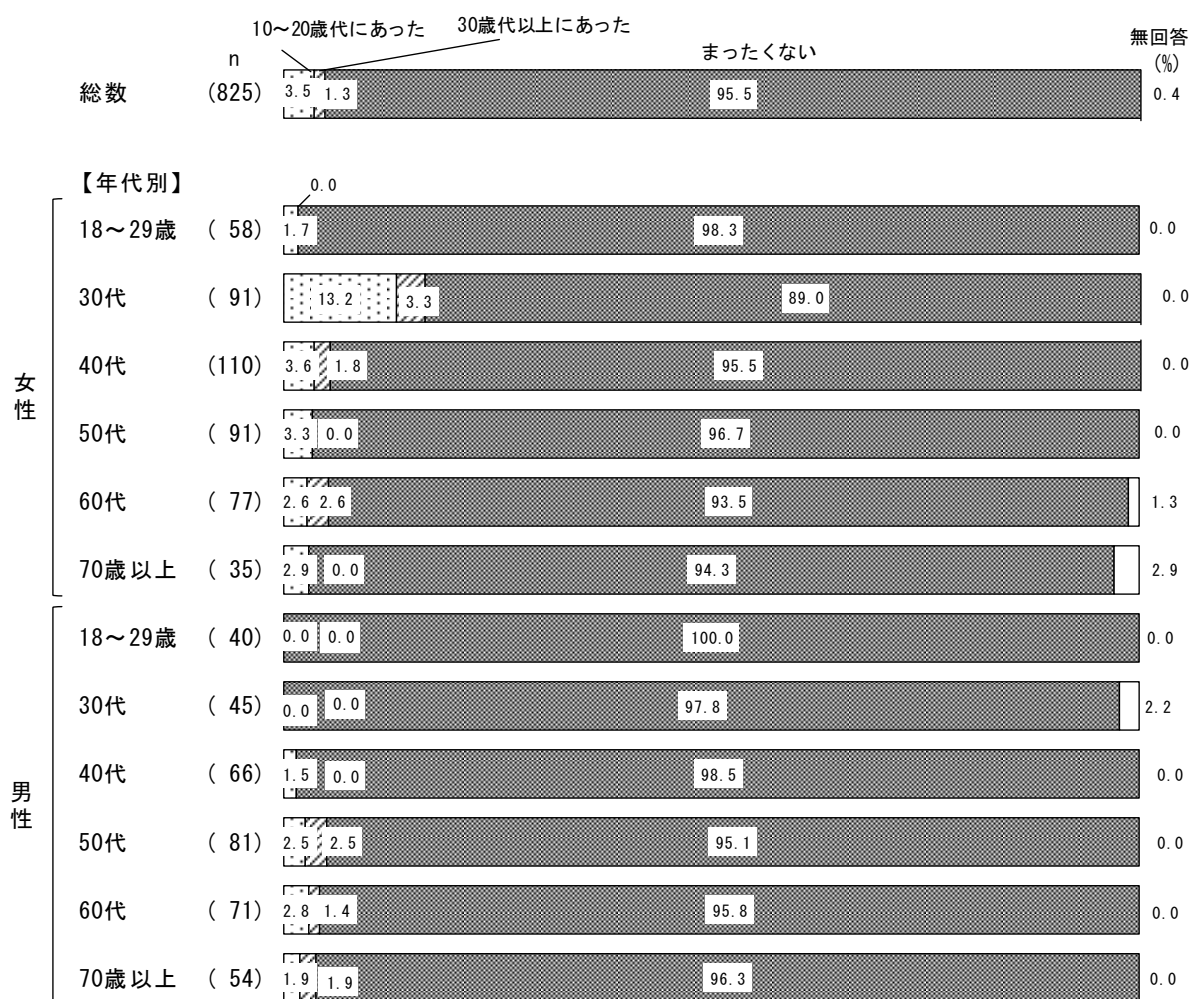
(c) 経済的圧迫（例えば、給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなど）

【年代別】

女性では、30代（『10～20歳代にあった』13.2%、「30歳代以上にあった」3.3%）が他の年代に比べて多くなっている。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図21-4 交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

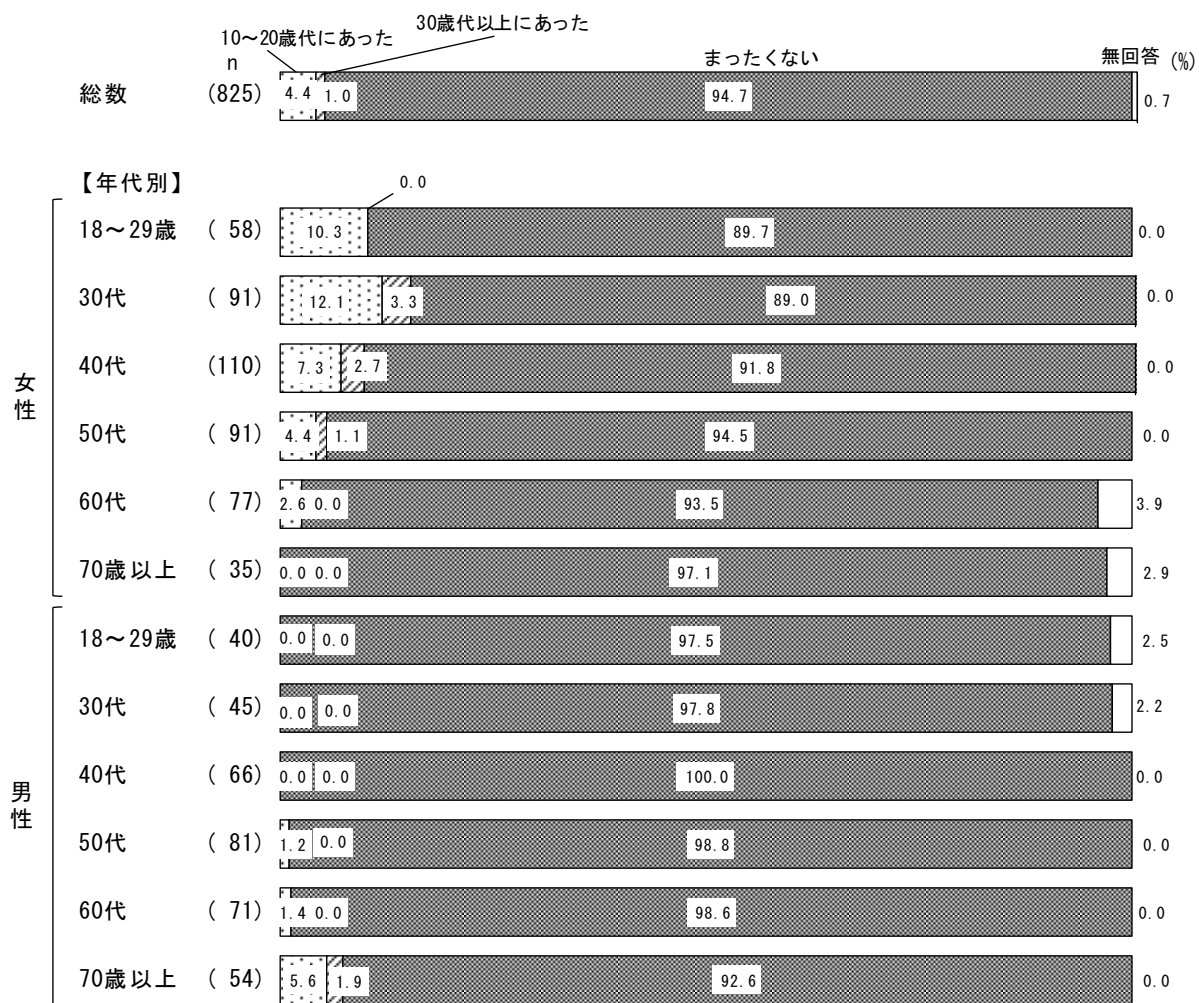


交際相手からの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 女性では、30代（『10～20歳代にあった』12.1%、「30歳代以上にあった」3.3%、合計15.4%）が最も多く、18～29歳（『10～20歳代にあった』10.3%）、40代（『10～20歳代にあった』7.3%、「30歳代以上にあった」2.7%、合計10.0%）が続く。
 男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図21-5 交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



交際相手からの被害経験の有無・まとめ 平成 29 年度内閣府調査との比較

(内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をする。)

【性別】

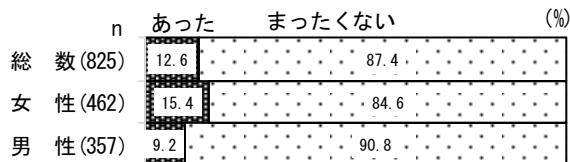
内閣府調査では、質問対象者が「交際相手がいた(いる)」人になっており、本県調査の対象者(全員)と異なるため、単純に比較することはできないが、『あった』と答えた人は、今回調査(女性15.4%、男性9.2%)では内閣府調査(女性21.4%、男性11.5%)より女性では6.0ポイント、男性では2.3ポイント少なくなっている。

【年代別】

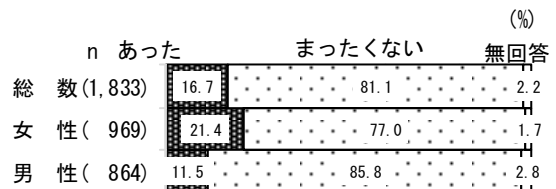
女性では、『あった』は20代(20.7%)で内閣府調査より15.3ポイント少なくなっている。男性でも、『あった』は20代(2.5%)で内閣府調査より15.5ポイント少なくなっている。

図21-6 交際相手からの被害経験の有無 平成29年度内閣府調査結果との比較(性別)

【今回調査】



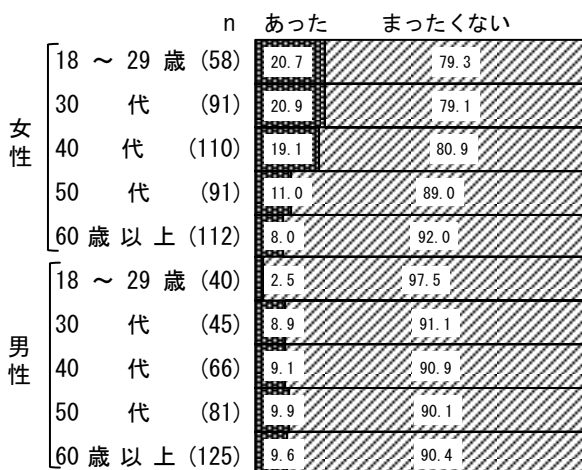
【平成29年度内閣府調査】



※『あった』は調査票選択肢の「10~20歳代にあった」「30歳代以上にあった」を合計したものの。

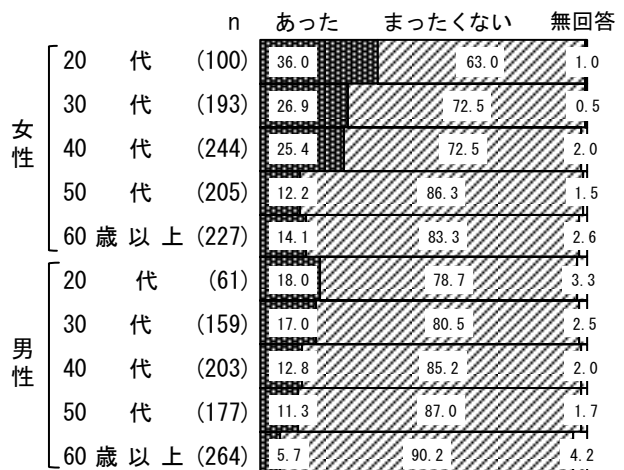
図21-7 交際相手からの被害経験の有無 平成29年度内閣府調査結果との比較(年代別)

【今回調査】



(%)

【平成29年度内閣府調査】

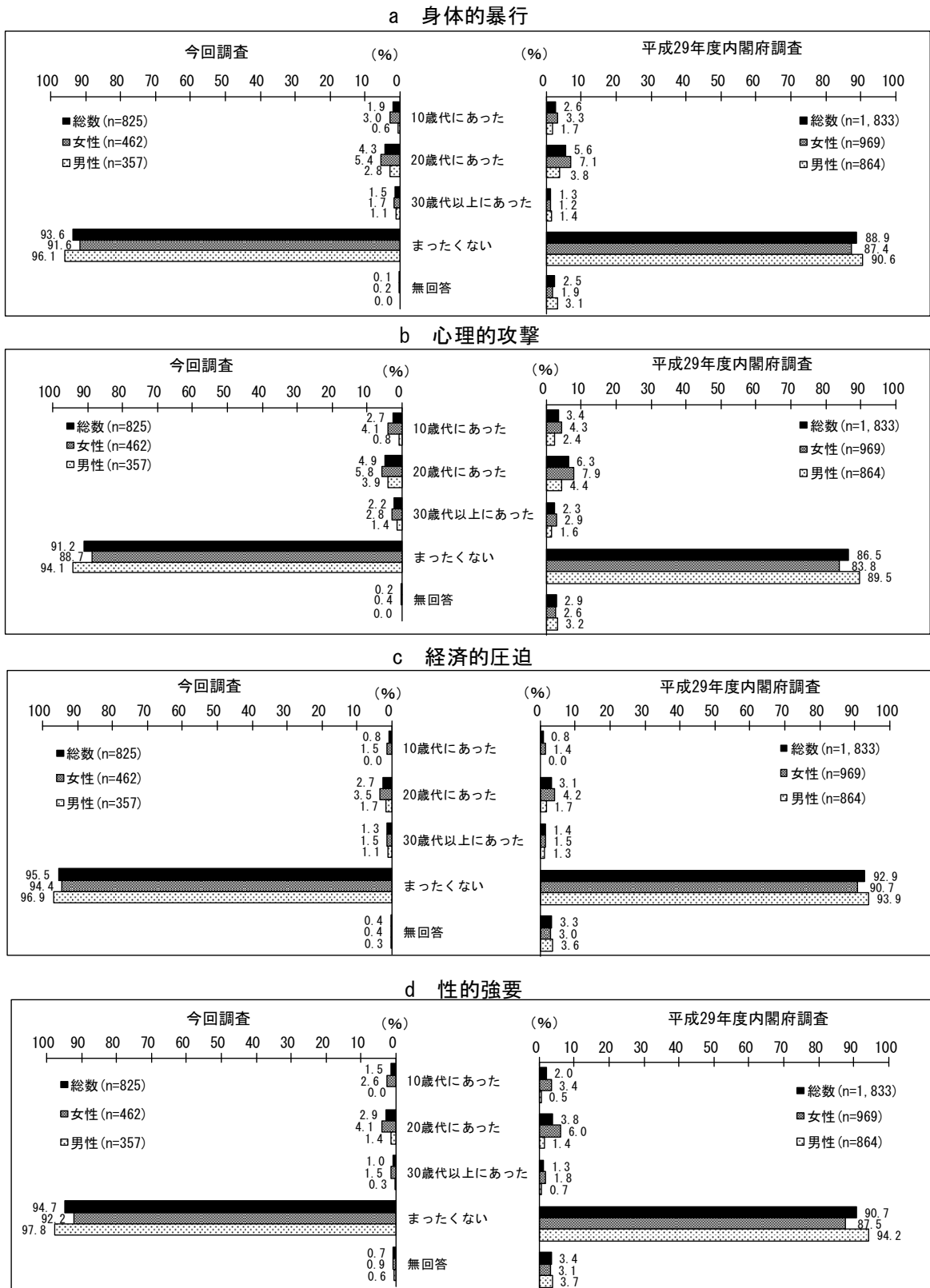


※『あった』は調査票選択肢の「10~20歳代にあった」「30歳代以上にあった」を合計したものの。

交際相手からの被害経験の有無・まとめ<平成29年度内閣府調査との比較>

全ての項目で内閣府調査と大きな差は見られない。

図21-8 交際相手からの被害経験の有無
 <平成29年度内閣府調査結果との比較> (性別)



交際相手からの被害経験の有無 被害の内容

交際相手からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では、「心理的攻撃のみ」と「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」（ともに2.4%）が最も多く、次いで「身体的暴行のみ」と「心理的攻撃と性的強要」（ともに1.9%）の順になっている。
 男性では、最も多いのが「心理的攻撃のみ」（2.2%）、次いで「身体的暴行のみ」（1.7%）、であり、「身体的暴行と心理的攻撃」、「心理的攻撃と経済的圧迫」（0.8%）となっている。

図21-9 交際相手からの被害経験の有無 （性別）

	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	性的 強要・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	ま つ た く な い
【性別】 (%)																	
総数	825	1.8	2.3	0.4	1.1	1.2	0.1	0.2	0.6	1.1	0.1	0.8	0.2	0.0	0.2	1.6	87.4
女性	462	1.9	2.4	0.4	1.5	1.5	0.2	0.4	0.4	1.9	0.0	1.1	0.4	0.0	0.2	2.4	84.6
男性	357	1.7	2.2	0.3	0.6	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	0.6	0.0	0.0	0.3	0.6	90.8

7 同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(問21「①交際相手」で『10～20歳代にあった』、「30歳代以上にあった」と答えた人で「①交際相手」と同居した経験 [いわゆる「同棲経験」]のある人にお聞きします。)

問21 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「②同居の際」の(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

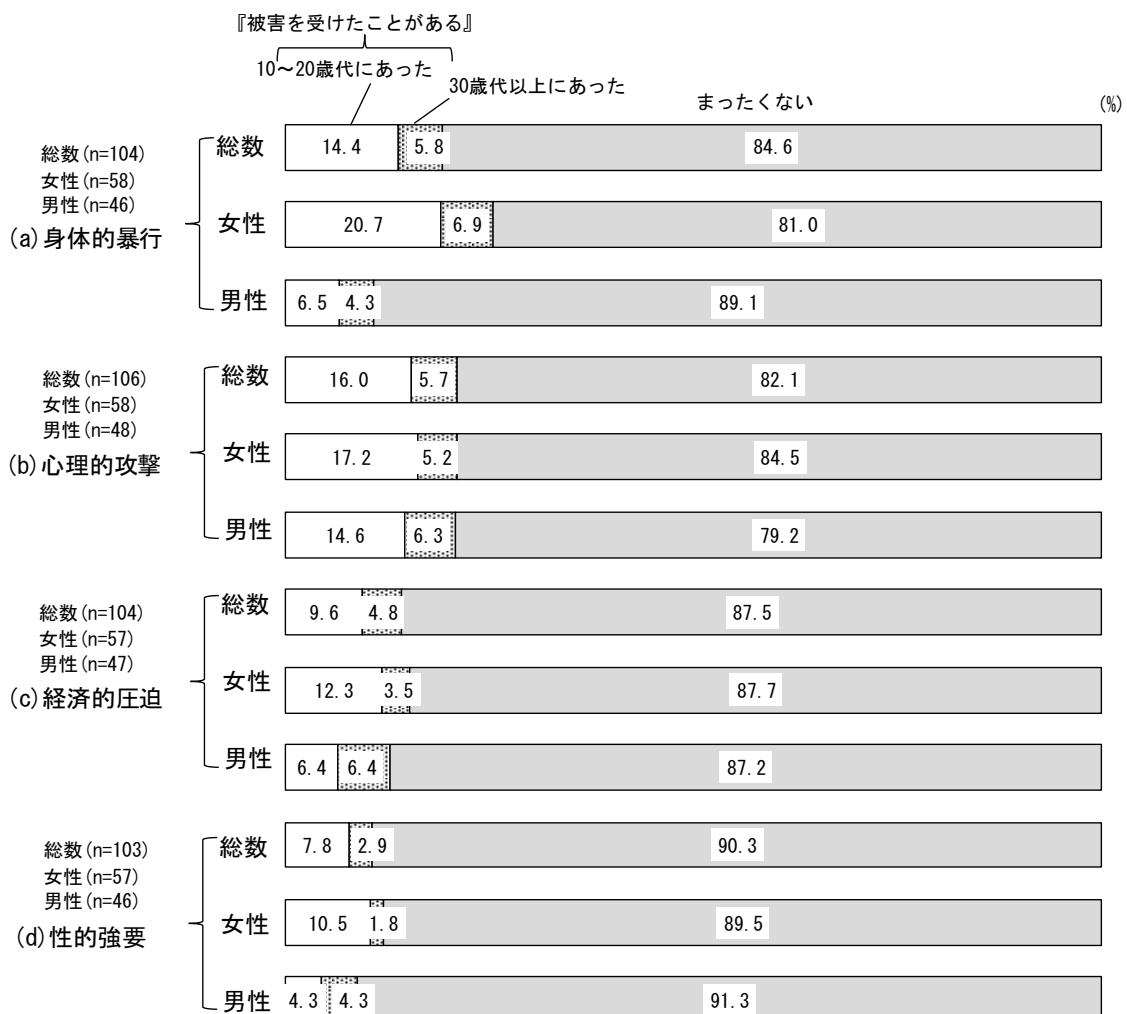
“(a) 身体的暴行”では、『10～20歳代にあった』(女性20.7%、男性6.5%)、「30歳代以上にあった」(女性6.9%、男性4.3%)となり、その合計では女性が男性を16.8ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、『10～20歳代にあった』は(女性17.2%、男性14.6%)、「30歳代以上にあった」(女性5.2%、男性6.3%)で、合計では女性が男性を1.5ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、『10～20歳代にあった』(女性12.3%、男性6.4%)、「30歳代以上にあった」(女性3.5%、男性6.4%)となり、合計では女性が男性を3.0ポイント上回っている。

“(d) 性的強要”では、『10～20歳代にあった』(女性10.5%、男性4.3%)、「30歳代以上にあった」(女性1.8%、男性4.3%)となり、合計では女性が男性を3.7ポイント上回っている。

図 21-10 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)

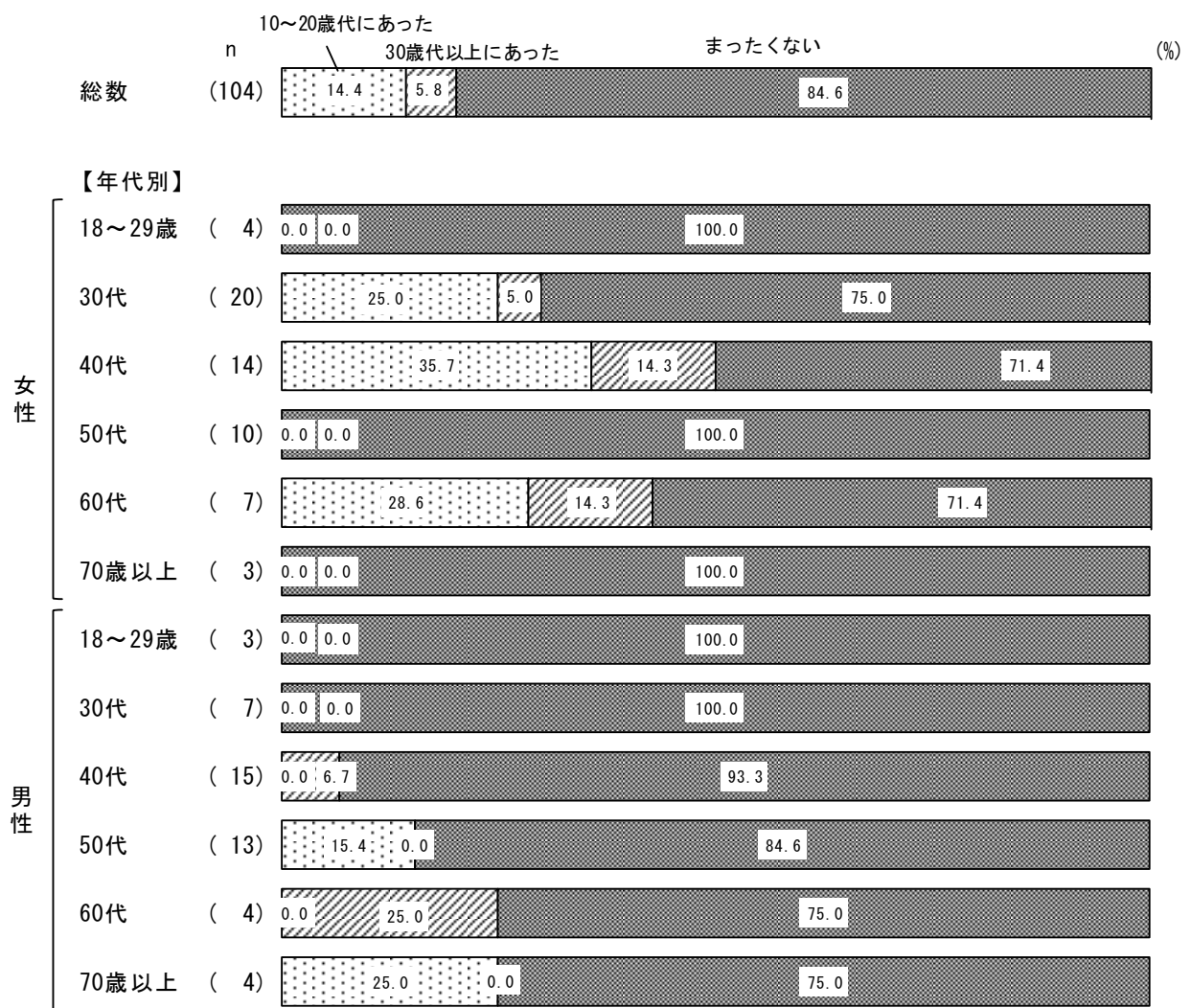


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、40代（『10～20歳代にあった』35.7%、「30歳代以上にあった」14.3%、合計50.0%）が最も多くなっている。
 男性では、50代が『10～20歳代にあった』（15.4%）で最も多くなっている。

図21-11 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行（年代別）



同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

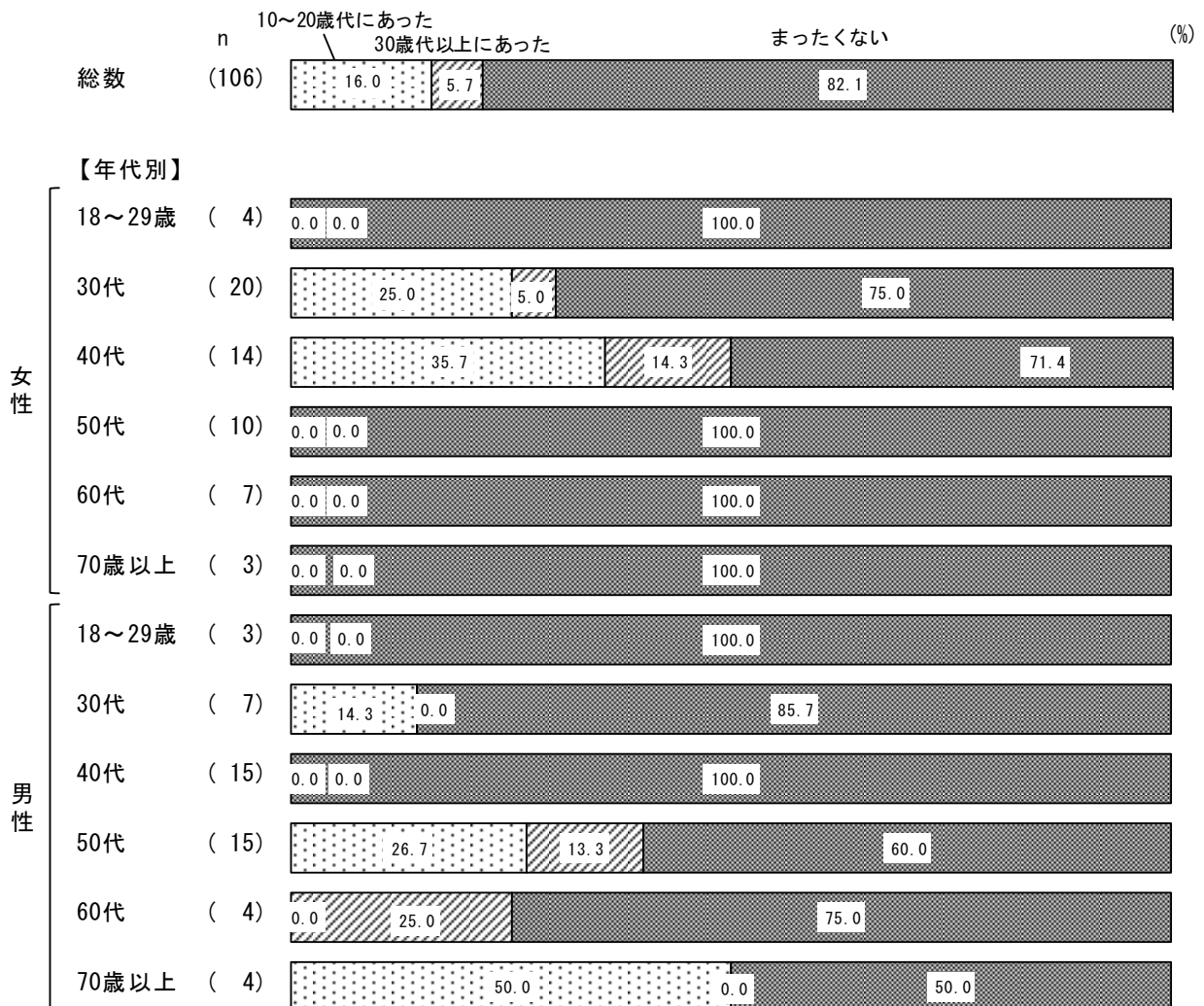
【年代別】

※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、40代（『10～20歳代にあった』35.7%、「30歳代以上にあった」14.3%、合計50.0%）が最も多くなっている。

男性では、50代（『10～20歳代にあった』26.7%、「30歳代以上にあった」13.3%、合計40.0%）で最も多くなっている。

図21-12 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）

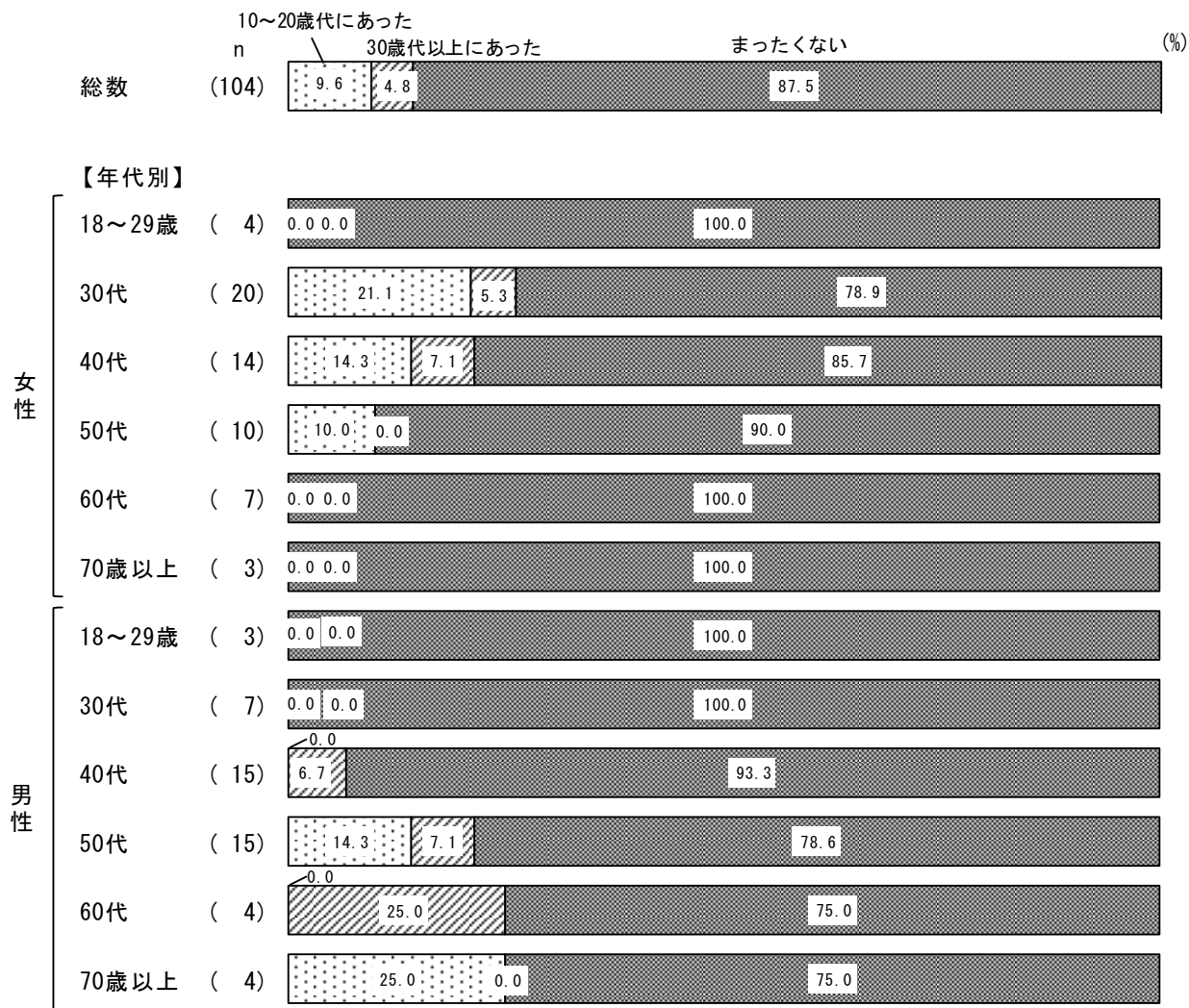


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(c) 経済的圧迫（例えば、給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、30代（『10～20歳代にあった』21.1%、「30歳代以上にあった」5.3%、合計26.4%）が最も多くなっている。
 男性では、50代（『10～20歳代にあった』14.3%、「30歳代以上にあった」7.1%、合計21.4%）が最も多くなっている。

図21-13 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

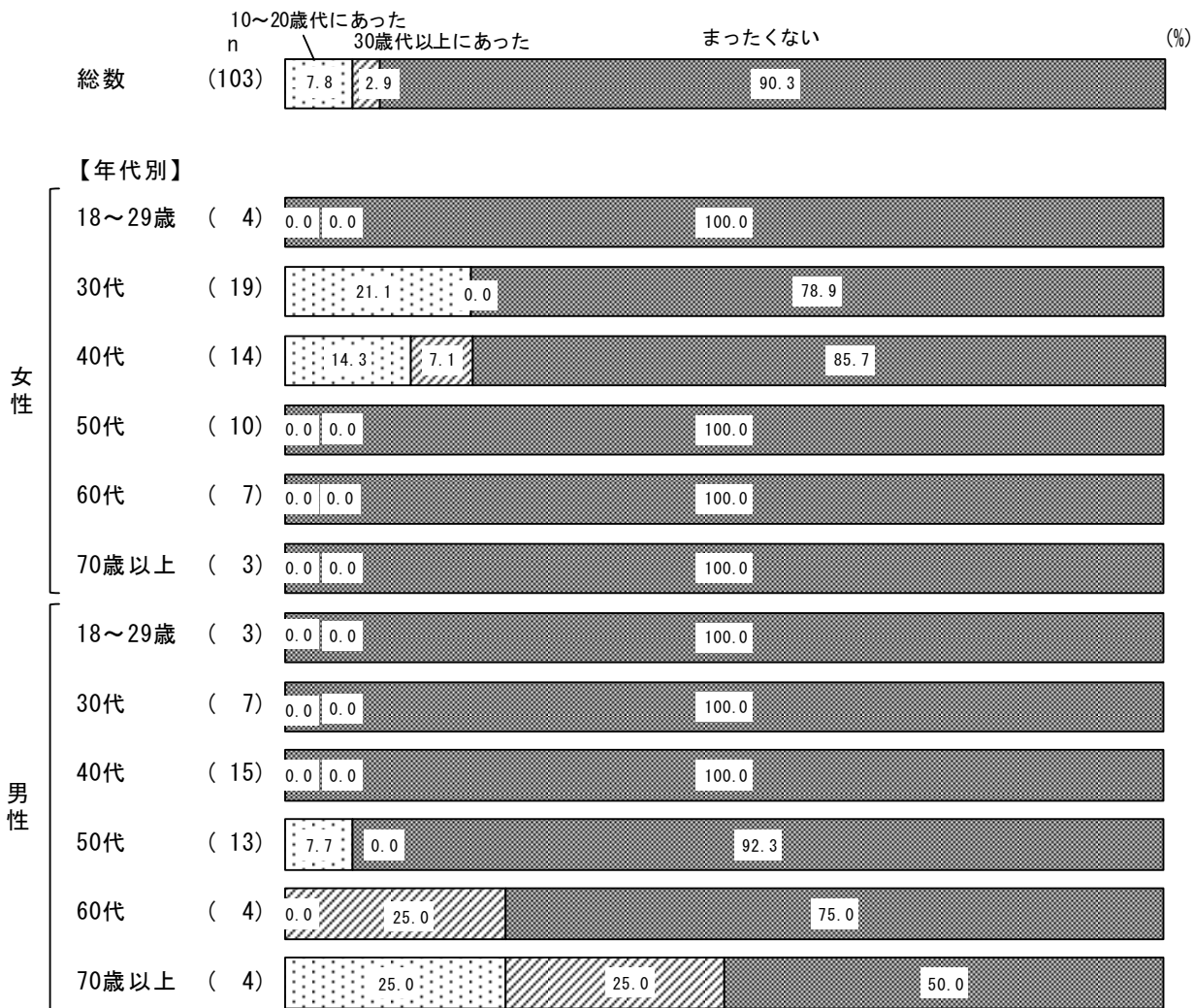


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、40代（『10～20歳代にあった』14.3%、「30歳代以上にあった」7.1%、合計21.4%）が最も多くなっている。
 男性では、唯一50代で『10～20歳代にあった』（7.7%）となっている。

図21-14 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



同居の際の交際相手からの被害経験の有無・まとめ 平成29年度内閣府調査との比較
 (内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較
 をする。)

【性別】

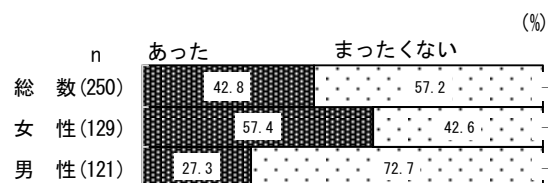
内閣府調査では、質問対象者が「交際相手がいた (いる)」人になっており、本県調査の
 対象者と異なるため、単純に比較することはできないが、女性では、『あった』が35.0ポイ
 ント、男性でも、『あった』が2.3ポイント、内閣府調査より少なくなっている。

図 21-15 同居の際の交際相手からの被害経験の有無
 平成 29 年度内閣府調査結果との比較 (性別)

【今回調査】



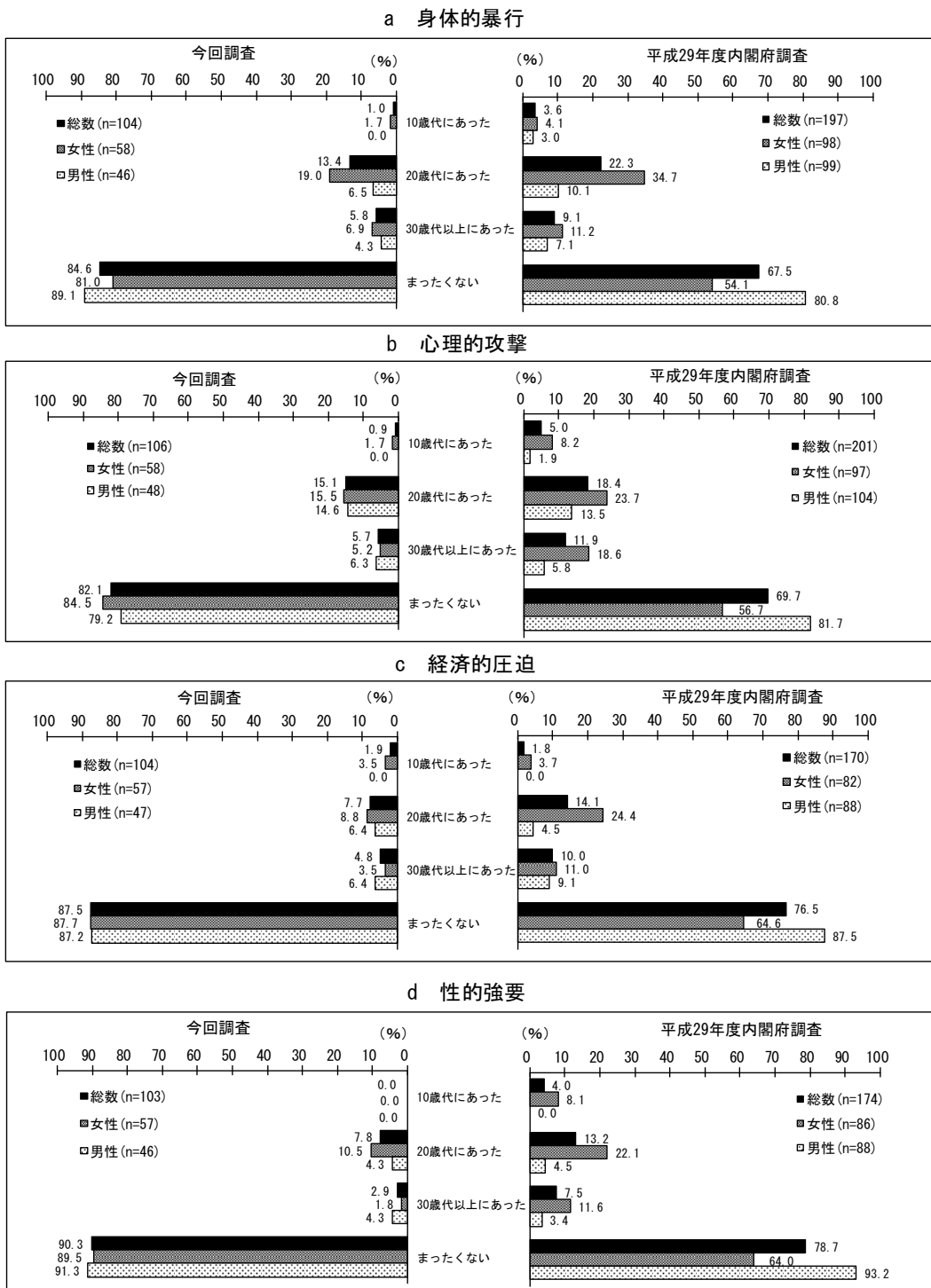
【平成 29 年度内閣府調査】



同居の際の交際相手からの被害経験の有無・まとめ<平成29年度内閣府調査との比較>

女性では、いずれかの年代で被害にあったと回答する割合は、全ての項目において、内閣府を下回っている。
 男性では、“(b) 心理的攻撃”の被害経験について、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」で内閣府調査よりもそれぞれ1.1ポイント、0.5ポイント上回っており、“(c) 経済的圧迫”の被害経験について、「20歳代にあった」で1.9ポイント、“(d) 性的強要”は「30歳代以上にあった」で0.9ポイント上回っている。

図 21-16 同居の際の交際相手からのこれまでの被害経験の有無
 平成29年度内閣府調査結果との比較（性別）



同居の際の交際相手からの被害経験の有無 被害の内容

交際相手からの同居の際における被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」(6.9%)が最も多く、次いで「身体的暴行のみ」と「身体的暴行と心理的攻撃」「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫」(3.4%)となっている。

男性では「心理的攻撃のみ」(6.3%)が最も多く、次いで「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫」(4.2%)となっている。

図 21-17 同居の際の交際相手からの被害経験の有無（性別）

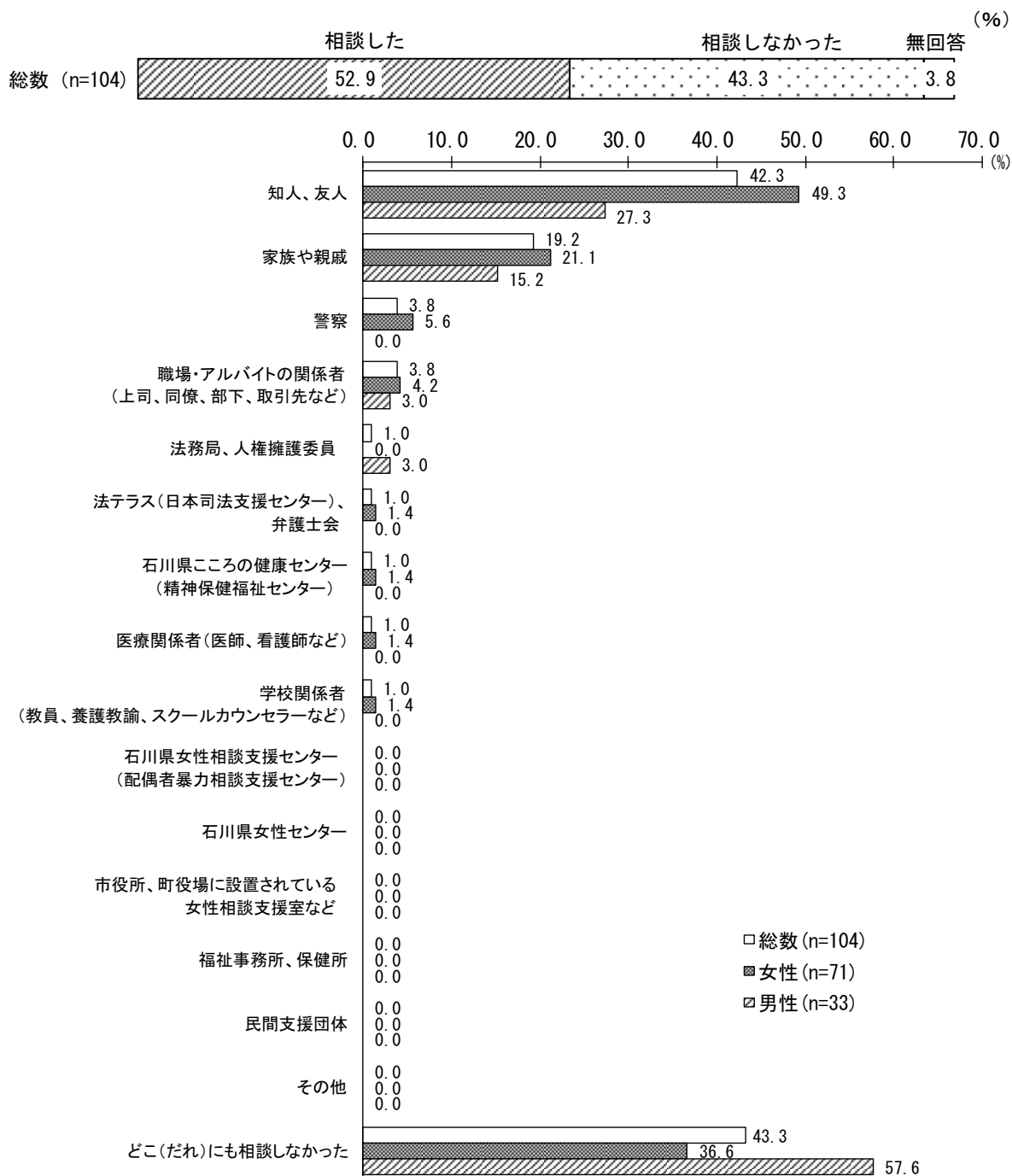
	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	まったく ない
【性別】 (%)																	
総数	106	1.9	2.8	0.9	1.9	2.8	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	3.8	0.9	0.0	0.9	4.7	76.4
女性	58	3.4	0.0	1.7	1.7	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	1.7	0.0	0.0	6.9	77.6
男性	48	0.0	6.3	0.0	2.1	2.1	2.1	0.0	2.1	2.1	0.0	4.2	0.0	0.0	2.1	2.1	75.0

8 交際相手からの暴力についての相談経験の有無

(問21で1つでも『10～20歳代にあった』、「30歳代以上にあった」と答えた人にお聞きします。)
 問21-1 あなたは交際相手から受けたそのような行為について、どこ(だれ)かに打ち明けた
 り、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつ
 でも)

「どこ(だれ)に相談しなかった」人は43.3%(女性36.6%、男性57.6%)で男性が上
 回っている。
 相談先では、男女とも「知人、友人」(女性49.3%、男性27.3%)が最も多く、次いで
 「家族や親戚」(女性21.1%、男性15.2%)と続く。
 他の項目は1割を下回っている。

図21-1-1 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧(性別)

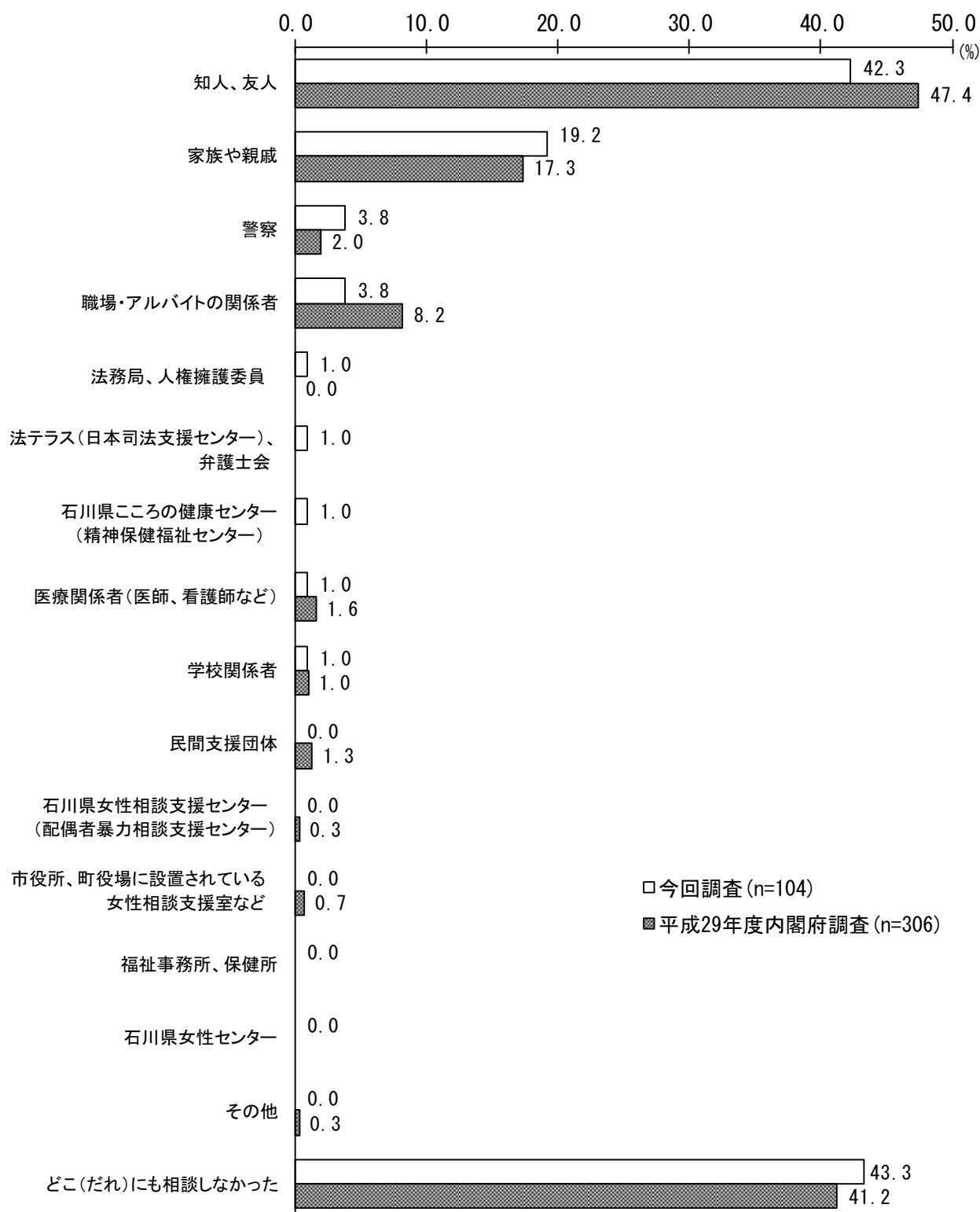


交際相手からの暴力についての相談経験の有無

【平成29年度内閣府調査との比較】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」人は、2.1ポイント今回調査が上回っている。「知人、友人」では5.1ポイント内閣府調査を下回っている。

図21-1-2 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧
(平成29年度内閣府調査との比較)



9 交際相手からの暴力について相談しなかった理由

(問21-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人にお聞きします。)

問21-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

交際相手から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、女性で最も多かったのは「相談するほどのことではないと思ったから」(38.5%)であった。男性で最も多かったのは「自分にも悪いところがあると思ったから」(42.1%)であった。

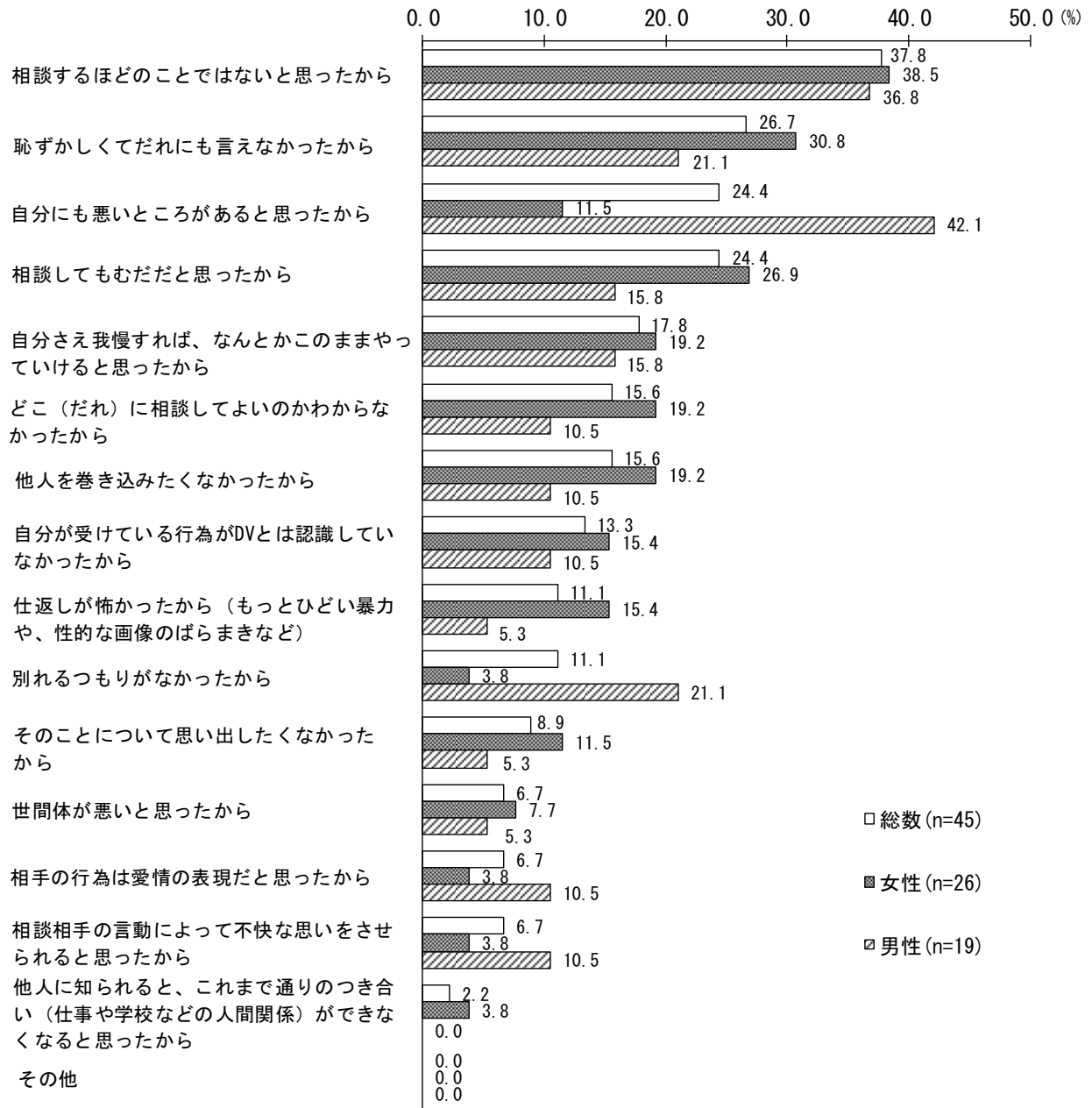
女性では、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(30.8%)、「相談してもむだだと思ったから」(26.9%)が続く。

男性では、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(36.8%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「別れるつもりがなかったから」がともに21.1%で並んだ。

女性の方が男性より多くなったのは、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」などがある。

男性の方が女性より多くなったのは、「別れるつもりがなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」などであった。

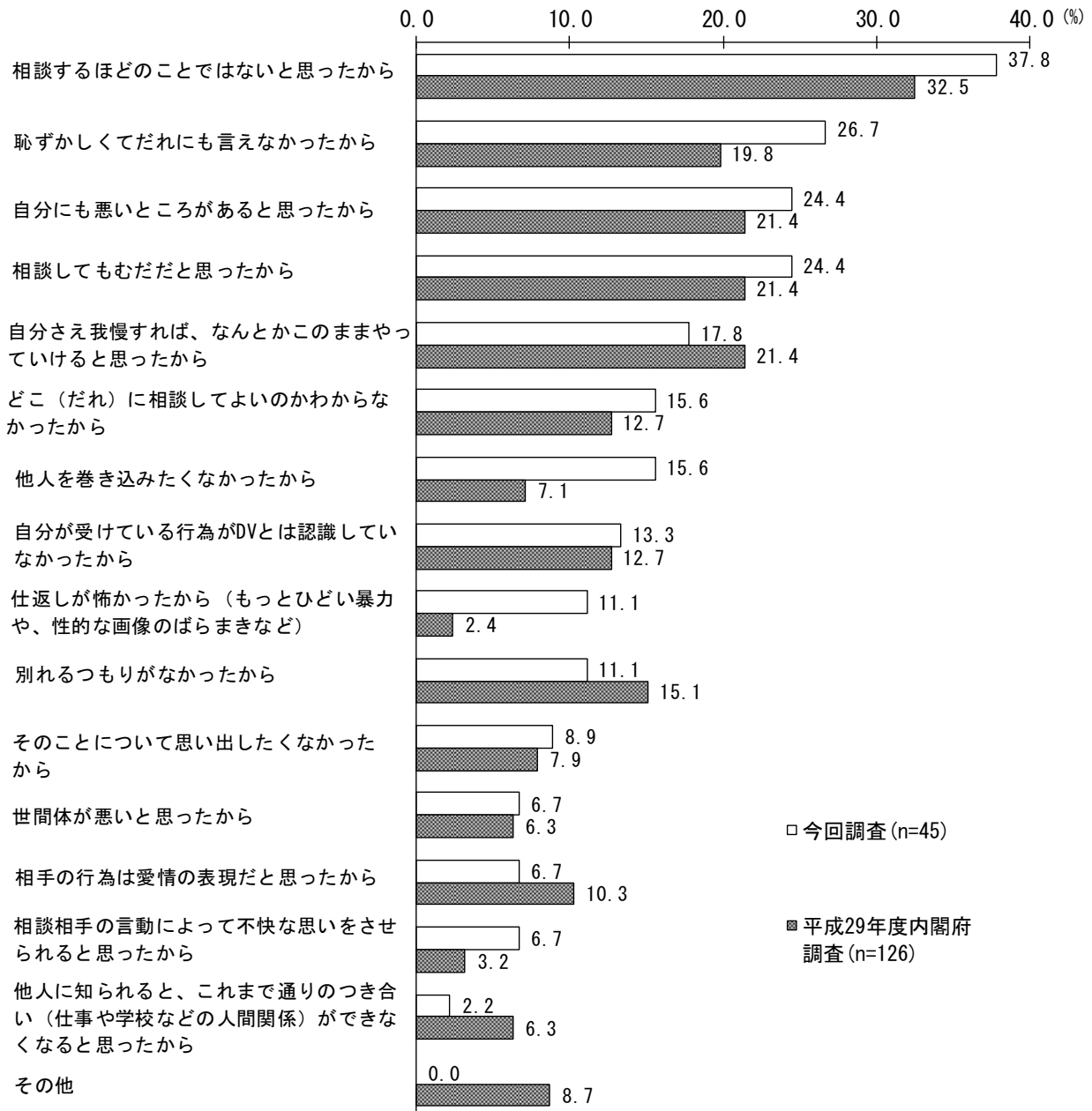
図 21-2-1 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧（性別）



【平成29年度内閣府調査との比較】

「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「別れるつもりがなかったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」「他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから」の項目で内閣府調査を下回っている。他の項目では内閣府調査を上回っている。

図 21-2-2 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧
(平成 29 年度内閣府調査との比較)



10 性暴力被害に関するイメージ

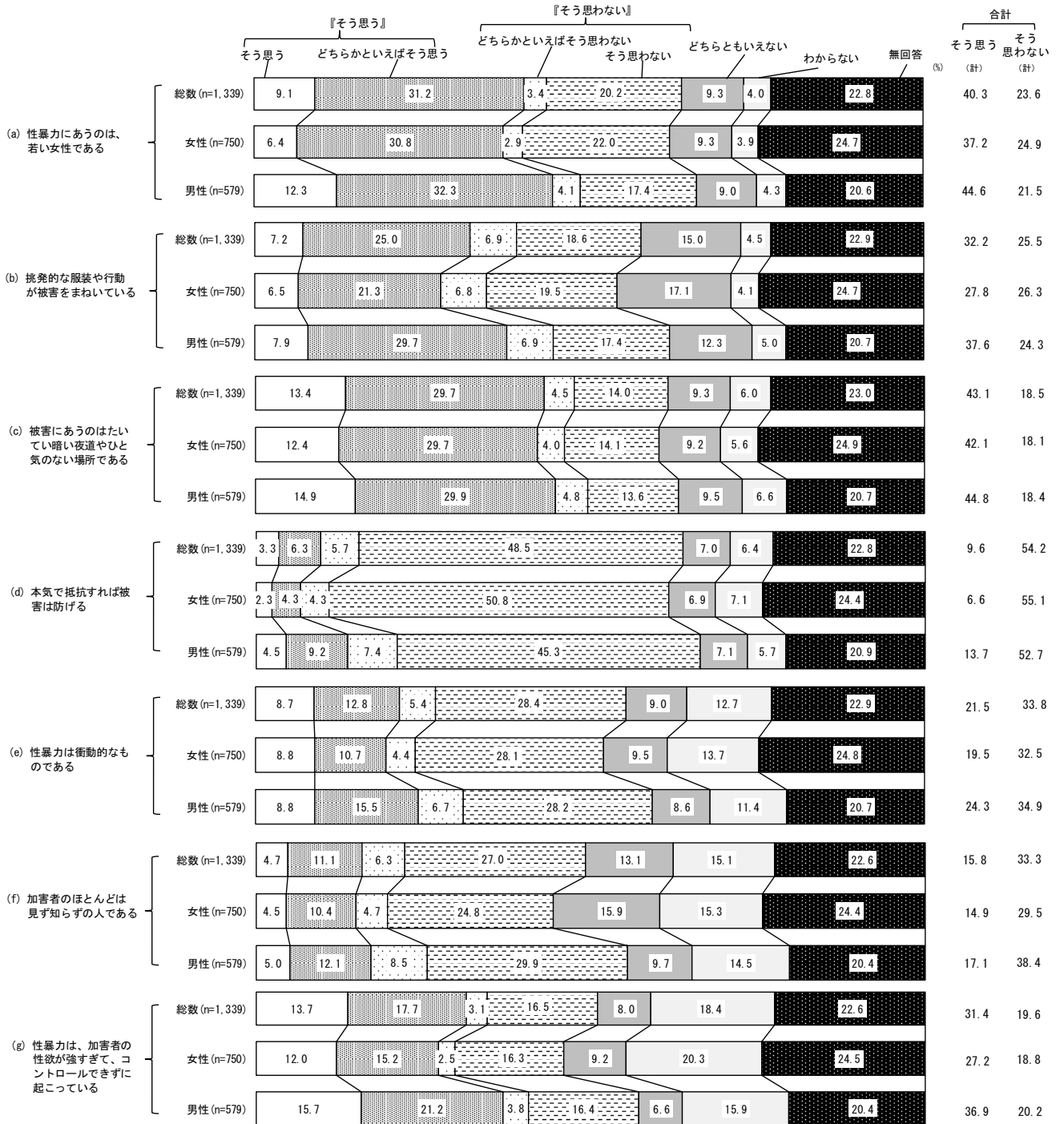
問 22 次の (a)～(g) について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ) [今年度新規調査項目]

男女とも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多かったのは「(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である」(女性42.1%、男性44.8%)であった。次いで、「(a) 性暴力にあうのは、若い女性である」(女性37.2%、男性44.6%)、「(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている」(女性27.8%、男性37.6%)となっている。

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは「(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる」(女性55.1%、男性52.7%)であった。

男女の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の差が大きいものとしては「(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている」(9.8ポイント差)と「(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている」(9.7ポイント差)であり、ともに男性が上回っている。

図 22-1 性暴力被害に関するイメージ 項目別一覧 (性別)



※『そう思う (計)』は調査票選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計したもの。『そう思わない (計)』は調査票選択肢の「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計したもの。

性暴力被害に関するイメージ

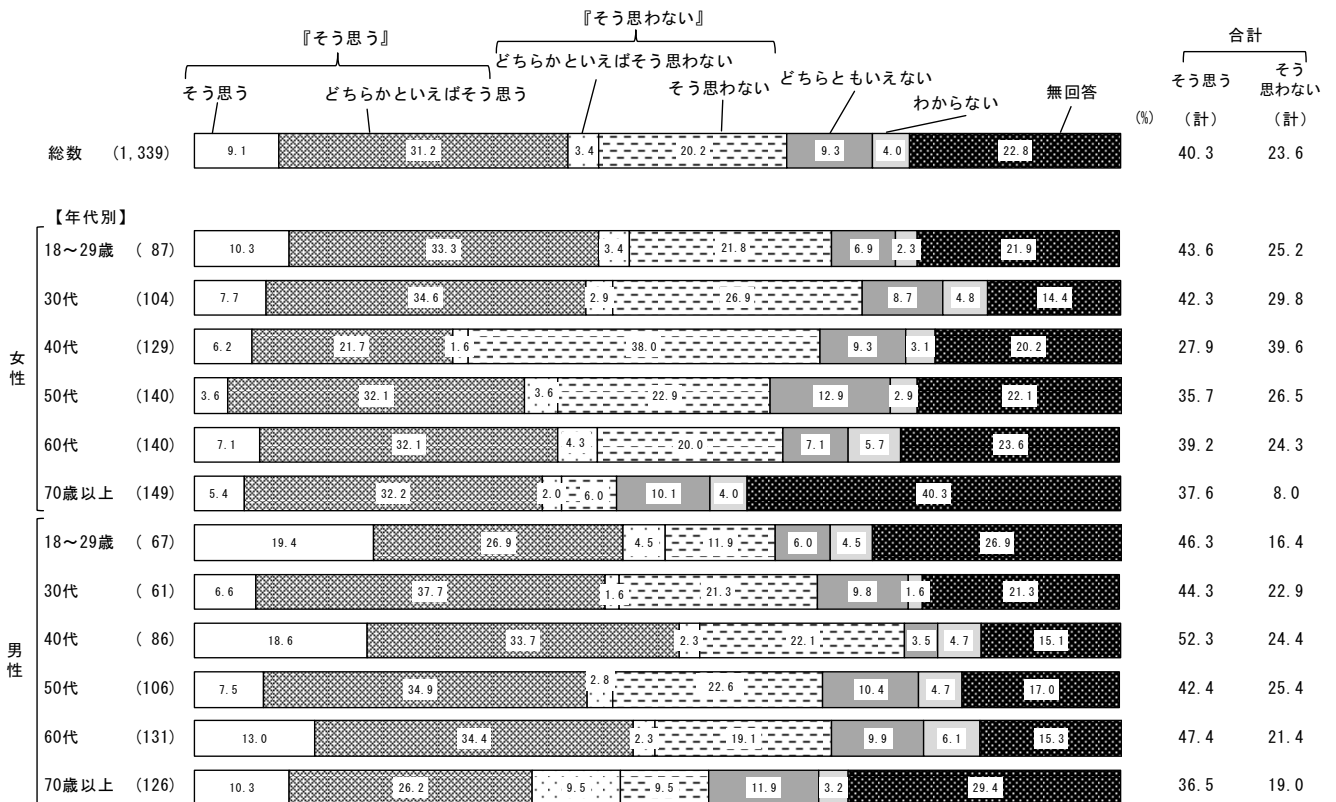
(a) 性暴力にあうのは、若い女性である

【年代別】

女性では『そう思わない（計）』が40代（39.6%）で最も多く、『そう思う（計）』は18～29歳（43.6%）で最も多かった。

男性では『そう思う（計）』が40代（52.3%）で最も多かった。

図 22-2 性暴力被害に関するイメージ (a) 性暴力にあうのは、若い女性である（年代別）



性暴力被害に関するイメージ

(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている

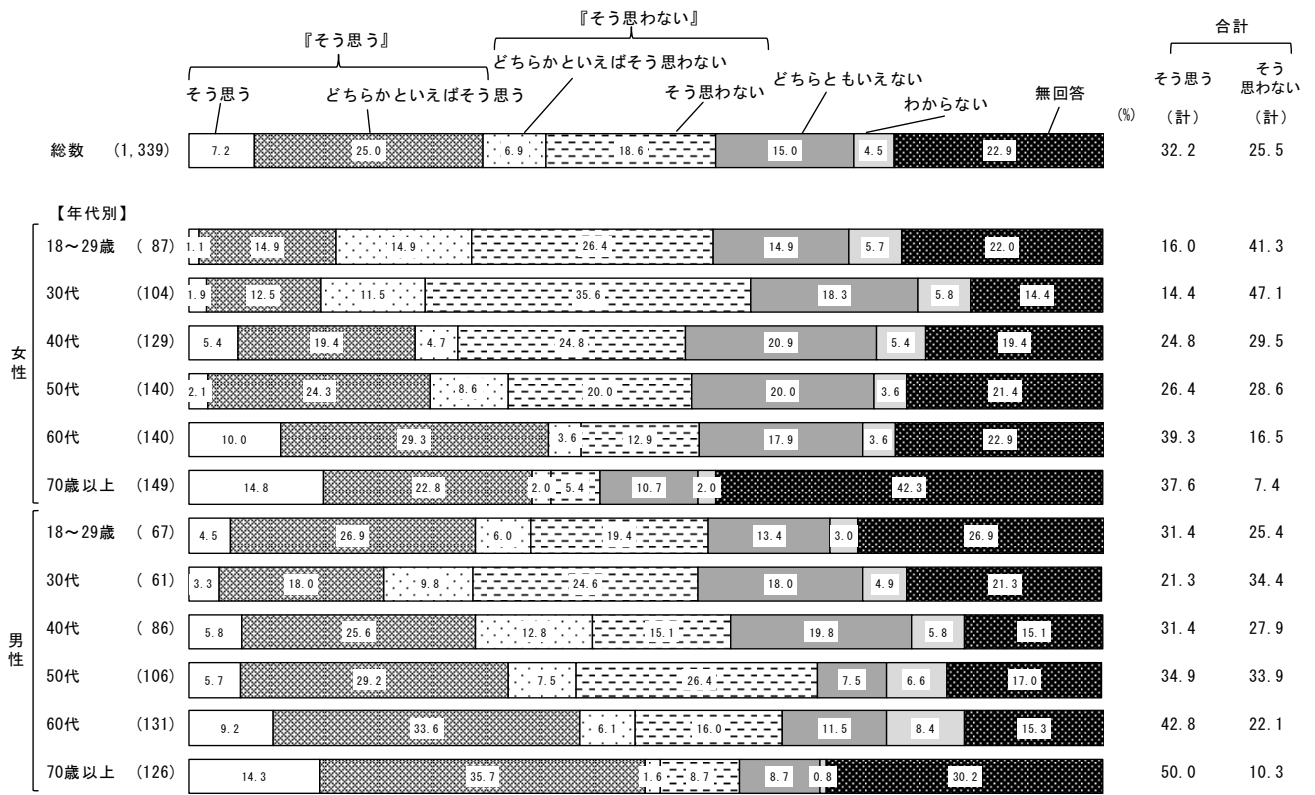
【年代別】

女性では『そう思わない（計）』は30代（47.1%）で最も多く、『そう思う（計）』は60代（39.3%）で最も多かった。

男性では『そう思う（計）』が70歳以上（50.0%）で最も多かった。

図 22-3 性暴力被害に関するイメージ

(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている（年代別）



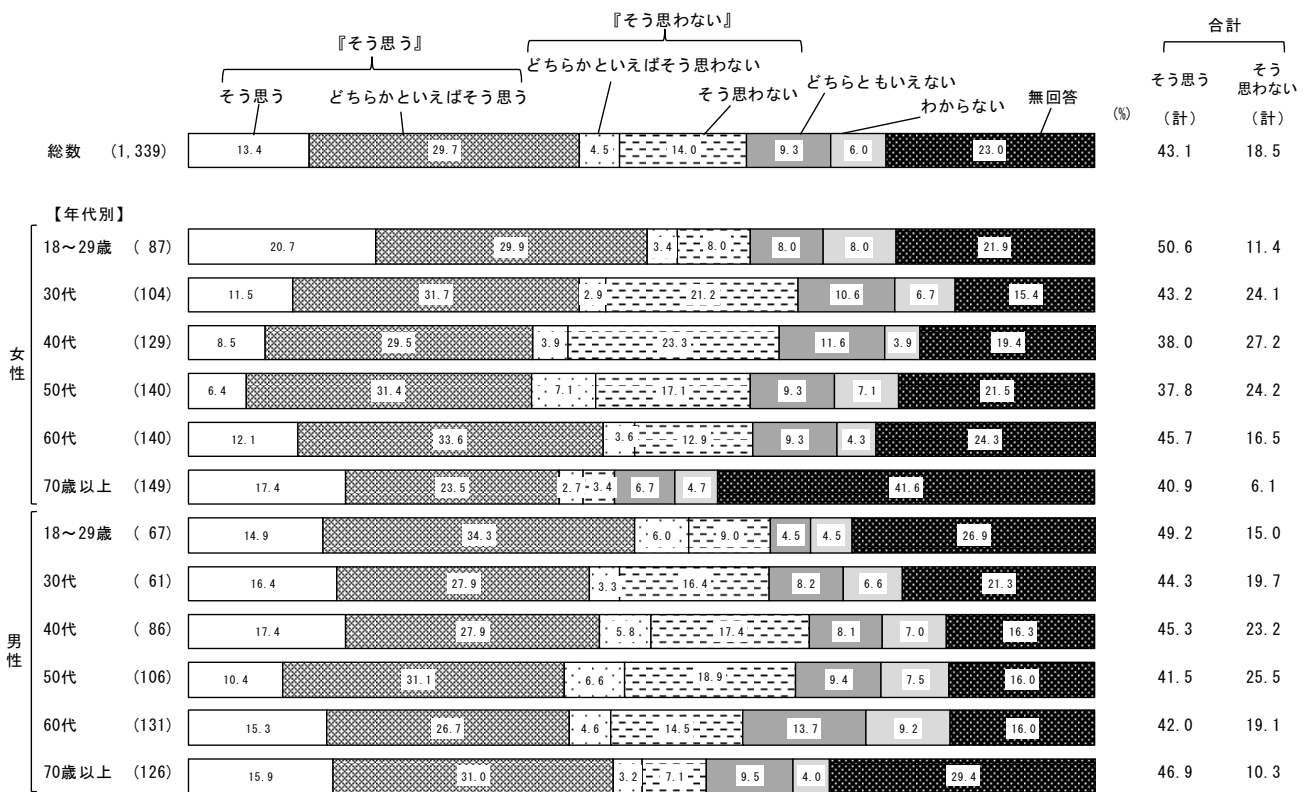
性暴力被害に関するイメージ

(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である

【年代別】
 男女ともに『そう思う（計）』が18～29歳（女性50.6%、男性49.2%）で最も多かった。
 女性では『そう思わない（計）』が最も多いのは40代（27.2%）であり、男性では50代（25.5%）が最も多かった。

図 22-4 性暴力被害に関するイメージ

(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である（年代別）

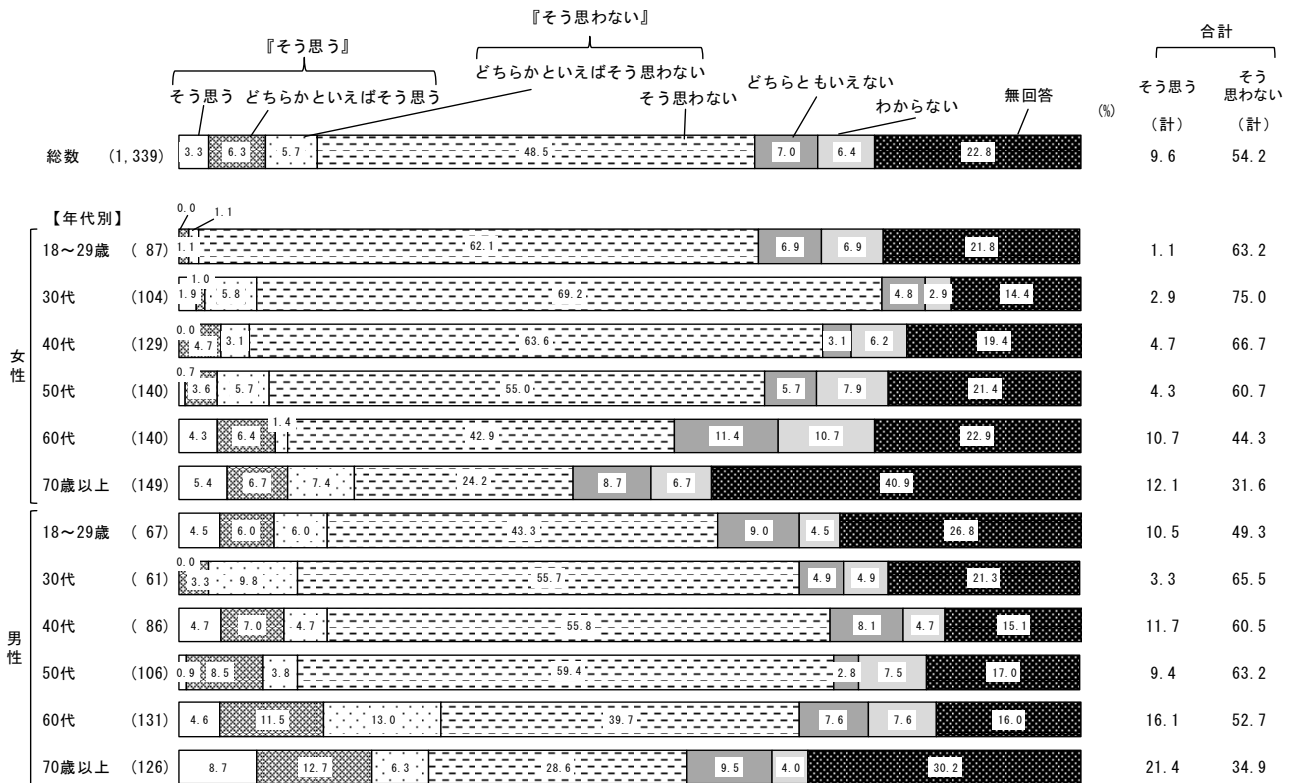


性暴力被害に関するイメージ

(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる

【年代別】
 女性では70歳以上 (12.1%) と60代 (10.7%) で『そう思う (計)』が1割を超えている。
 男性では70歳以上 (21.4%)、60代 (16.1%)、40代 (11.7%)、18~29歳 (10.5%) で、『そう思う (計)』が1割を超えている。

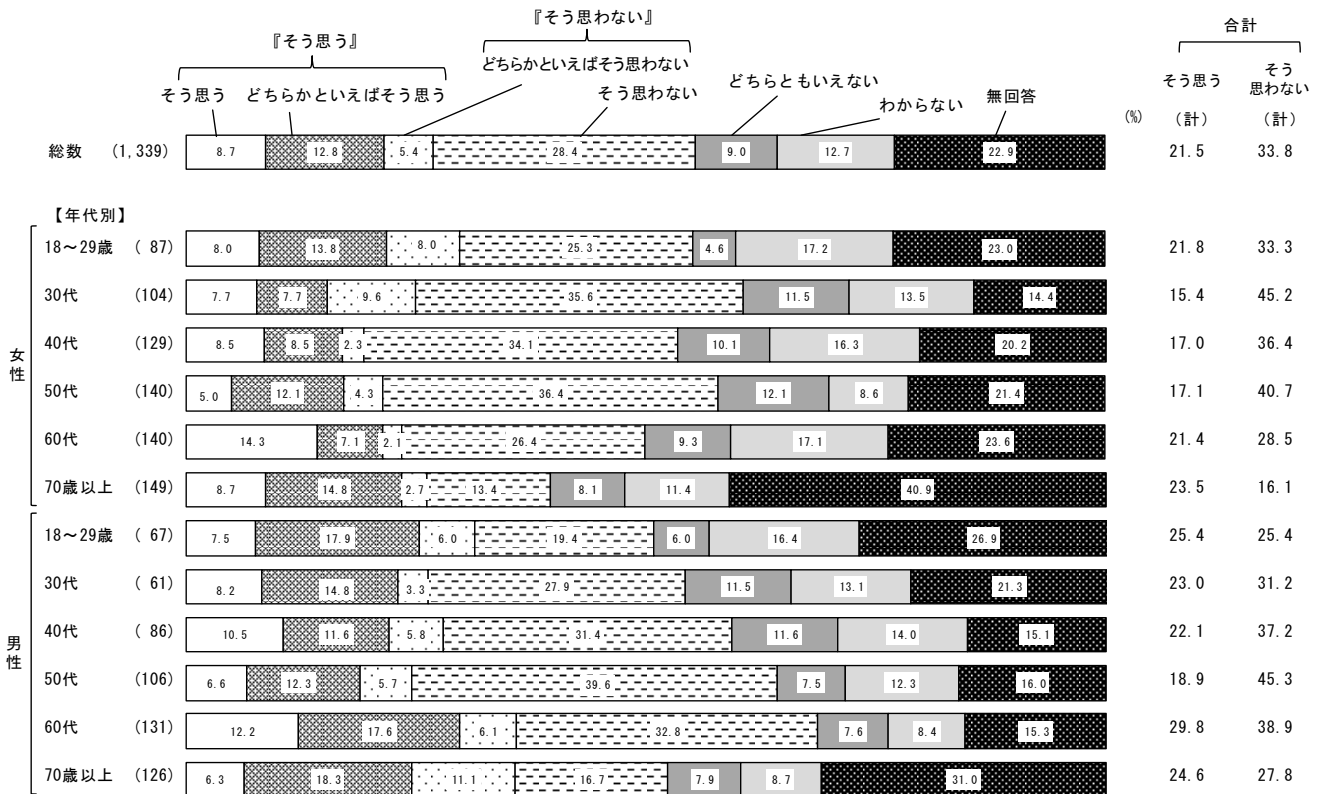
図 22-5 性暴力被害に関するイメージ (d) 本気で抵抗すれば被害は防げる (年代別)



性暴力被害に関するイメージ
 (e) 性暴力は衝動的なものである

【年代別】
 女性では『そう思わない（計）』が30代（45.2%）で最も多かった。
 男性では『そう思わない（計）』が50代（45.3%）で最も多かった。

図 22-6 性暴力被害に関するイメージ (e) 性暴力は衝動的なものである（年代別）



性暴力被害に関するイメージ

(f) 加害者のほとんどは見ず知らずの人である

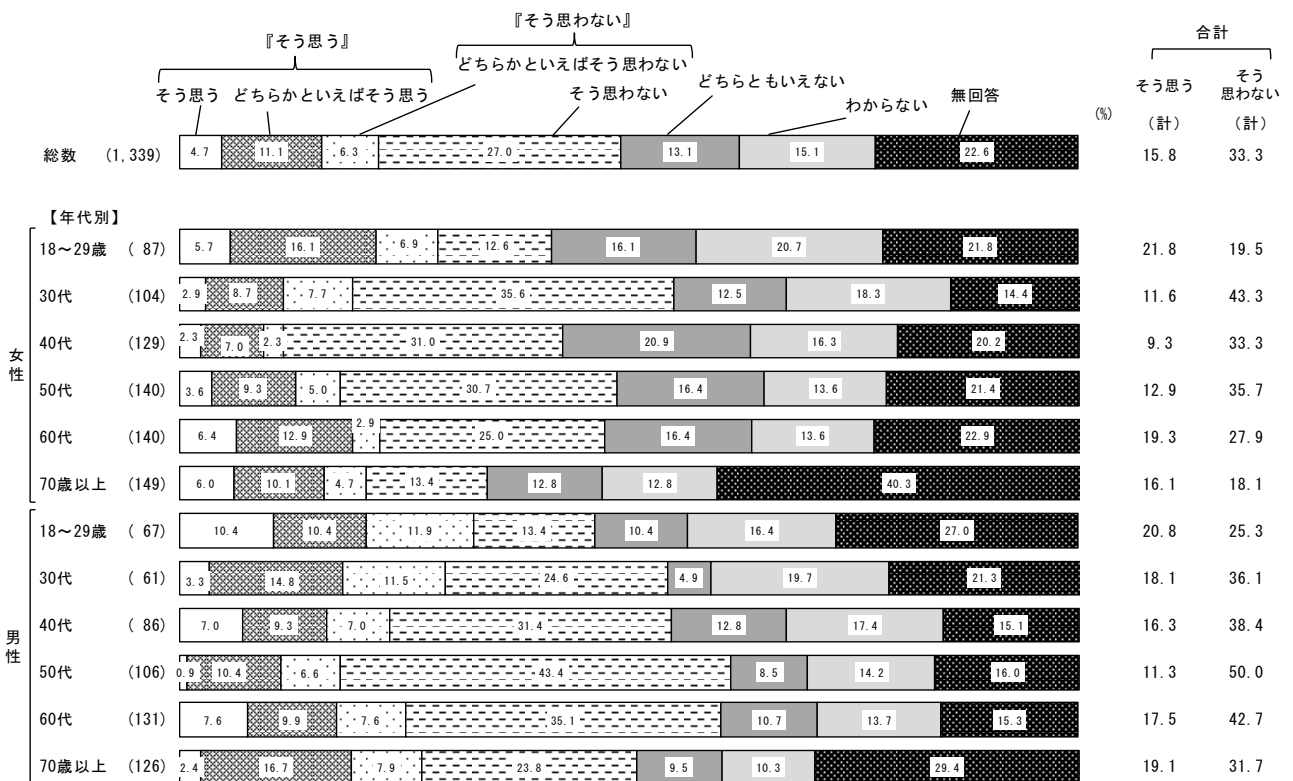
【年代別】

女性では『そう思う (計)』が18～29歳 (21.8%)、『そう思わない (計)』は30代 (43.3%)で最も多かった。

男性では、『そう思う (計)』が18～29歳 (20.8%)、『そう思わない (計)』が50代 (50.0%)で最も多かった。

図 22-7 性暴力被害に関するイメージ

(f) 加害者のほとんどは見ず知らずの人である (年代別)



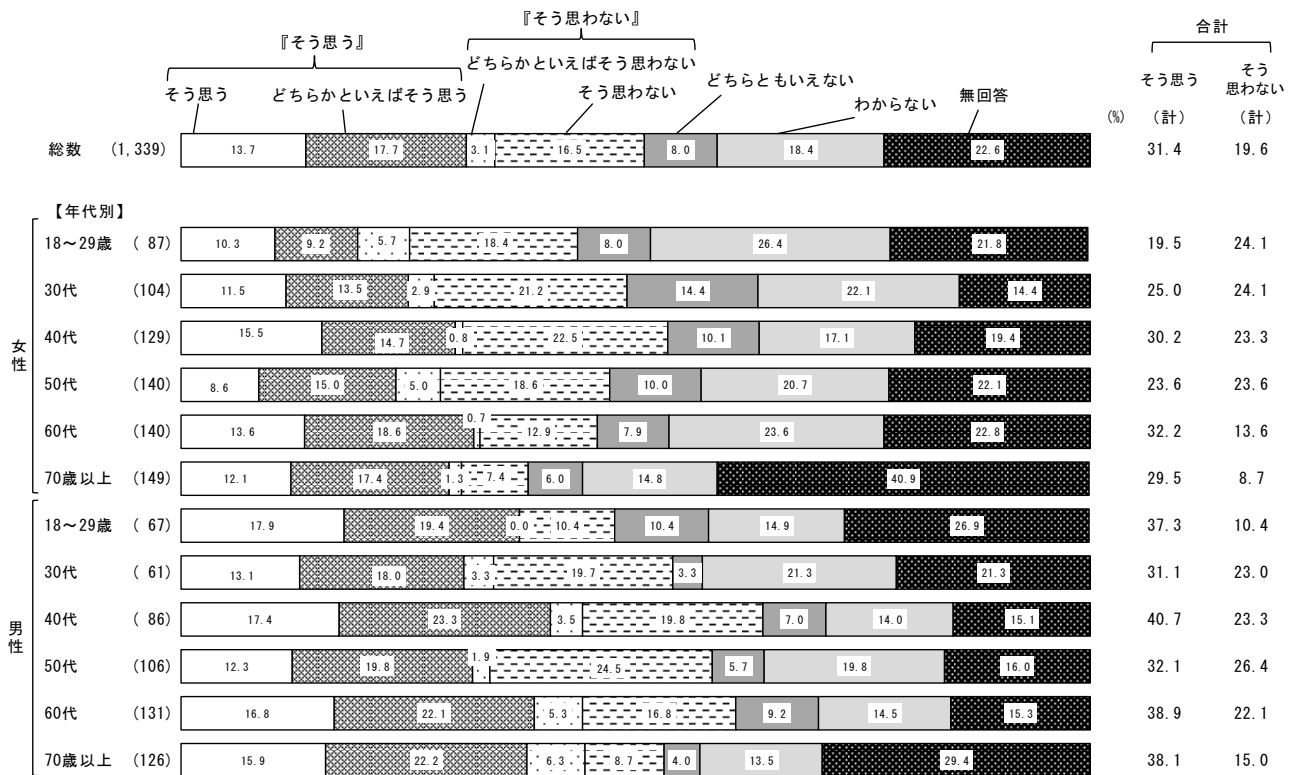
性暴力被害に関するイメージ

(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている

【年代別】
 女性では『そう思う（計）』が60代（32.2%）で最も多かった。
 男性では『そう思う（計）』が40代（40.7%）で最も多かった。

図 22-8 性暴力被害に関するイメージ

(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている（年代別）

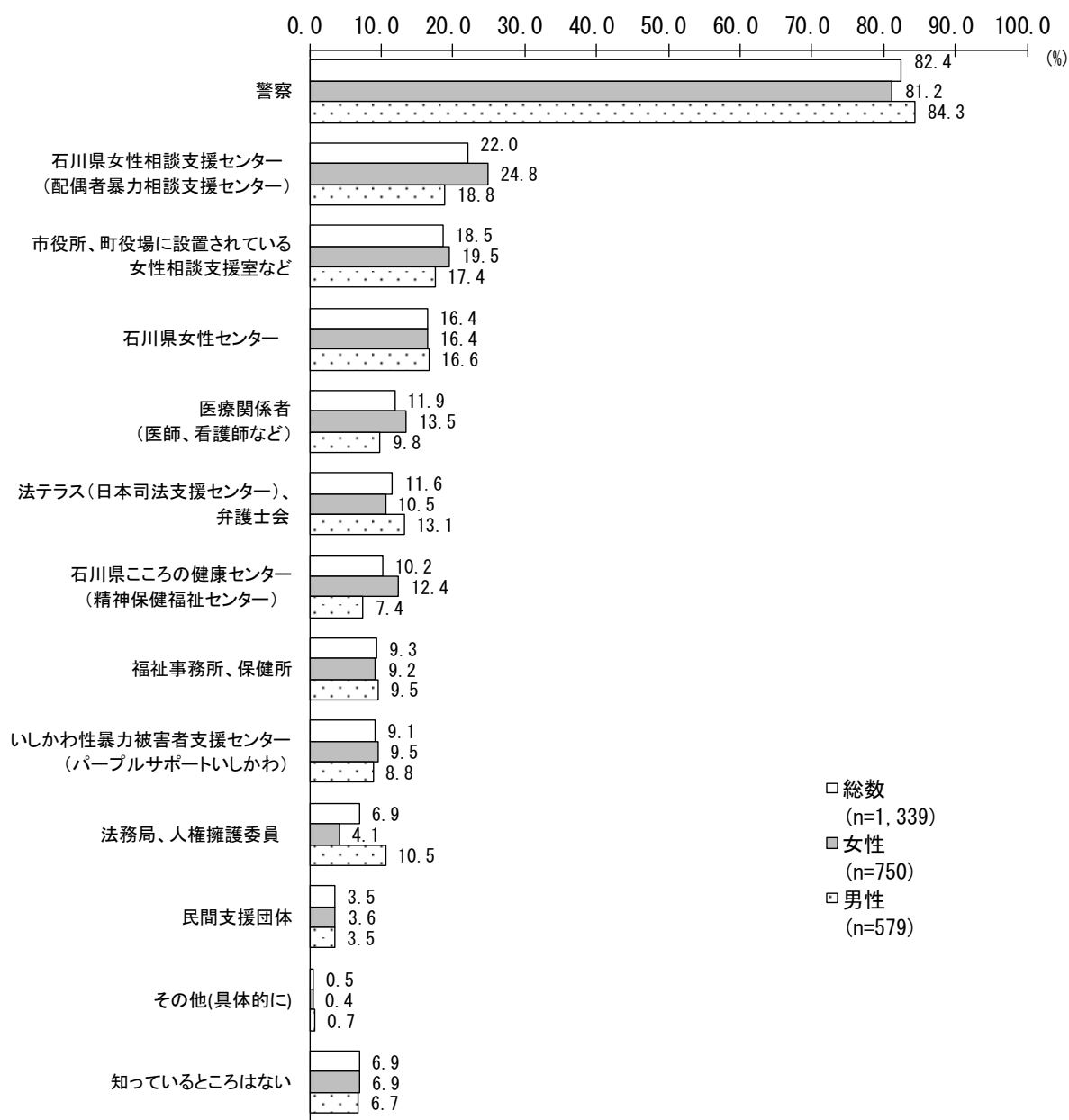


1 1 相談機関・関係者の周知状況

問23 DVや性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

男女とも最も多かったのは「警察」(女性81.2%、男性84.3%)であった。
 次いで、男女ともに「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(女性24.8%、男性18.8%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(女性19.5%、男性17.4%)、「石川県女性センター」(女性16.4%、男性16.6%)の順となっている。

図 23-1 相談機関・関係者の周知状況 (性別)



【年代別】

男女ともすべての年代で「警察」が最も多い。

次いで、女性では、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が60代（32.9%）で多くなっている。

男性では、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」が30代（21.3%）と40代（22.1%）で多くなっている。

【地域別】

男女ともにすべての地域で「警察」が最も多い。

女性では、能登北部（24.4%）と石川中央（26.8%）で「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が多い。

男性では、能登中部（21.8%）と南加賀（21.8%）で「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」が多く、石川中央（21.3%）で「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が多い。

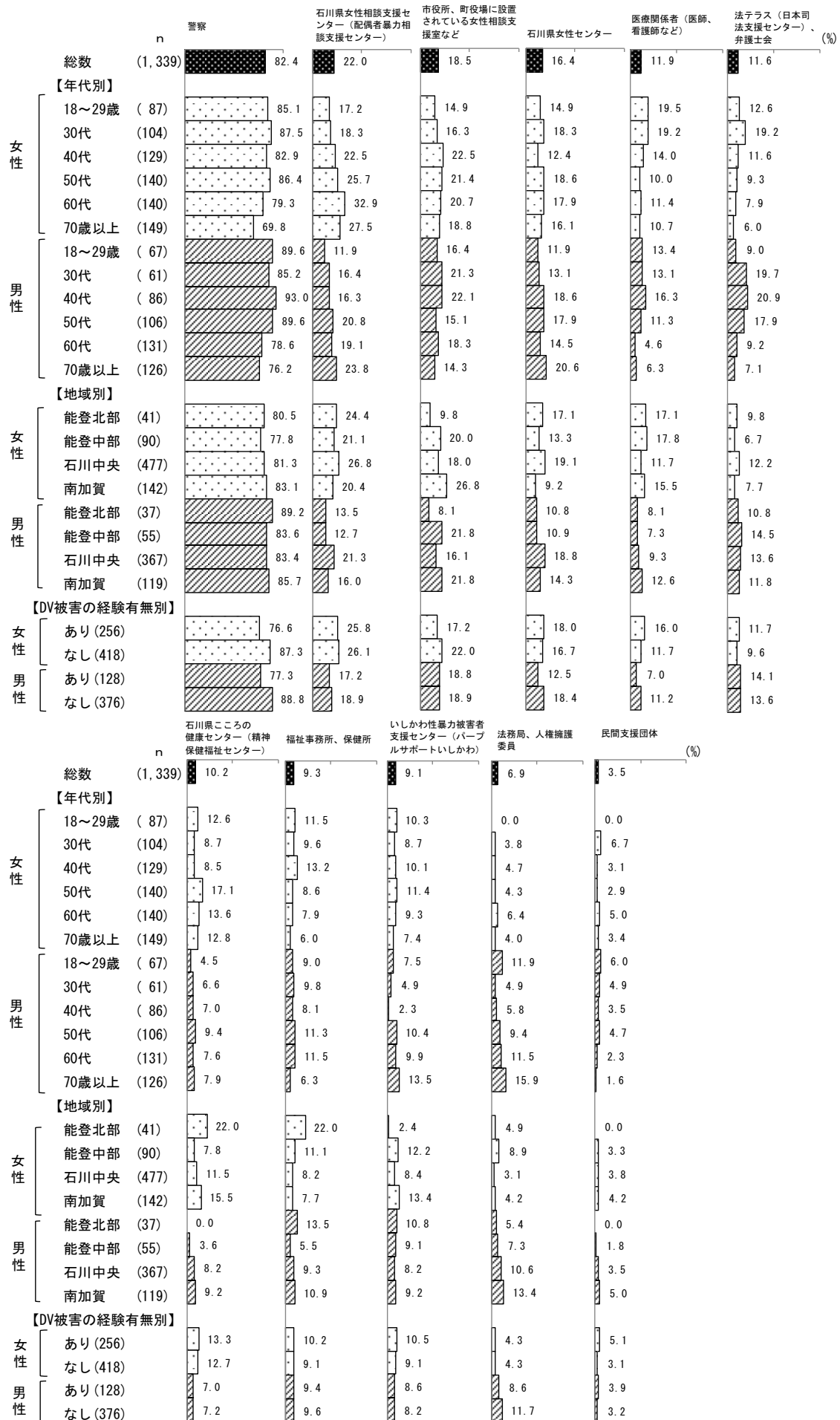
【DV被害の経験有無別】

男女ともにすべての層で「警察」が最も多い。

また、「警察」、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」については男女ともに被害経験のない層の方が多くなっている。

※【DV被害の経験有無別】は、問20または21で『被害を受けたことがある』と回答した人別の集計である。

図 23-2 相談機関・関係者の周知状況 (年代別、地域別、DV被害の経験有無別)



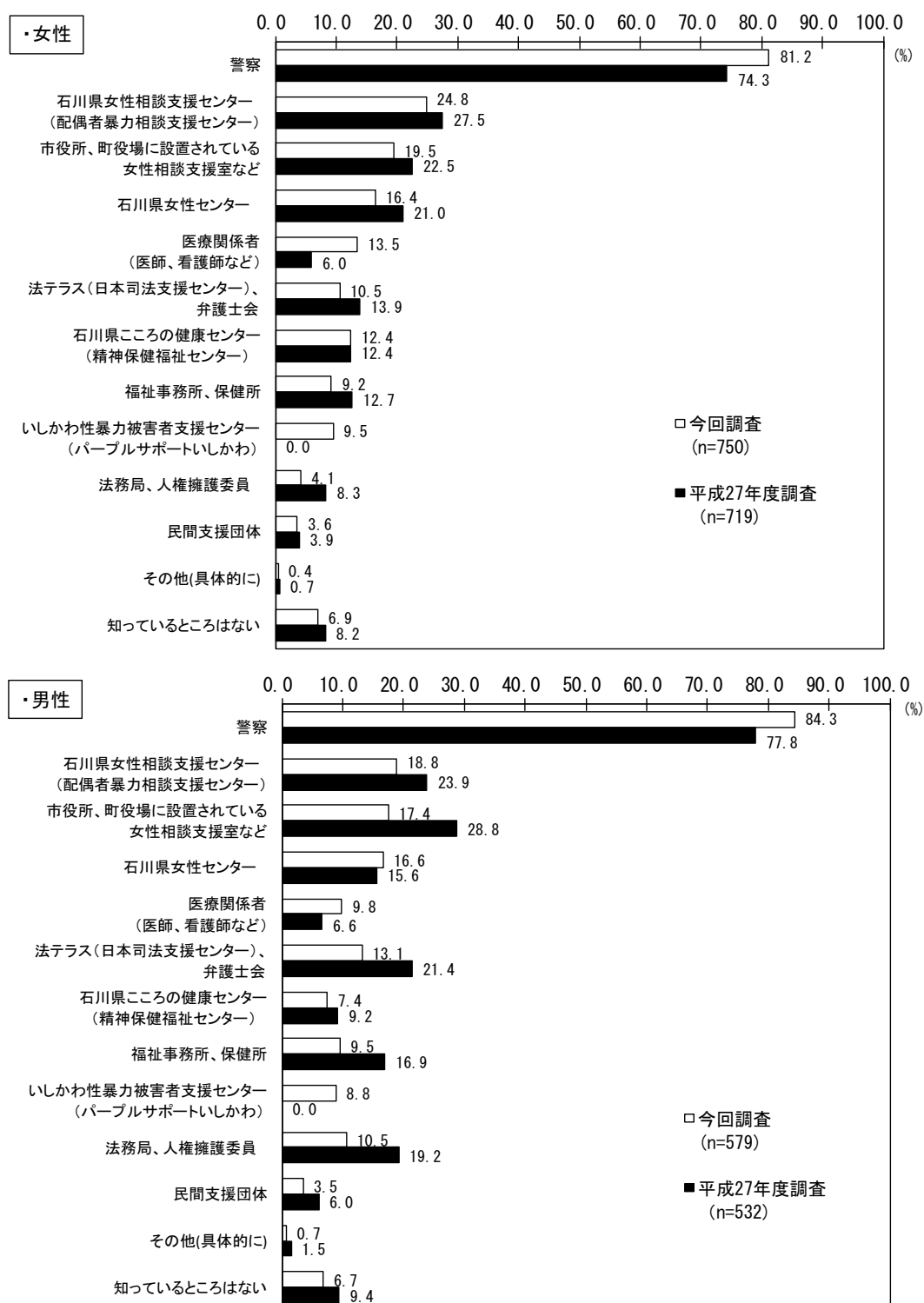
【平成27年度調査との比較】

女性では「警察」、「医療関係者」の項目が前回調査より増加している。

男性では「警察」、「石川県女性センター」、「医療関係者」の項目が前回調査より増加している。

(平成27年度調査では設問を「配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から暴力を受けたとき」としており、また、選択肢に新たに「いしかわ性暴力被害者支援センター(パープルサポートいしかわ)」を追加するなど一部異なるものがあることから、厳密な比較はできない。)

図 23-3 相談機関・関係者の周知状況 (平成 27 年度調査との比較)



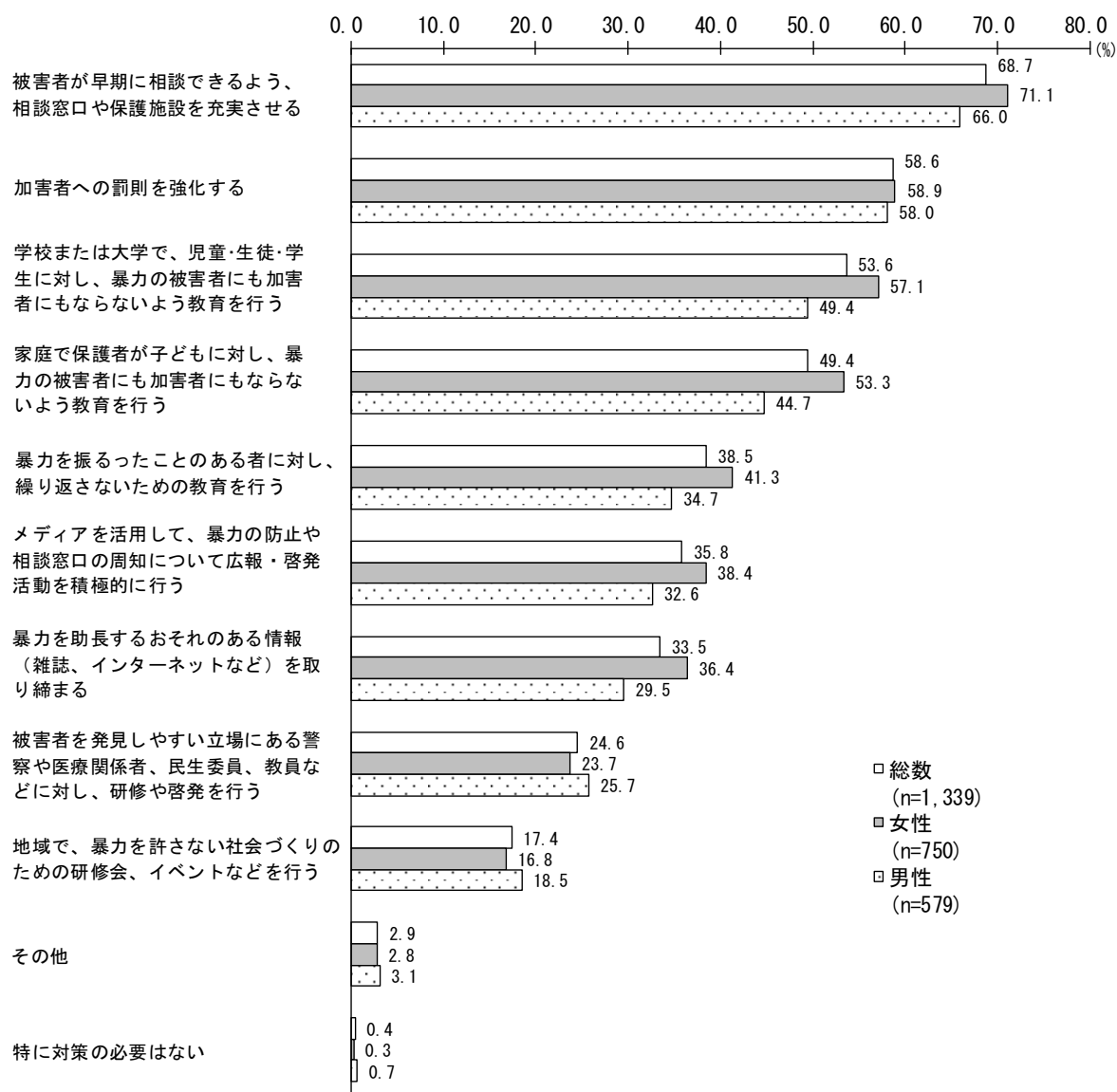
12 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと

問24 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」(女性71.1%、男性66.0%、全体68.7%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(女性58.9%、男性58.0%、全体58.6%)、「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(女性57.1%、男性49.4%、全体53.6%)の順となった。

男女の差が大きいものとしては、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(8.6ポイント差)と「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(7.7ポイント差)で女性のポイントが多くなっている。

図24-1 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと(性別)



DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと

【年代別】

女性では「加害者への罰則を強化する」が30代（76.0%）、40代（69.0%）で最も多くなっている。他の年代では「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

男性ではいずれの年代でも「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

【DV被害の経験有無別】

男女とも、いずれの層でも「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

※【DV被害の経験有無別】は、問20または21で『被害を受けたことがある』と回答した人別の集計である。

図 24-2 DV や性暴力等の暴力をなくするために必要なこと（年代別、DV 被害の経験有無別）

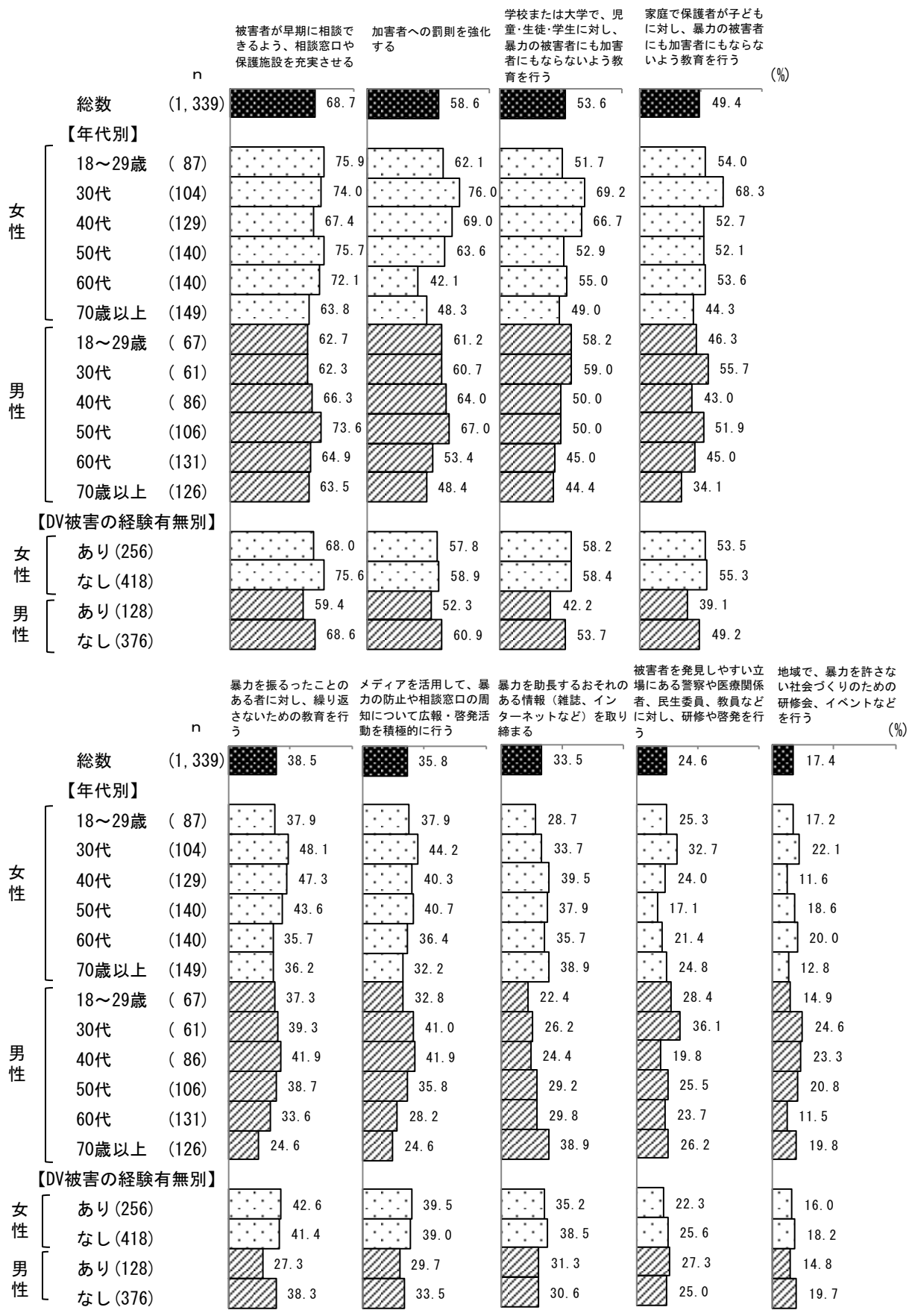


図24-3 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと（性・地域別）

(単位：%)

		サンプル数	被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる	加害者への罰則を強化する	学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う	家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う	暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う	メディアを活用して、暴力の防止や相談窓口の周知について広報・啓発活動を積極的に行う	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者、民生委員、教員などに対し、研修や啓発を行う	地域で、暴力を許さない社会づくりのための研修会、イベントなどを行う	その他(具体的に)	特に対策の必要はない	
全体		1,339	68.7	58.6	53.6	49.4	38.5	35.8	33.5	24.6	17.4	2.9	0.4	
性×地域別	女性	能登北部	41	75.6	53.7	48.8	46.3	31.7	29.3	43.9	14.6	14.6	2.4	2.4
		能登中部	90	71.1	56.7	52.2	52.2	33.3	36.7	37.8	16.7	14.4	2.2	0.0
		石川中央	477	72.3	60.2	56.8	54.5	41.5	38.2	35.2	26.4	17.6	3.4	0.2
		南加賀	142	65.5	57.7	63.4	52.1	48.6	43.0	37.3	21.8	16.2	1.4	0.0
	男性	能登北部	37	70.3	51.4	43.2	43.2	27.0	29.7	29.7	27.0	18.9	2.7	0.0
		能登中部	55	67.3	56.4	49.1	47.3	32.7	30.9	34.5	27.3	16.4	1.8	0.0
		石川中央	367	64.9	59.1	49.9	46.6	35.1	34.3	30.2	27.0	18.5	2.7	1.1
		南加賀	119	67.2	57.1	49.6	38.7	37.0	29.4	25.2	20.2	19.3	5.0	0.0

※グレーのセルは属性中トップの項目